

3. 調査の結果

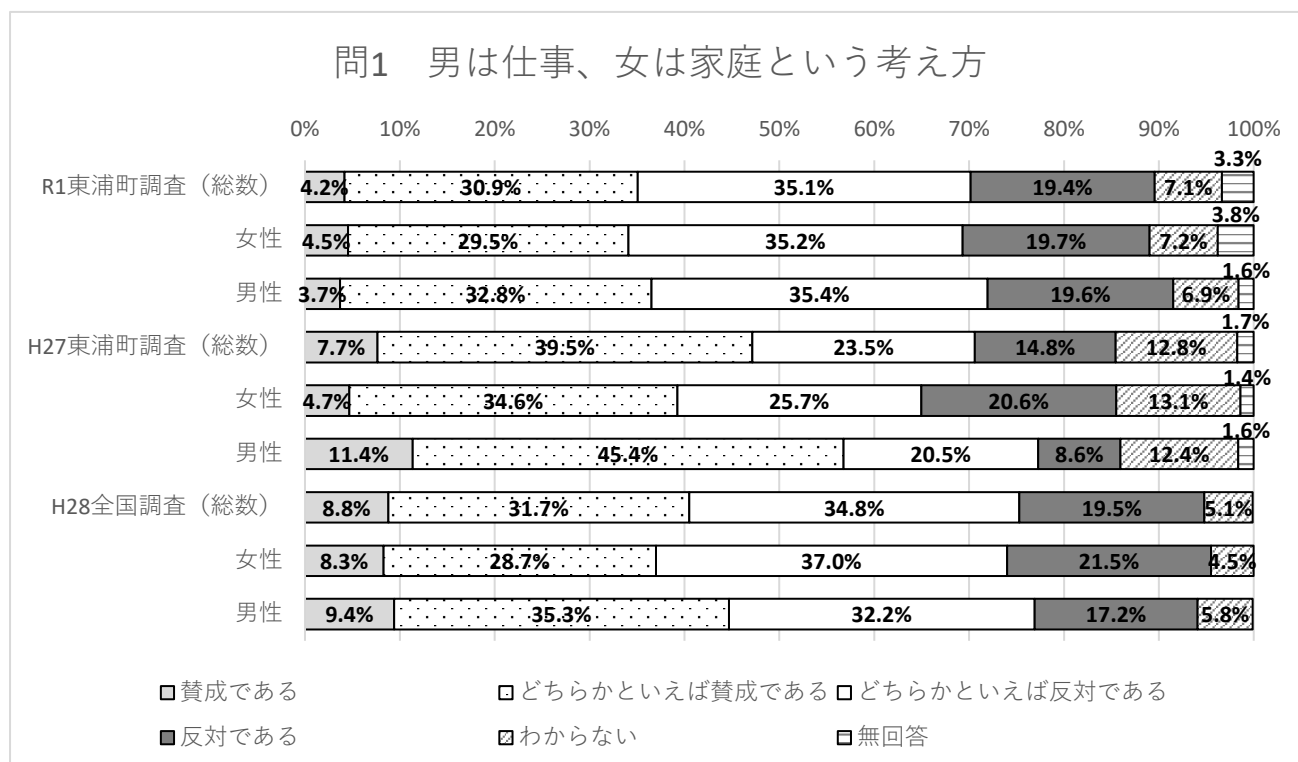
(1)「男女共同参画」の意識、家庭、地域活動について

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。（単数回答）

性別で見ると、男女ともに「どちらかといえば反対である」の割合が最も高くなっています。

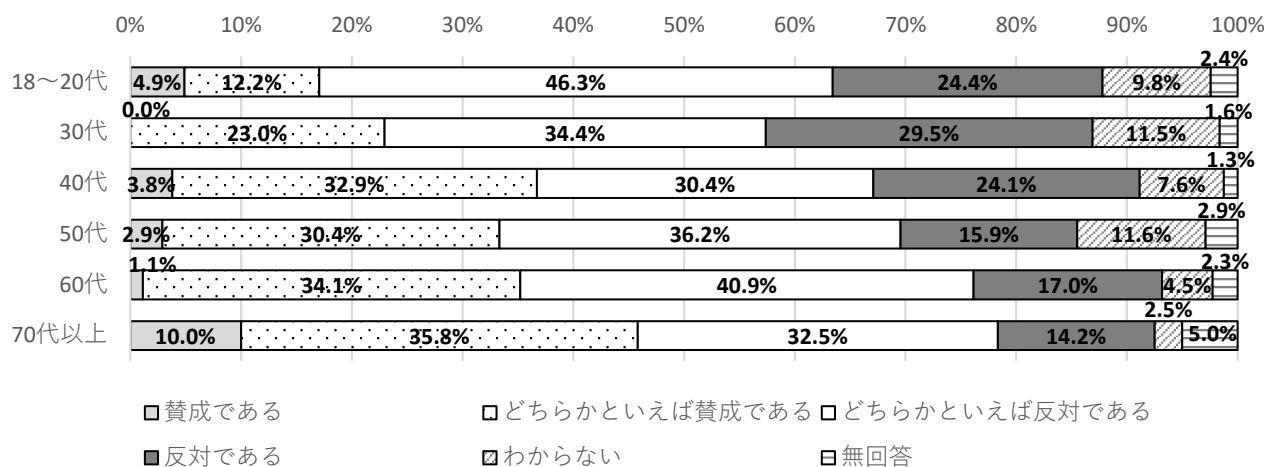
また、賛成派（賛成である・どちらかといえば賛成である）は女性が34%、男性が36.5%、反対派（反対である・どちらかといえば反対である）は女性が54.9%、男性が55.0%となっており、前回調査と比較して、男女間での差が少なくなっています。

国の調査と比較すると、東浦町では「賛成である」と答えた人の割合は少なくなっています。



年代別で比較すると、全ての年代において「反対派」が「賛成派」を上回っていますが、70代以上においては賛成派が45.8%、反対派が46.7%と、ほぼ同数となっています。最も「賛成派」と「反対派」の差が大きいのは18歳～20代で、「賛成派」が17.1%、「反対派」が70.7%と、反対派が賛成派の約4倍の割合を占めています。

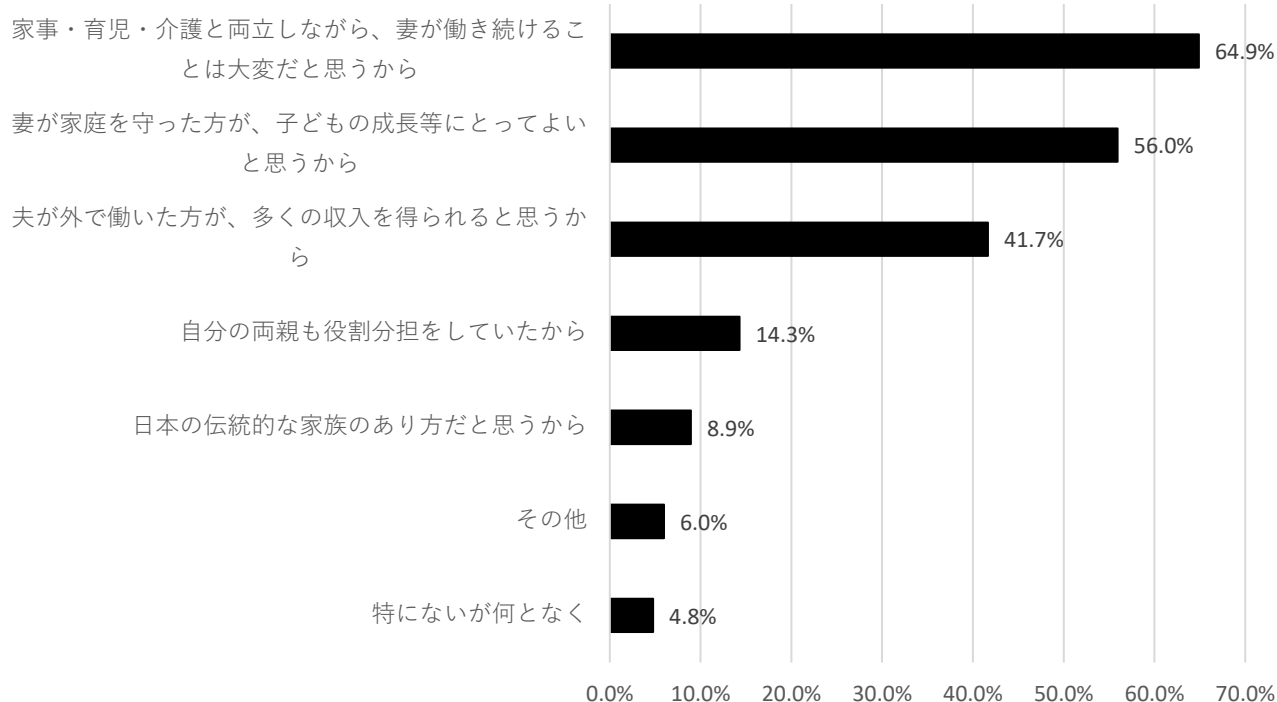
問1 男は仕事、女は家庭という考え方（年代別）



問2 問1で「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」と答えた方にお聞きします。それは、なぜですか。（複数回答）

「賛成派」の理由では、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と回答した人の割合が最も高く、妻が働いている場合でも、家事・育児・介護は妻が担うべきだという考えが根強くあることがうかがえます。

問2 賛成とする理由

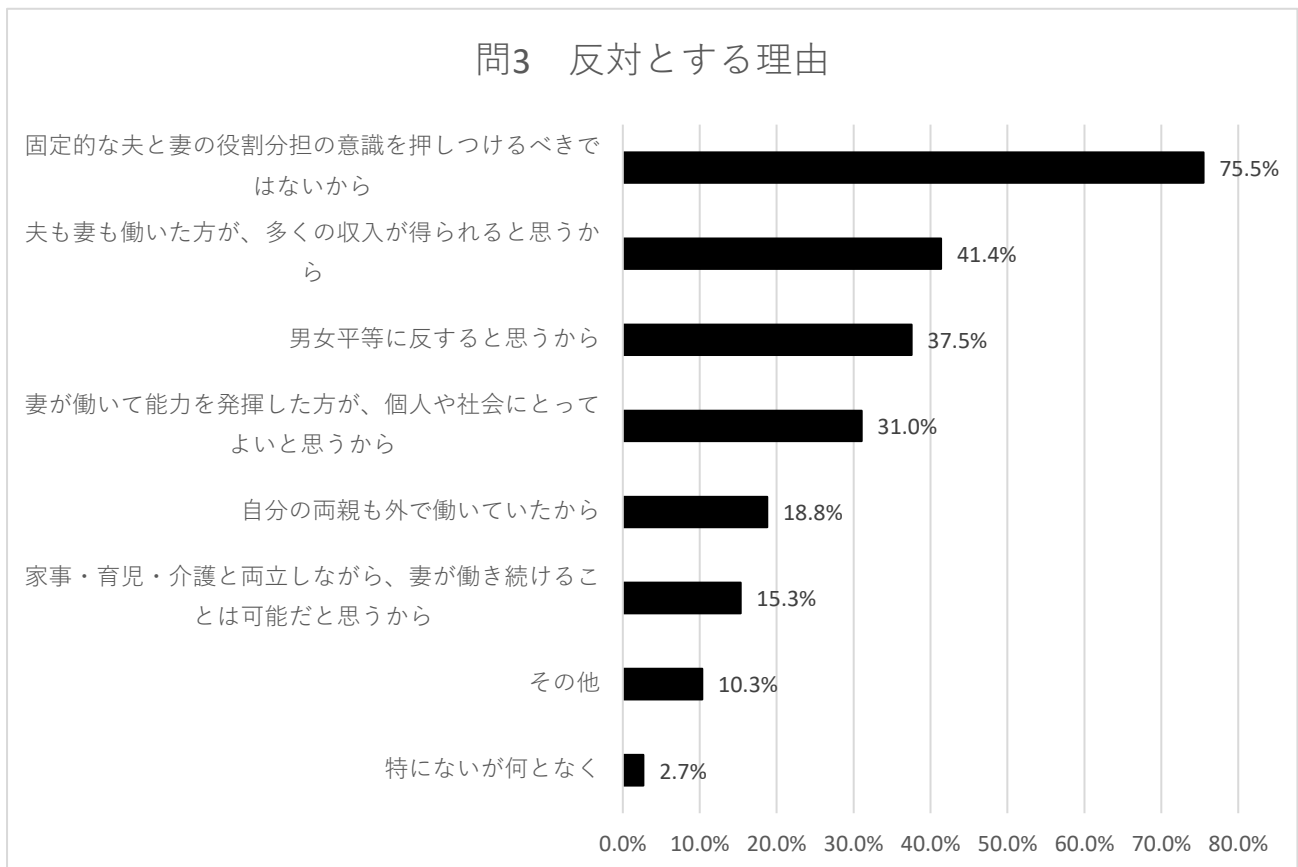


「その他」の記載内容

- ・ 子どもへの細やかな配慮は女のが上手な気がします（女性・40代）
- ・ 男女平等はあり得ないから（男性・40代）
- ・ 夫の家事能力が低いこと、夫婦での分担が片寄り妻の負担が大きくなるから（女性・40代）
- ・ 行動に制限がかかる女が外で仕事をするのは合理的でないと考えるから。（男性・18～20代）
- ・ まだ社会が男優先の仕組みが多いから（男性・50代）
- ・ 子どもに障がいがある場合、外で勤めるのが無理なことがあるから。（女性・40代）
- ・ 現状ではそう言わざるを得ない。このまま、平等論だけでは急激な人口減少で日本が成り立たなくなるのは見えている。平等という理屈だけの問題ではない。（男性・60代）
- ・ 人それぞれ考え方が違うので一概には言えないから（男性・70代以上）
- ・ 夫が働いている場合、家庭の時間が無い（男性・50代）
- ・ 家事は大変、それ以外にもお役所仕事は平日の日中に勤務されているので同じ公務員は中々手続き等行けない等雑務に動けない。（女性・60代）

問3 問1で「どちらかといえば反対である」「反対である」と答えた方にお聞きします。それは、なぜですか。（複数回答）

反対派の理由では、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が最も高くなっています。また、2番目に高い理由は「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」となっており、性別役割分業が人権問題及び経済問題として捉えられていることが分かります。



「その他」の記載内容

- ・ 家事や育児、介護は女だけでも男だけの仕事ではない。(女性・30代)
- ・ 男、女という切り分けをするメリットは今の時代において無いと思う (男性・30代)
- ・ 二人で農業をしているから (男性・70代)
- ・ 生活が苦しいから (性別・年齢未回答)
- ・ もし家のことを主でやっている女性が倒れたりした時、相手が家のことを分からないままではお互い困る。(女性・30代)
- ・ 性別で区別するのはよくない (男性・40代)
- ・ 楽しいから (女性・40代)
- ・ 家庭によっては経済的理由で働かなければならない (女性・60代)
- ・ 反対ではなく、自分の意見とは異なる。男は仕事、女は家庭の考え方を否定はしない。古来より男女の肉体的な特長を生かして、自然と決まってきた考え方だから。現代では、男女平等の観点から役割が入れ替わっても肉体的な特長の影響は受けないことが多い。(男性・50代)
- ・ その固定概念が古いと思うから。(女性・30代)
- ・ 考え方は自由だと思うから (女性・18～20代)
- ・ それぞれがやれることをやればよいから。それぞれ家庭の状況によって対応すれば良いと思うから。(女性・40代)
- ・ 男・女という考え方のみでなく、個々それぞれの事由 (健康上や能力で) があるのでそれに応じて考えればよいのではと思う (女性・60代)
- ・ GDP を維持するためには、男性の人口だけでは足りない。(男性・18～20代)
- ・ 子供が小学生になった頃から (女性・70代以上)
- ・ 働きたければ又は働く必要があれば働けばいいと思うから。(男性・30代)
- ・ 役割分担してほしいと思うがそうはいかない年代である。60代～ (女性・60代)
- ・ できることをそれぞれがやればよいだけと思う (女性・30代)
- ・ 資格を生かす事 (女性・70代以上)
- ・ 収入がある方が、権力を持つ傾向にある社会だから (女性・40代)
- ・ 家庭での役割や適性は、性別で決まるものではないと思うので。(女性・40代)
- ・ どちらかと決めることなく、お互いのやりたいようにやれば良い (男性・30代)
- ・ 役割を決めたり、協力することでコミュニケーションや思いやりができる (女性・18～20代)
- ・ お互いが出来る事をしたら良いと思うから (女性・50代)
- ・ 男だから女だからではなく個々の事情によるのでは…？ (女性・60代)
- ・ 私が小さい時兄弟が沢山いて (5人)、十分な生活環境ではなかったから。(女性・70代以上)

問4 社会や生活の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。（単数回答）

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高いのは、女性では「政治や行政」の77.3%、男性では「習慣・しきたり」の67.8%です。

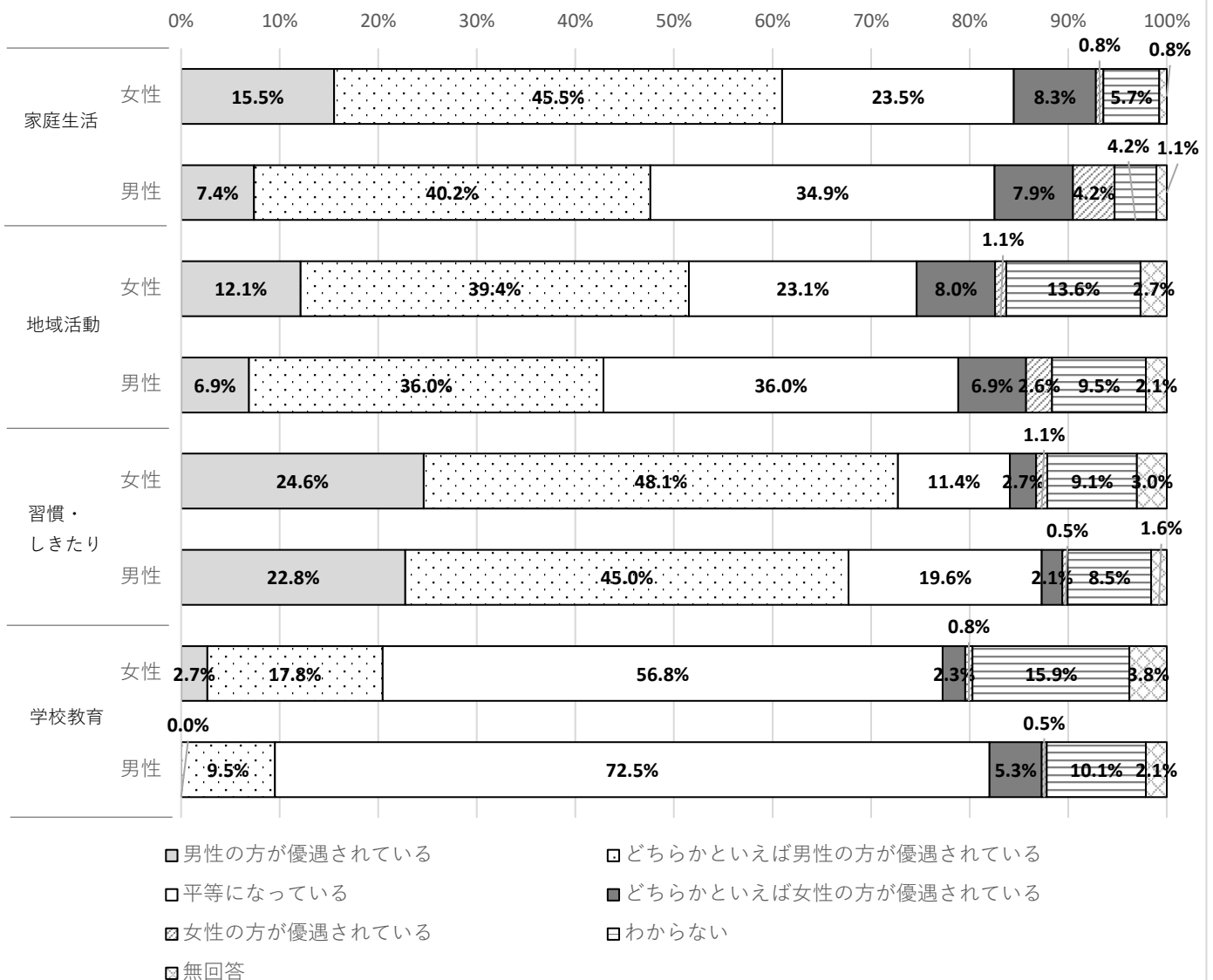
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の男女の差が最も大きいのは「政治や行政」の項目で、女性が77.3%に対し男性は63.5%となっており、13.8%の差があります。

男女の地位が「平等になっている」の割合が最も高いのは、男女ともに「学校教育」の項目です。

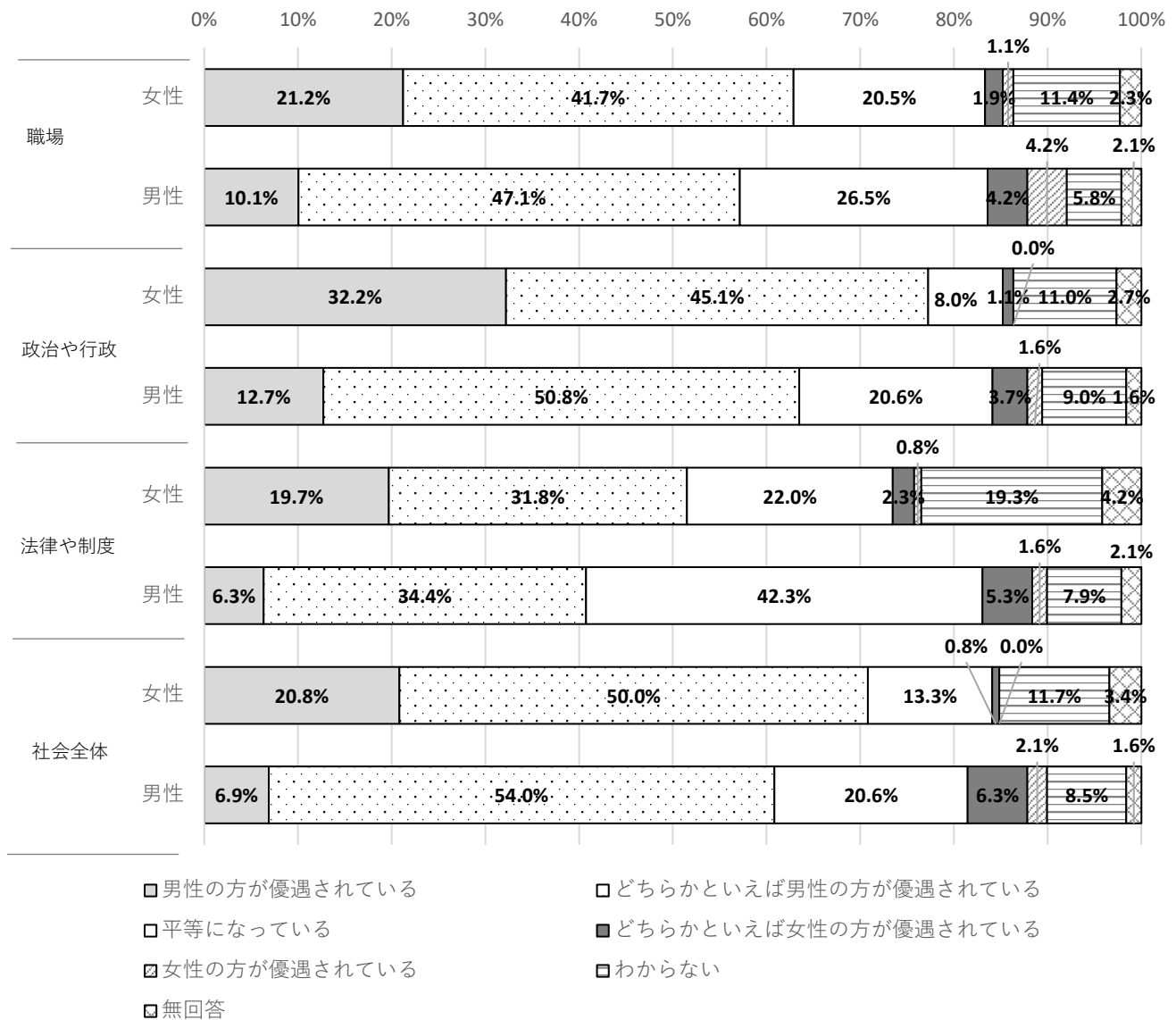
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合は最も低くなっていますが、女性が20.5%、男性が9.5%と、女性の割合は男性の約2倍となっています。

「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっているのは、男女ともに「家庭生活」の項目で、女性が9.1%、男性が12.1%となっています。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の男女差が最も大きいのは「社会全体」の項目で、女性が0.8%、男性が8.4%で7.6%の差があり、男性の回答割合は女性の10.5倍となっています。

問4 男女の地位の平等感

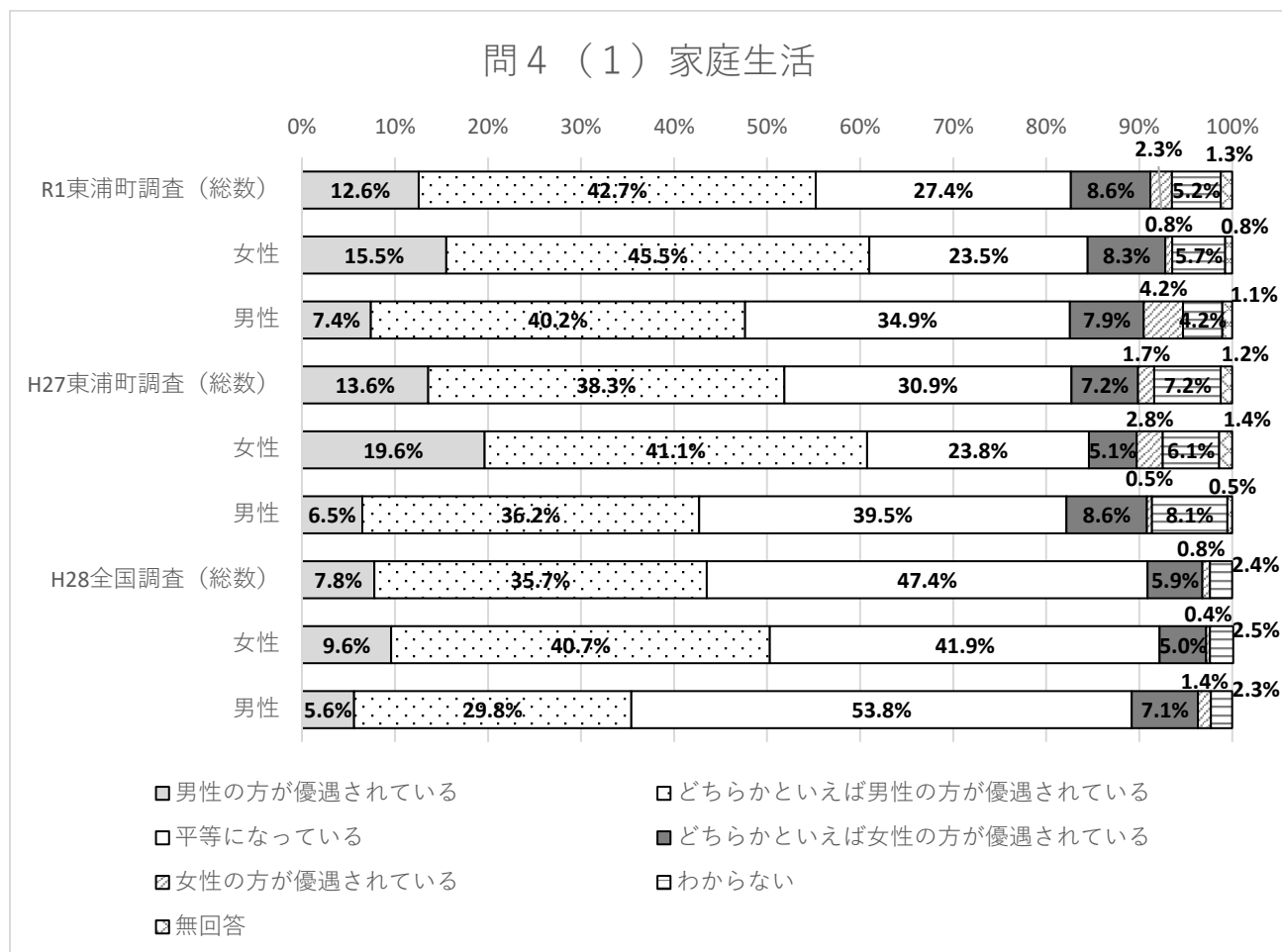


問4 男女の地位平等感



（１）家庭生活では

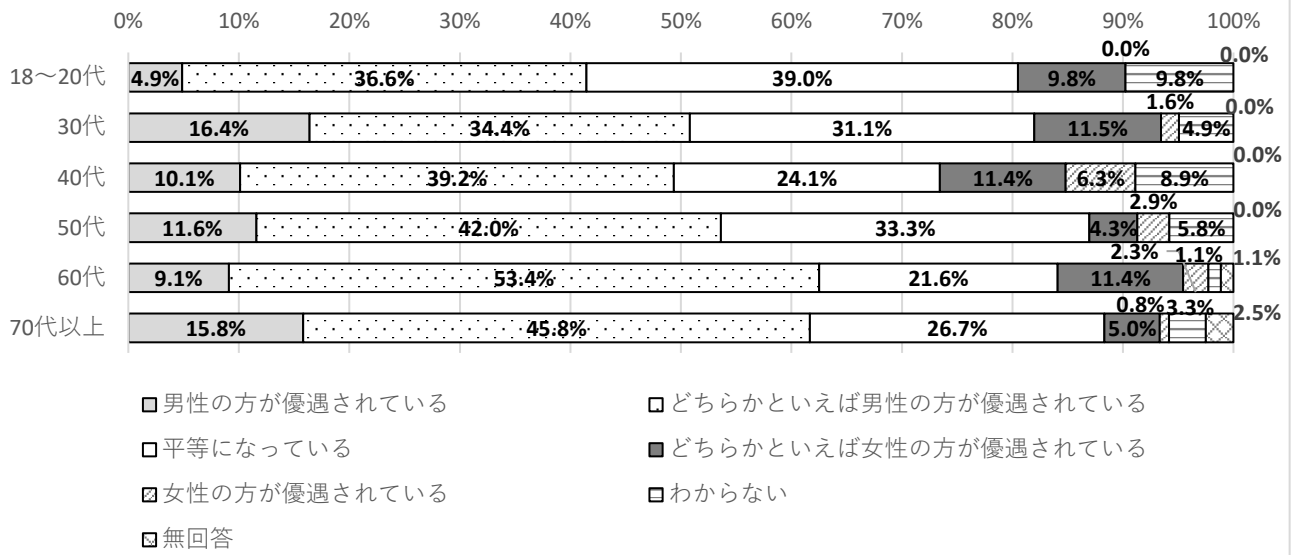
「家庭生活」の項目では、全国調査と比較して「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっています。また、「平等になっている」と回答した割合は、全国調査と比較し20%低くなっています。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合は、全国調査と同程度となっています。



年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、概ね年代が上がるとともに高くなる傾向にあります。また、「男性の方が優遇されている」の割合は30代と70代以上で高くなっています。

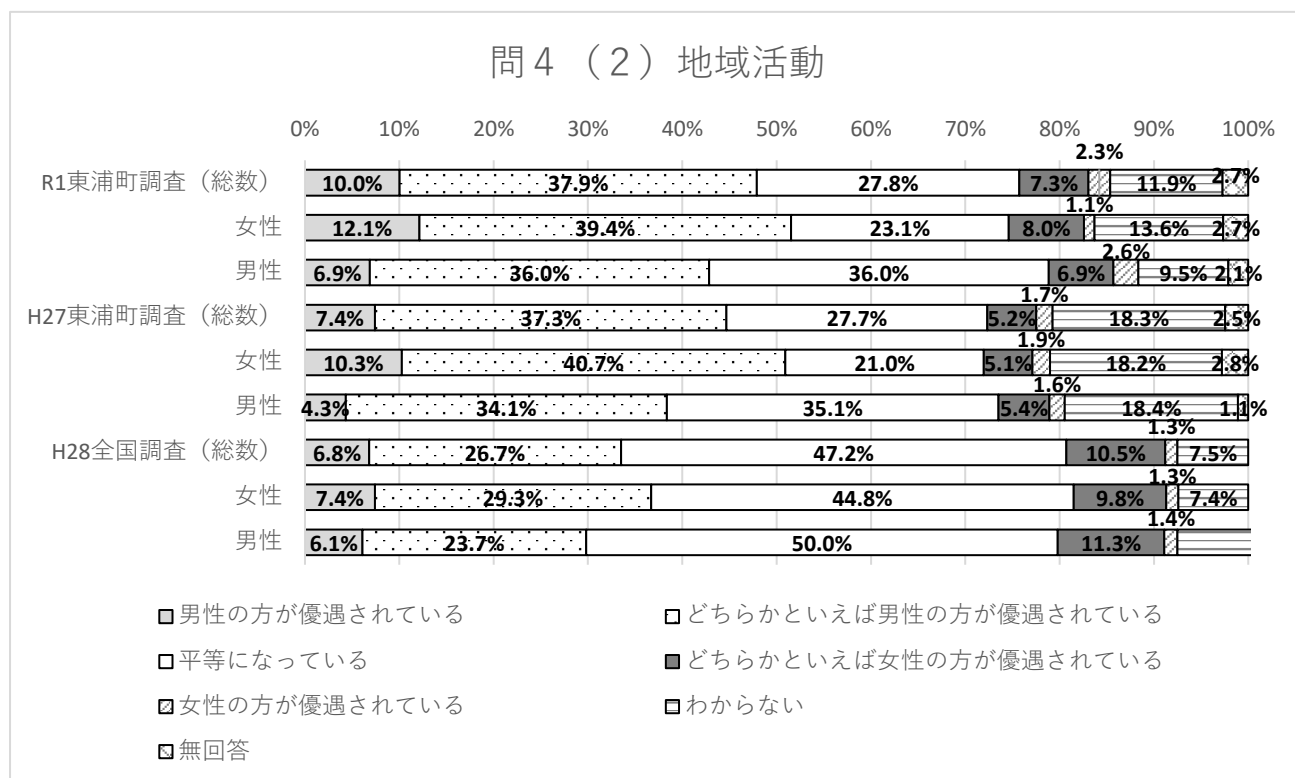
「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合は30代が13.1%で最も高く、最も低い70代以上の5.8%の約3倍の割合を占めています。

問 4 （1）家庭生活（年代別）



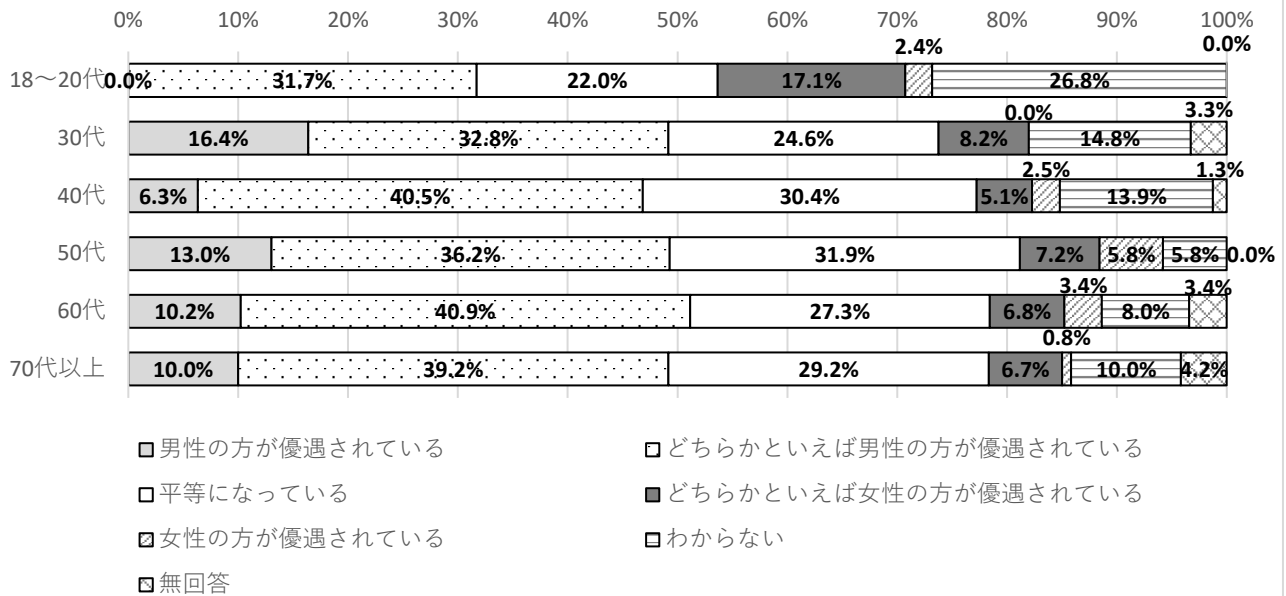
（２）地域活動では

地域活動の項目では、前回調査と大きな変化はありませんが、全国調査と比較すると「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が高い傾向にあり、「平等になっている」と回答した人の割合は約20%低くなっています。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、前回調査よりは増加していますが、全国調査よりは低い傾向にあります。



年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、30代から70代以上まででほぼ同程度となっています。「平等になっている」と回答した割合は、18～20代が最も低くなっています。また、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合は20代で19.5%と最も高くなっており、7.5%と最も低い70代以上の2.6倍となっています。

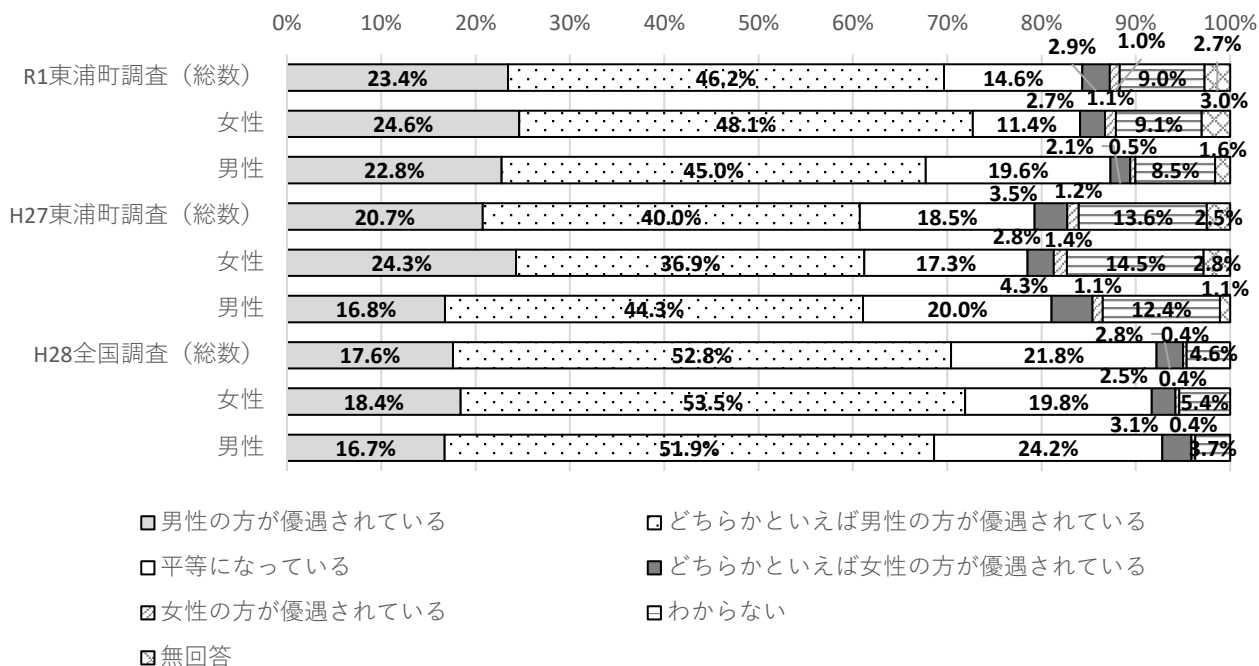
問4（2）地域活動（年代別）



（3）習慣・しきたりでは

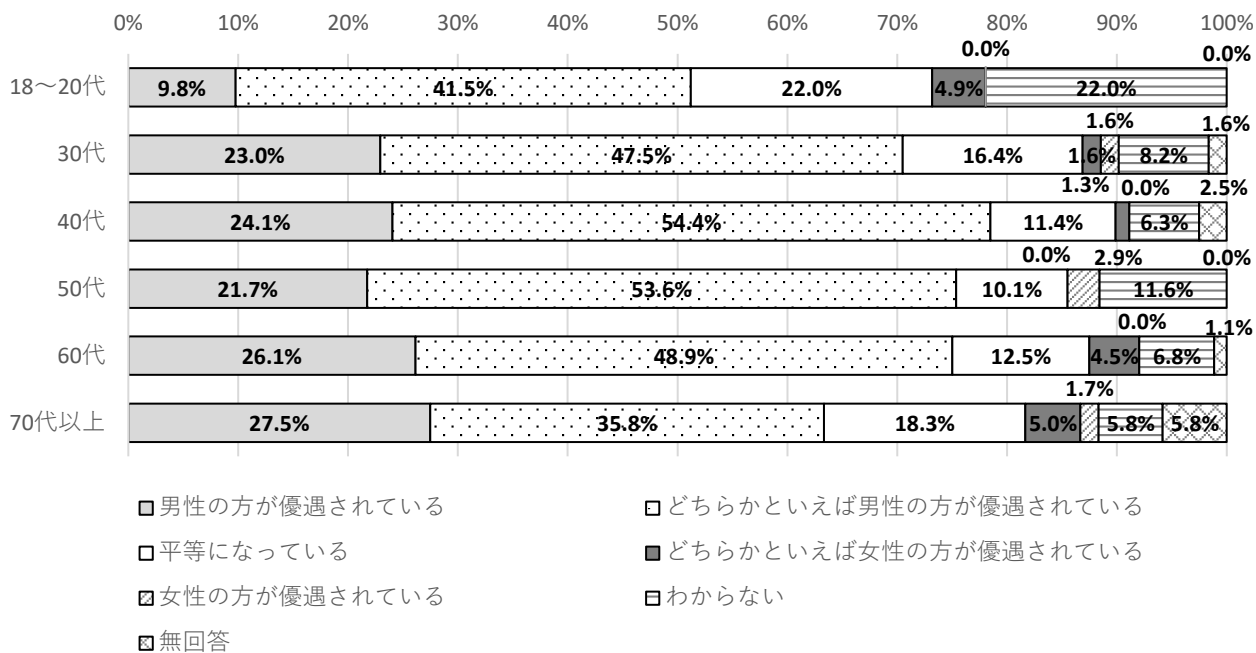
習慣・しきたりの項目は東浦町調査・全国調査ともに「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が高く、約70%前後となっています。また、東浦町の前回調査と比較して割合が増加しており、「平等になっている」と回答した人の割合は前回より減少しています。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、全国調査とほぼ同程度になっています。

問4（3）習慣・しきたり



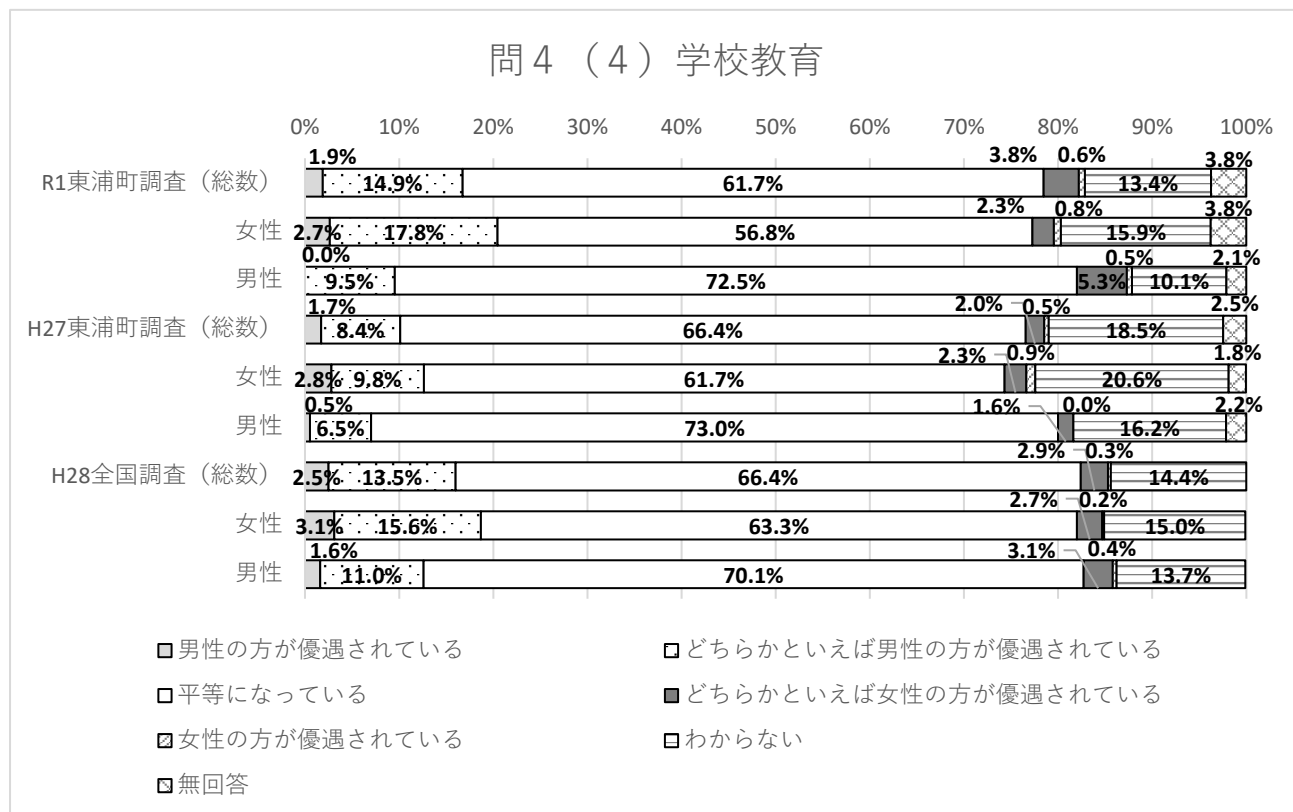
年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、40代でもっとも高くなっています。

問4（3）習慣・しきたり（年代別）



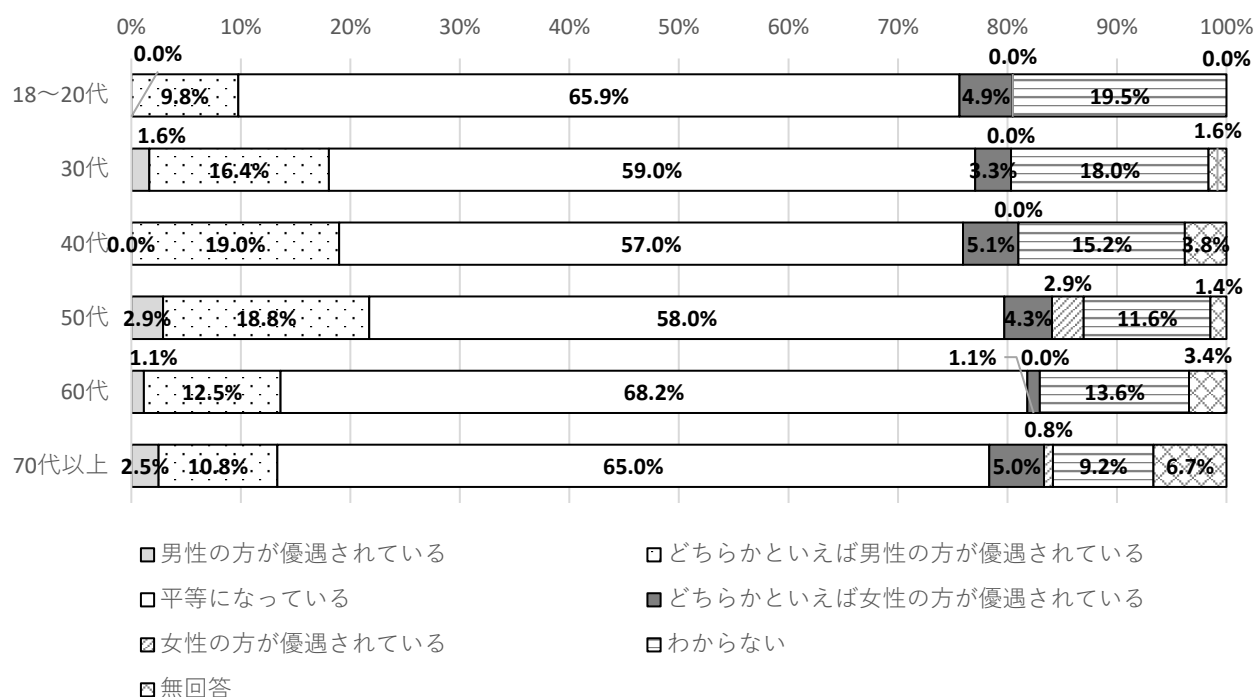
（４）学校教育では

学校教育の項目は、８項目中もっとも「平等になっている」と回答した人の割合が高くなっていますが、前回調査と比較すると４.７％減少しています。また、前回調査と比較して「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が６.７％増加し、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合が１.９％増加しています。



年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっているのは５０代で、２１.７％です。また、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっているのも同様に５０代で、７.２％となっています。

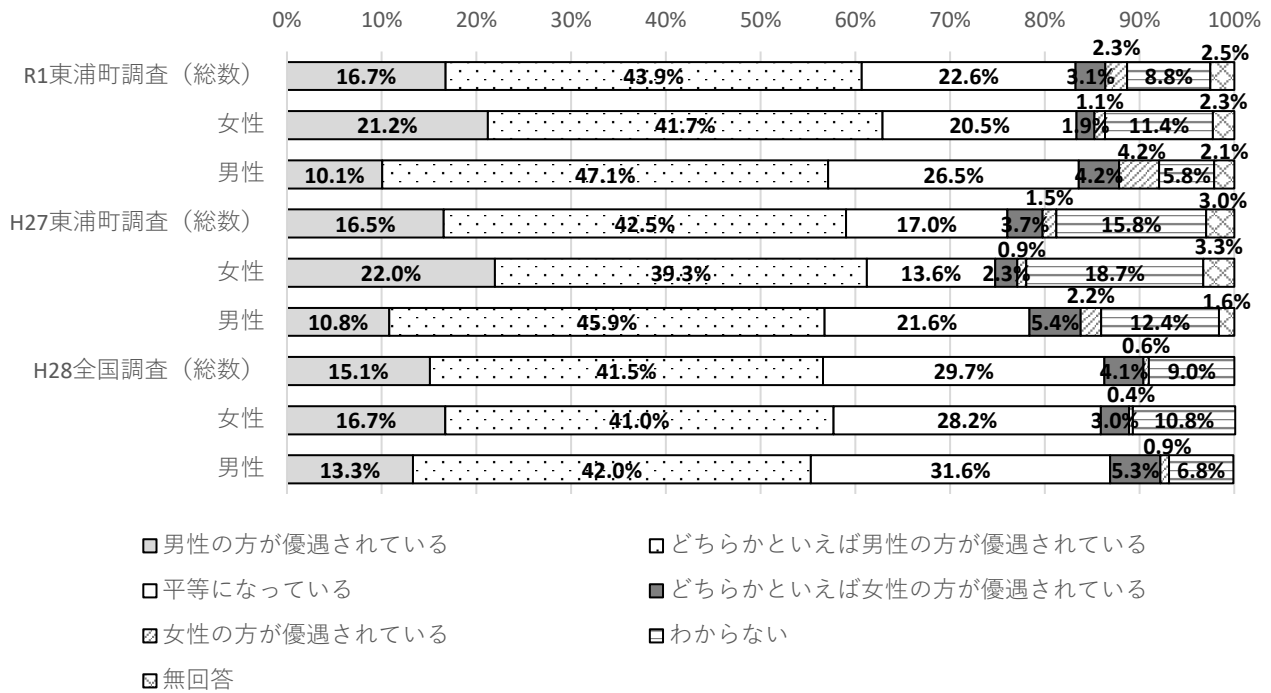
問4（4）学校教育（年代別）



（5）職場では

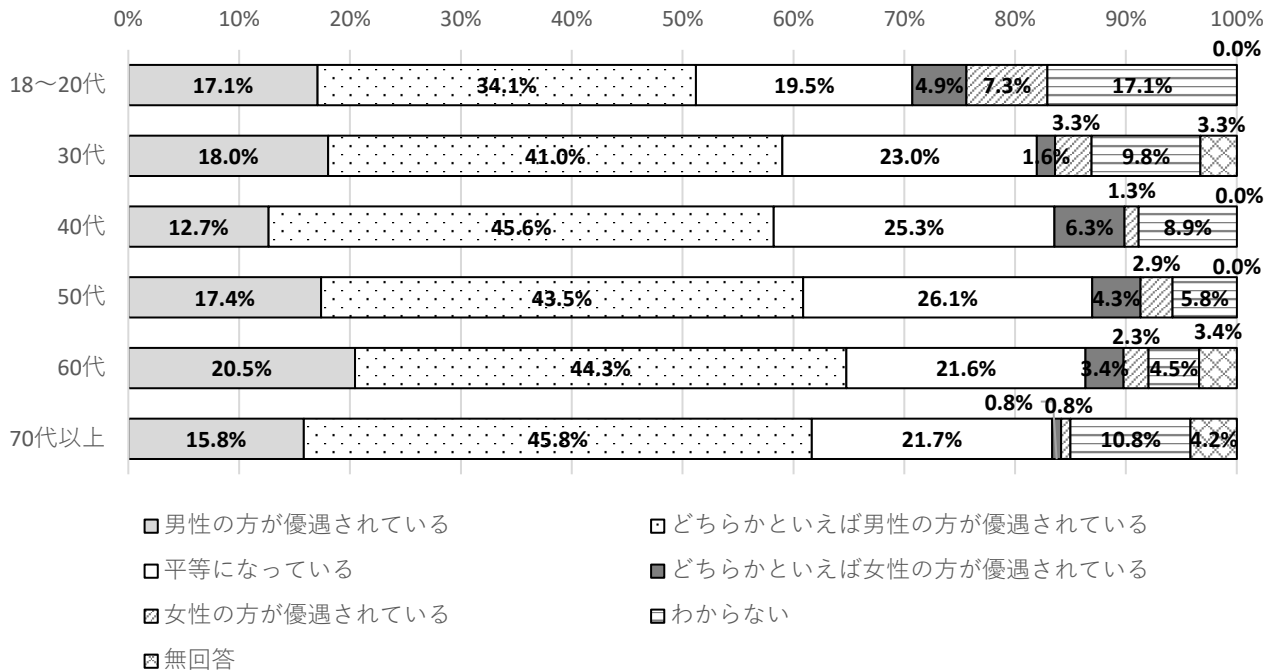
職場の項目では、前回調査と比較して「平等になっている」と答えた人の割合は増加していますが、全国調査と比較すると低い数値となっています。「男性の方が優遇されている」と回答した人は、前回調査と同様女性の割合が男性の割合の約2倍となっています。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、前回調査と同程度となっています。

問4（5）職場



年代別に見ると、「平等になっている」と回答した人の割合は18～20代が最も低くなっています。

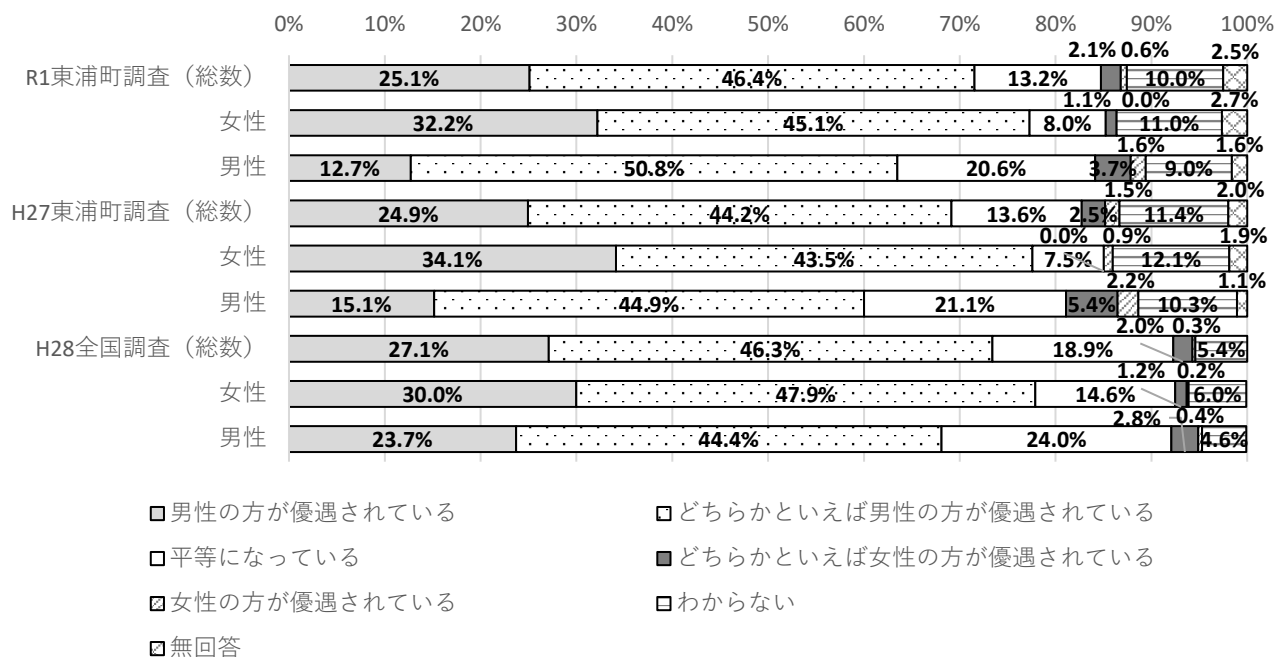
問4（5）職場（年代別）



（６）政治や行政では

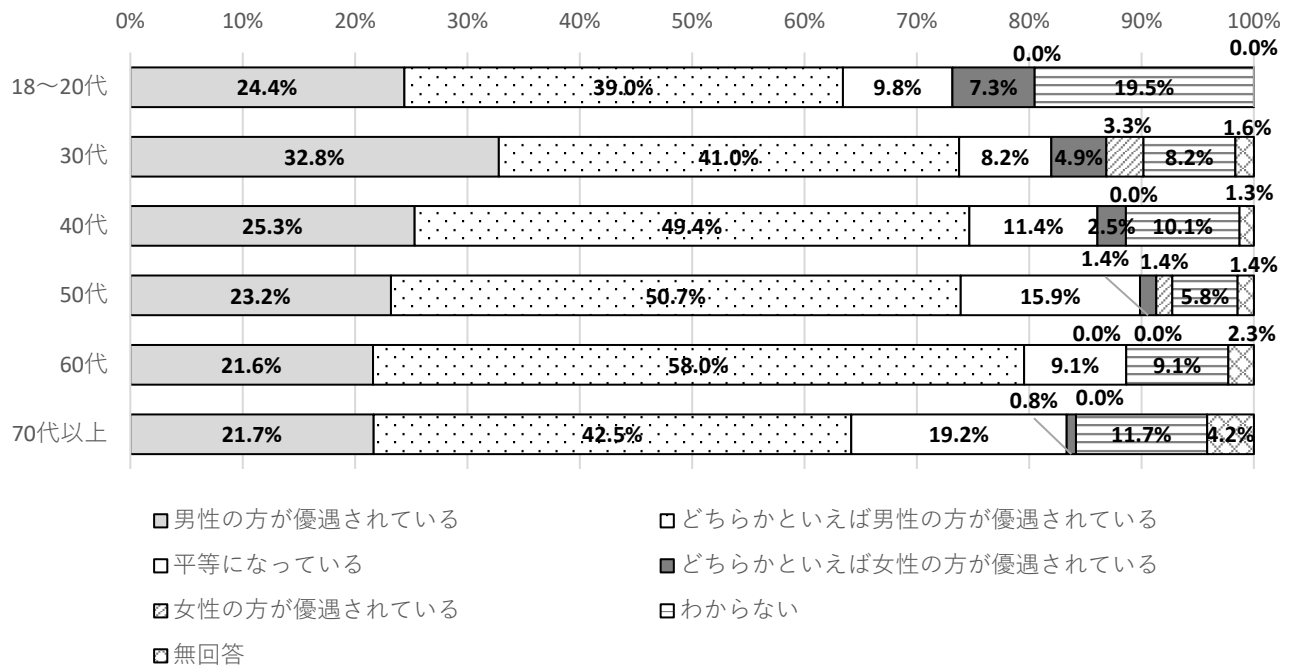
政治や行政の項目では、前回調査と同様「男性の方が優遇されている」と回答した女性の割合が男性の割合と大きな差があります。「平等になっている」と回答した人の割合は、全国調査と比較して、やや低くなっています。

問４（６）政治や行政



年代別に見ると、「平等になっている」と回答した人の割合が最も高いのは70代以上の19.2%、最も低いのは30代の8.2%で、11%の差があります。

問4（6）政治や行政（年代別）

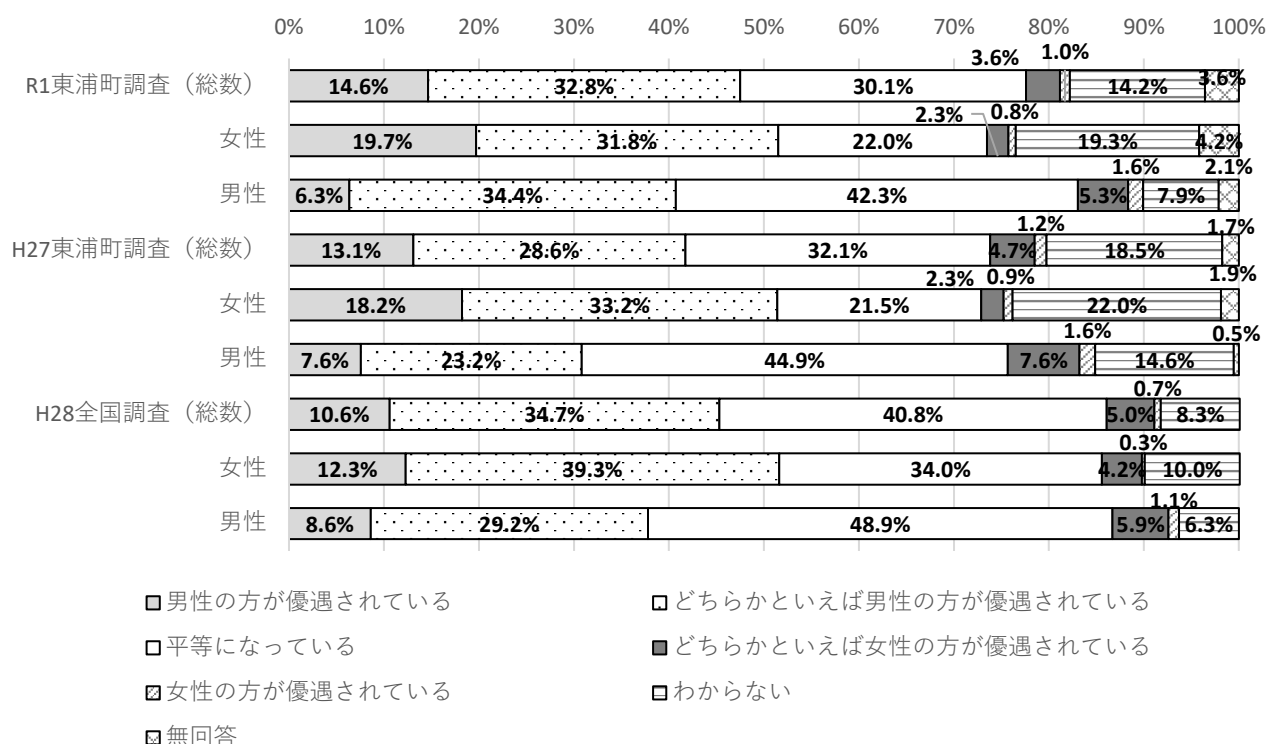


（7）法律や制度

法律や制度の項目では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が前回調査より 5.7%増加しています。「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した女性の割合は前回調査と同程度ですが、男性は約 10%増加しています。

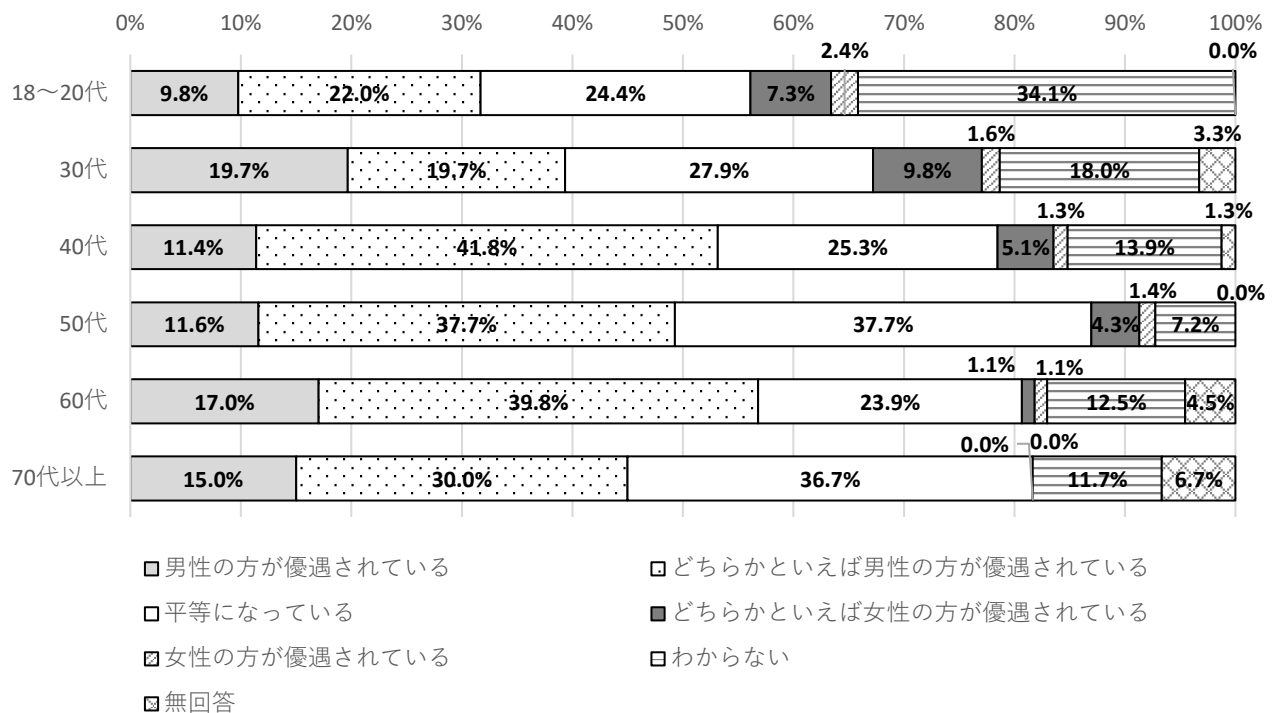
「平等になっている」と回答した人の割合は 30.1%で前回調査より 2%減少しており、全国調査の 40.8%と比較しても低い数値となっています。

問 4 （7）法律や制度



年代別に見ると、18～20代では「わからない」と回答した人の割合が高く、全体の34.1%を占めています。「平等になっている」と回答した人の割合が最も低いのは60代で、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合も最も高くなっています。

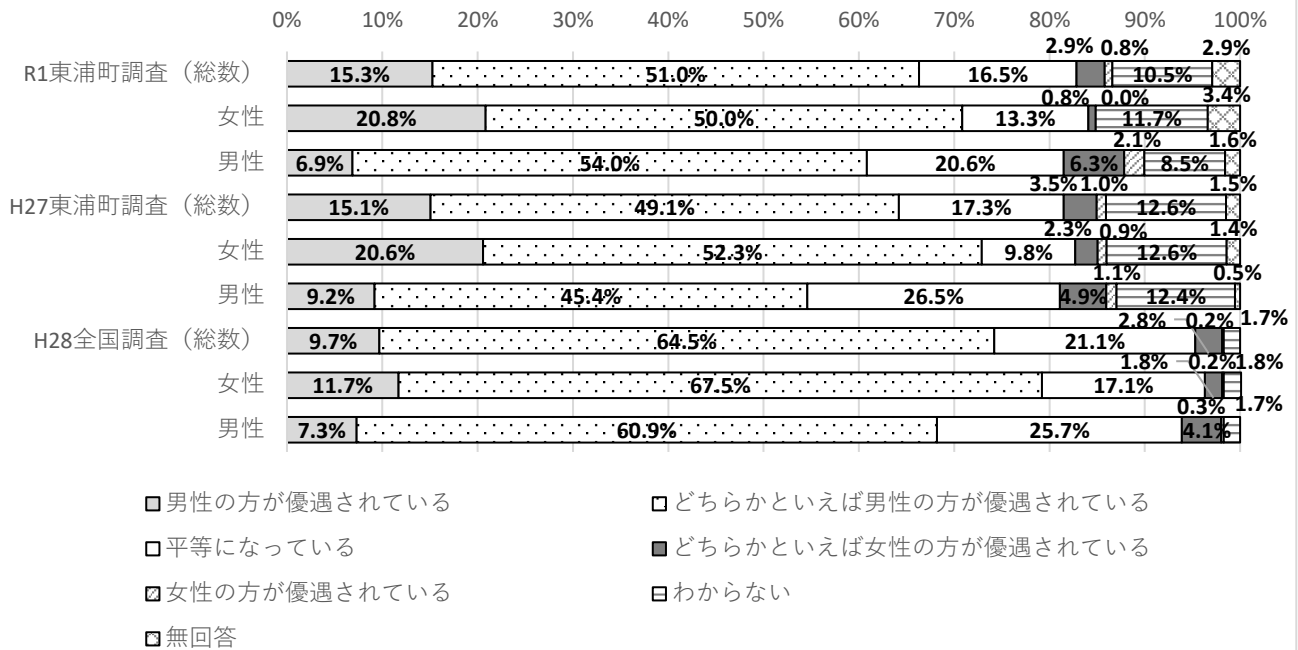
問4（7）法律や制度（年代別）



（8）社会全体では

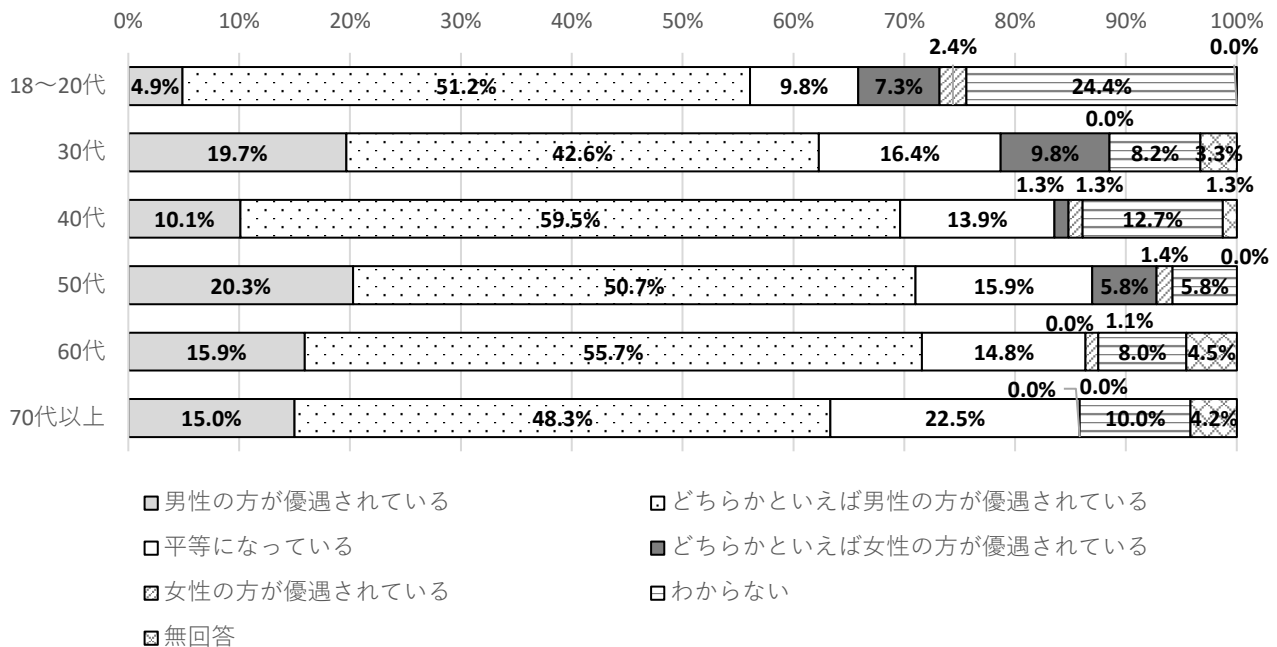
「社会全体」の項目では、「平等になっている」と回答した人の割合は前回調査よりやや減少しており、全国調査と比較しても低い数値となっています。

問4（8）社会全体



年代別に見ると、「平等になっている」と回答した人の割合が最も低いのは18～20代の9.8%です。

問4（8）社会全体



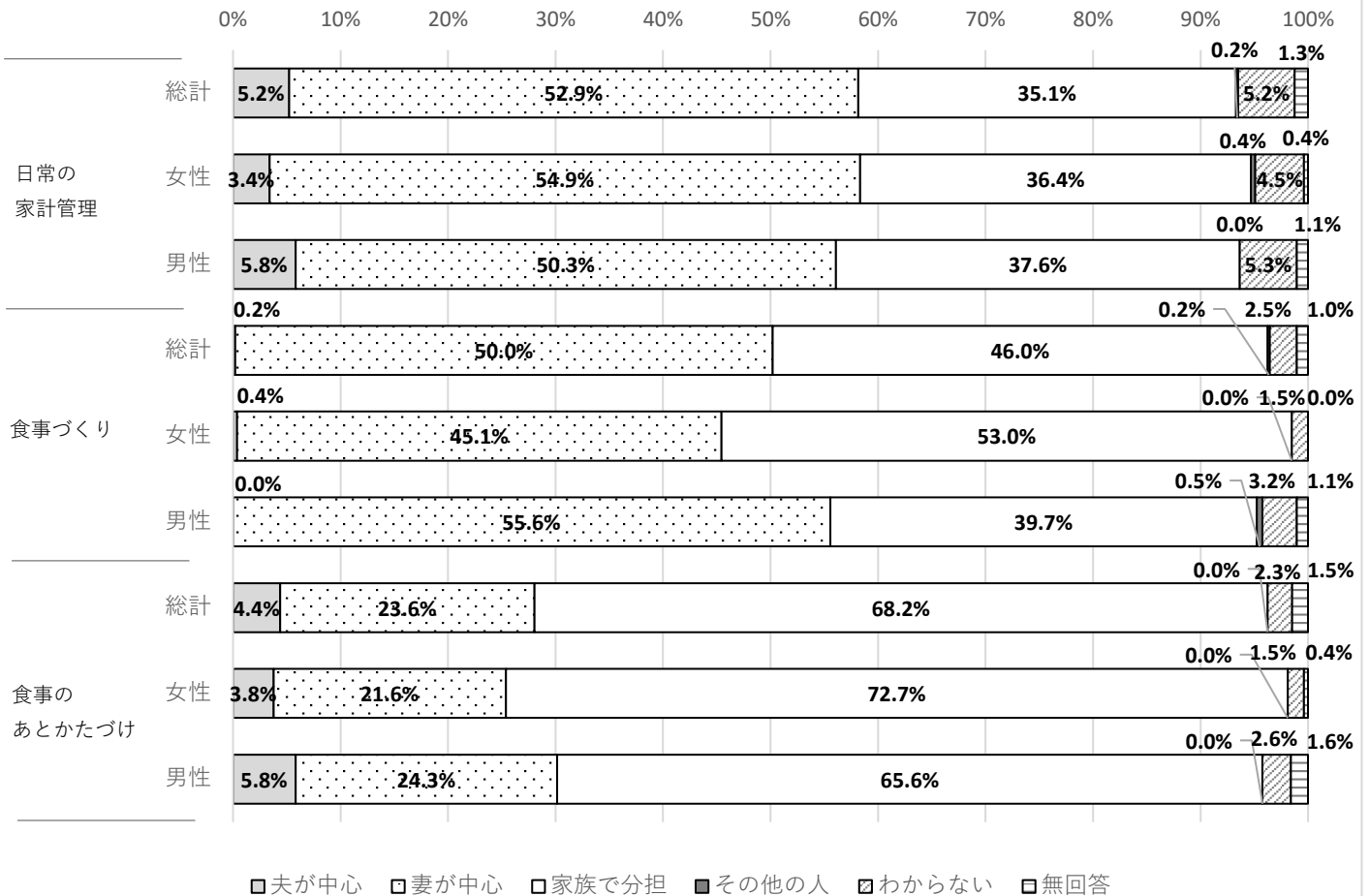
問5 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。（単数回答）

「夫が中心」と回答した人の割合が最も高くなっている家事は「ゴミだし」で、全体の23%です。

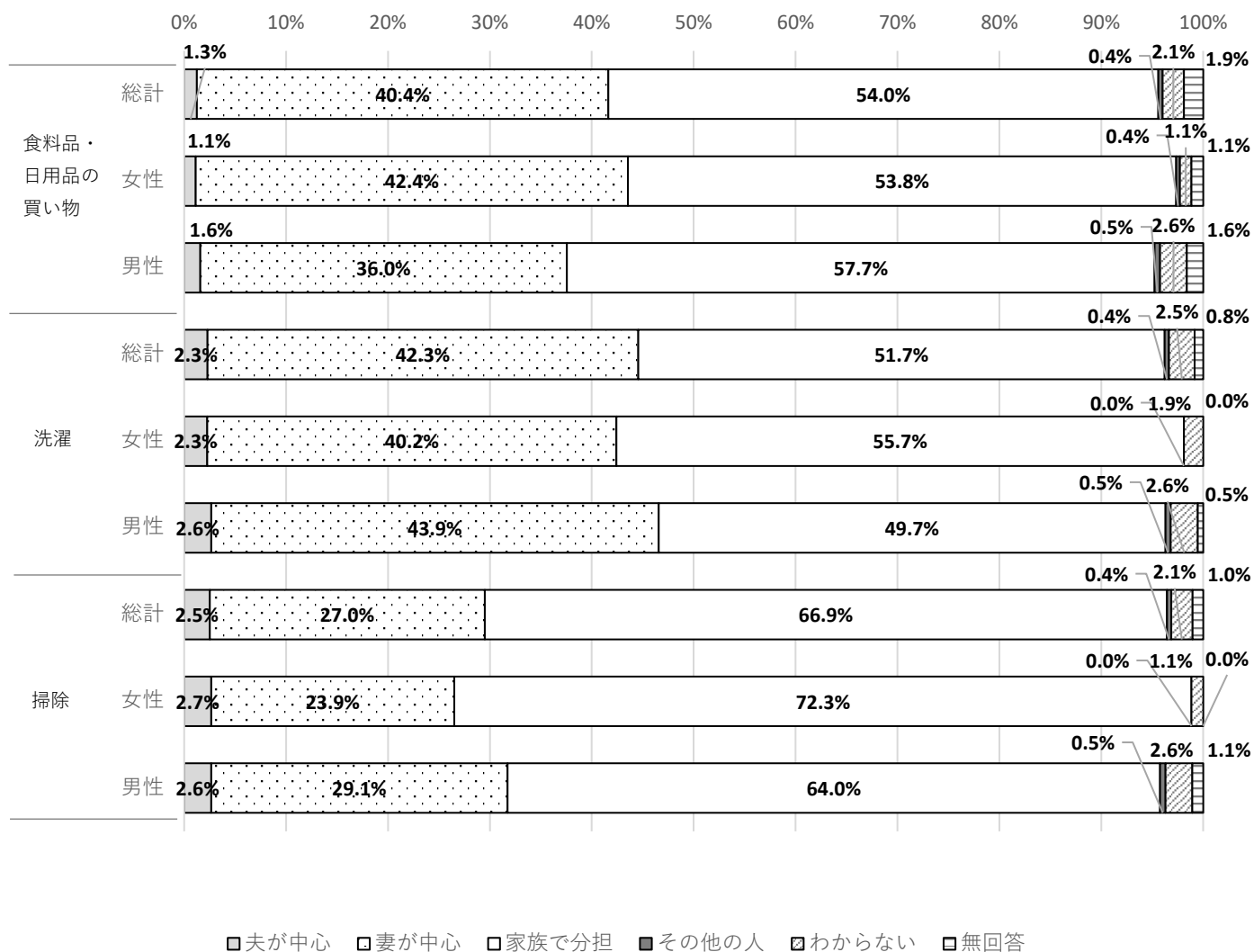
「妻が中心」と回答した人の割合が最も高くなっている家事は「日常の家計管理」で、全体の52.9%です。また、「食事づくり」についても「妻が中心」と回答した人の割合が50.0%となっており、全体の半数を占めています。「家族で分担」と回答した人の割合が最も高くなっている家事は「家族などの介護」で、全体の71.5%を占めています。

男女で回答の差が最も大きいのが「食事づくり」で、「妻が中心」と回答した人は女性で45.1%、男性で55.6%、「家族で分担」と回答した人は女性で53.0%、男性で39.7%と、それぞれ10%以上の違いがあります。

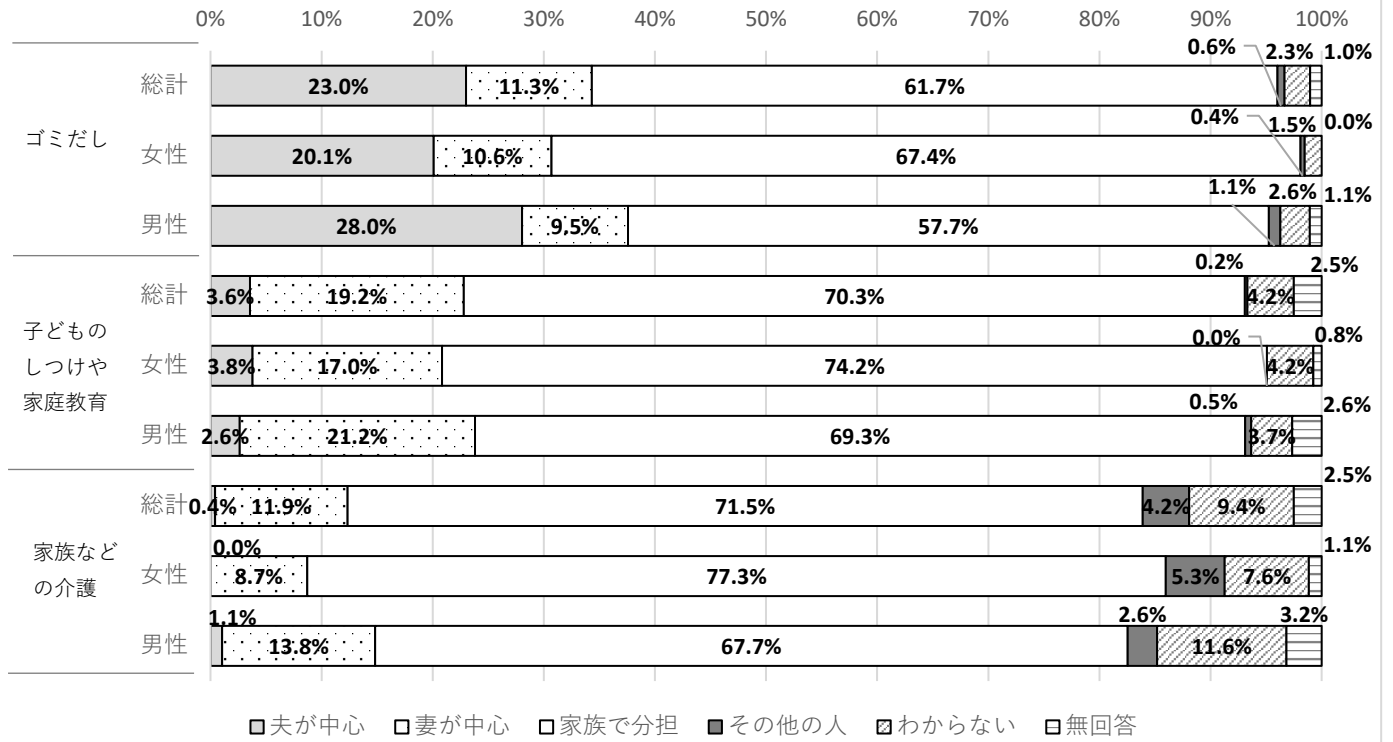
問5



問5



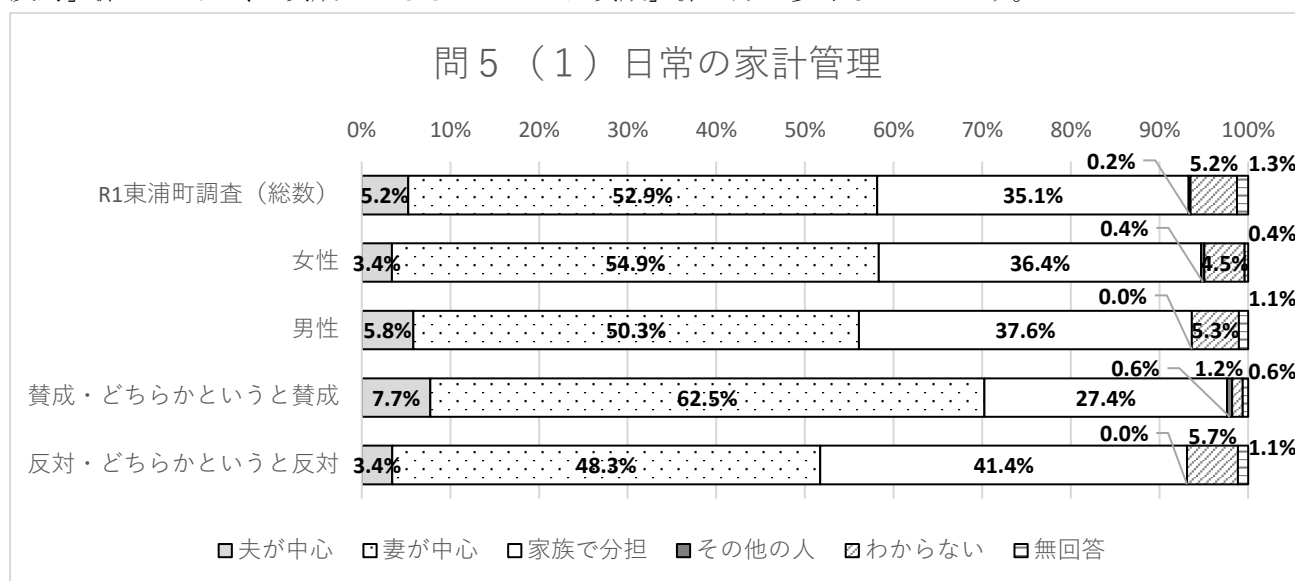
問5



（１）日常の家計管理

「日常の家計管理」は「妻が中心」と回答した人の割合が最も高く、男性、女性ともに半数以上を占めています。また、「男は仕事、女は家庭という考え方」に「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人と、「反対」「どちらかというと反対」と回答した人に分けて割合を見ると、「賛成・どちらかといえば賛成」では62.5%、「反対・どちらかといえば反対」では48.3%と、「男は仕事、女は家庭という考え方」に反対でも、約半数が「日常の家計管理は妻が中心」が望ましいと考えていることが分かります。

「夫が中心」と回答した人は「賛成・どちらかといえば賛成」派で7.7%、「反対・どちらかといえば反対」派で3.4%と、「賛成・どちらかといえば賛成」派の方が多くなっています。

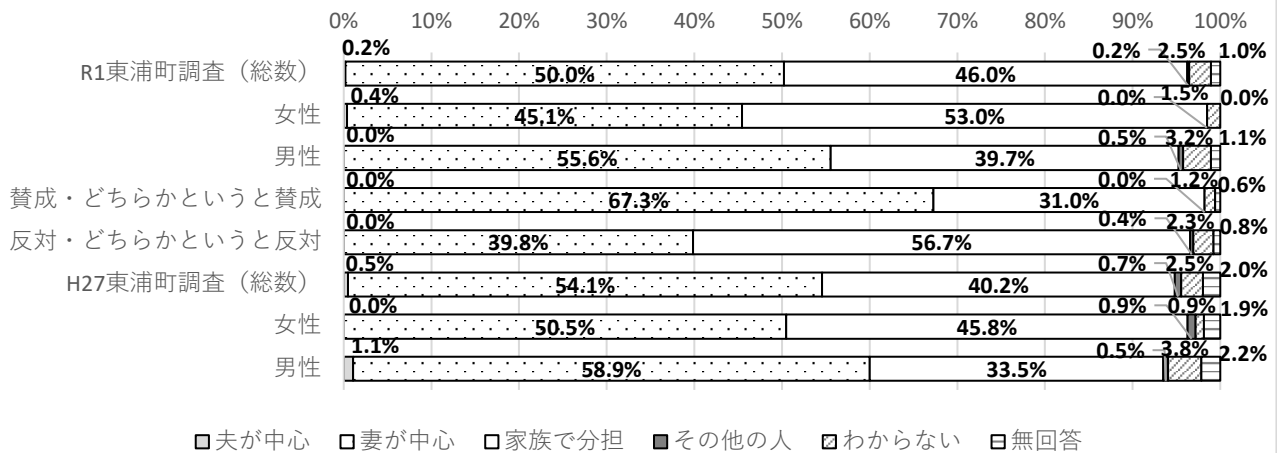


（２）食事づくり

「食事づくり」については、他の項目と比較して「妻が中心」と回答した人の割合が高くなっており、全体の半数を占めていますが、前回調査と比較するとやや減少しています。

「男は仕事、女は家庭という考え方」に「賛成・どちらかといえば賛成」と回答した人の「妻が中心」と回答した割合は67.3%となっており、他の項目と比較して最も高くなっています。また、「妻が中心」と回答した人の割合の差が「賛成・どちらかといえば賛成」派と「反対・どちらかといえば反対」派でもっとも大きいのがこの項目で、「妻が中心」と回答した人は「賛成・どちらかといえば賛成」派で67.3%、「反対・どちらかといえば反対」派で39.8%と、27.5%の差があります。「家族で分担」と回答した人は「賛成・どちらかといえば賛成」派で31.0%、「反対・どちらかといえば反対」派で56.7%と、25.7%の差があります。

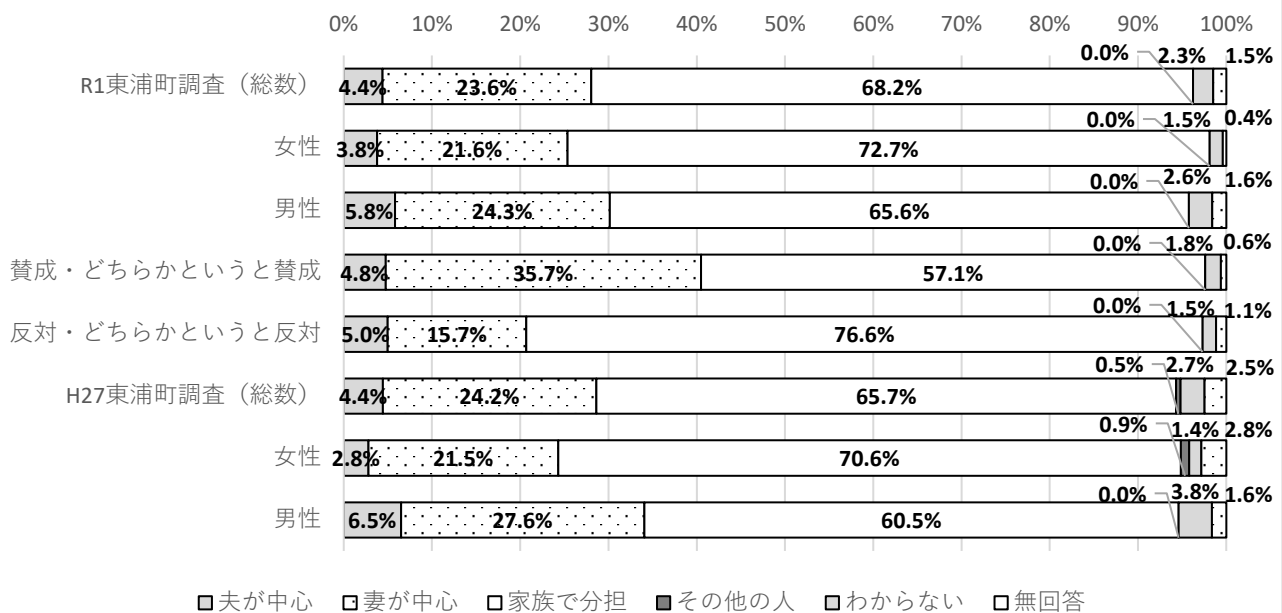
問5（2）食事づくり



（3）食事のあとかたづけ

「食事のあとかたづけ」の項目では、「家族で分担」と回答した人の割合が前回調査と比較してやや増加しています。

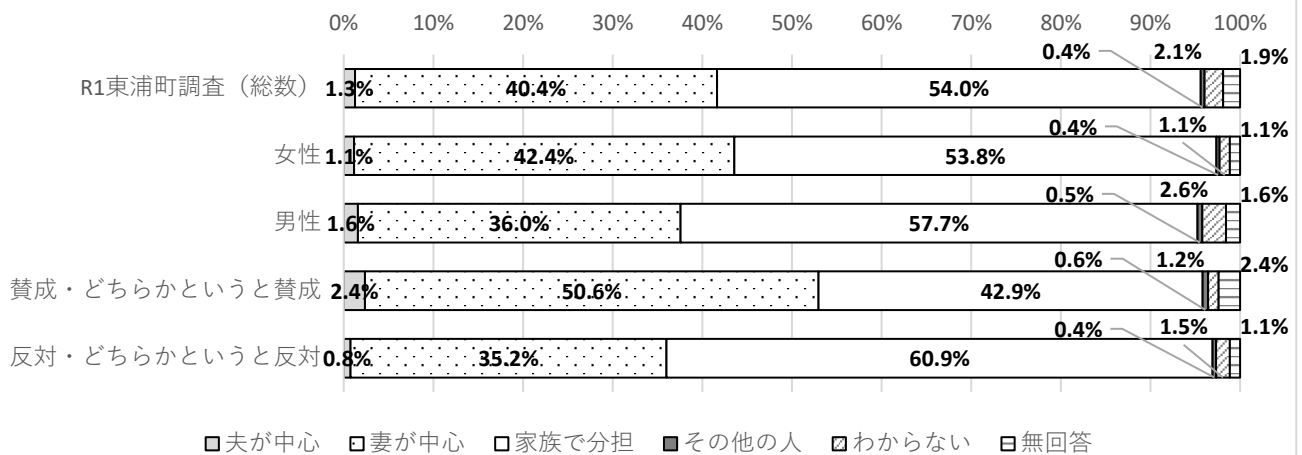
問5（3）食事のあとかたづけ



（4）食料品・日用品の買い物

「食料品・日用品の買い物」の項目については、「男は仕事、女は家庭という考え方」に「賛成・どちらかといえば賛成」派と「反対・どちらかといえば反対」派の間で「家族で分担」と回答した人の割合に約18パーセントの差があります。

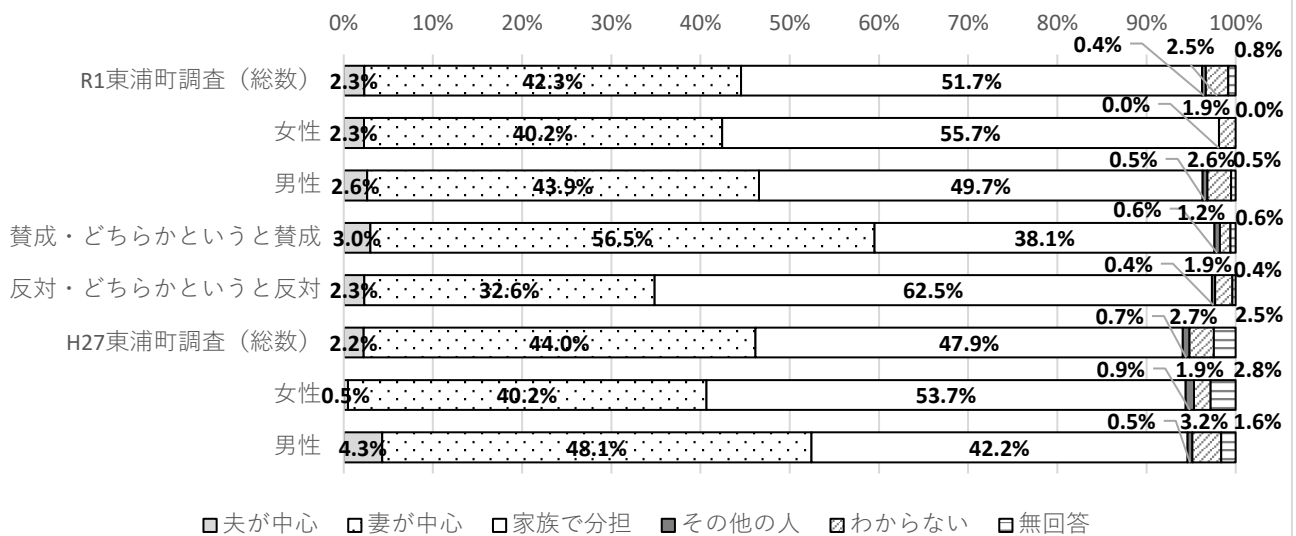
問5（4）食料品・日用品の買い物



（5）洗濯

「洗濯」の項目では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に「賛成・どちらかといえば賛成」派と「反対・どちらかといえば反対」派で「家族で分担」と回答した人の割合に24.4%の差があります。

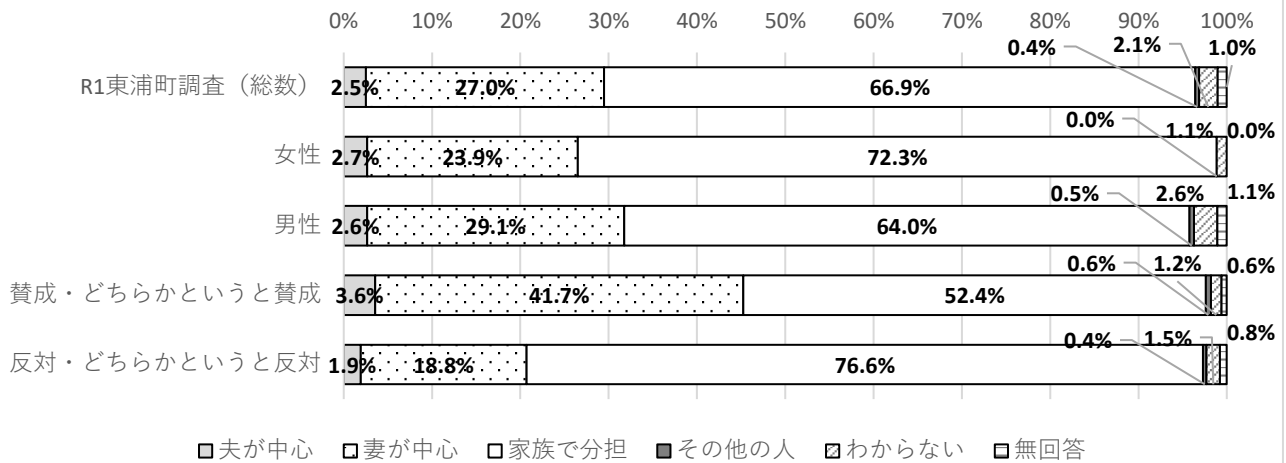
問5（5）洗濯



（6）掃除

「掃除」の項目では、「男は仕事、女は家庭という考え方」に「賛成・どちらかといえば賛成」派と「反対・どちらかといえば反対」派では「家族で分担」と回答した人に24.2%の差があります。

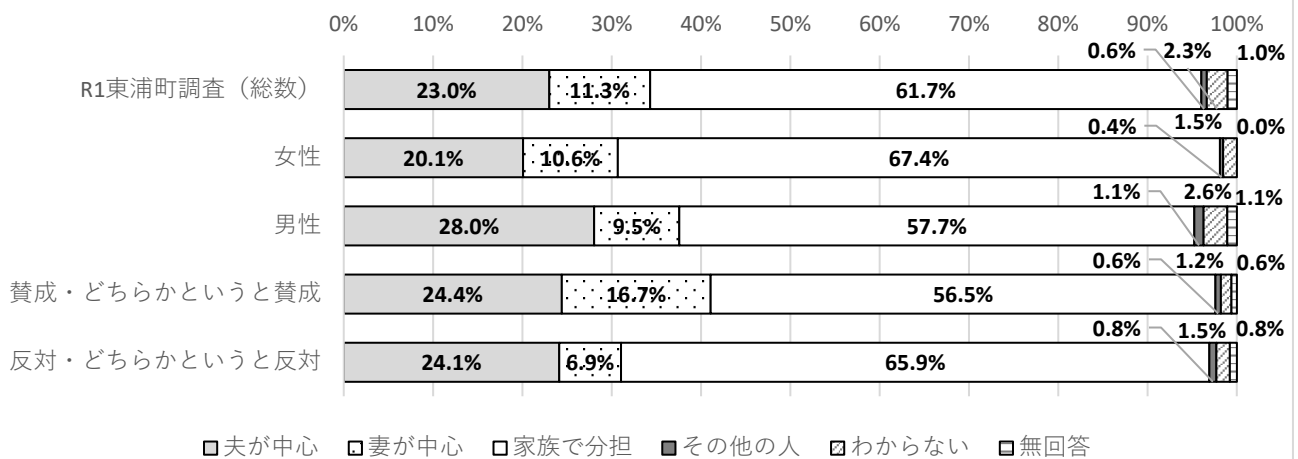
問5（6）掃除



（7）ゴミだし

「ゴミだし」は、男女及び「男は仕事、女は家庭の考え方」に「賛成・どちらかといえば賛成」派、「反対・どちらかといえば反対」派すべてにおいて「夫が中心」と回答した人の割合がもっとも高い項目となっています。

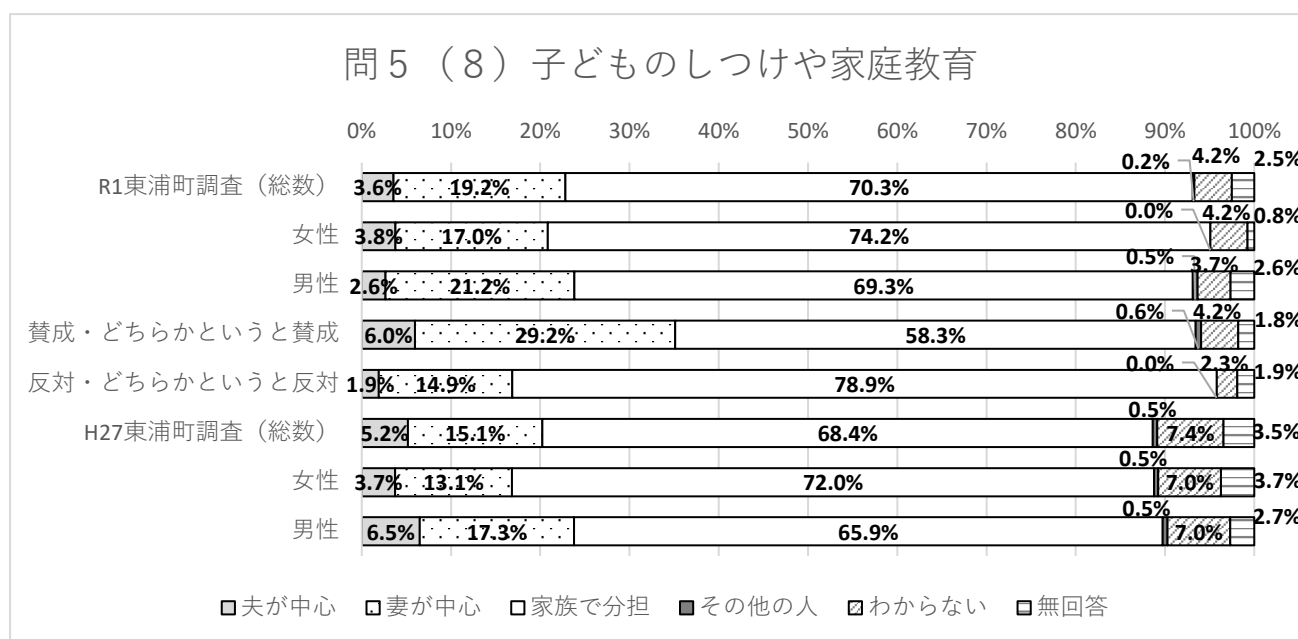
問5（7）ゴミだし



（8）子どものしつけや家庭教育

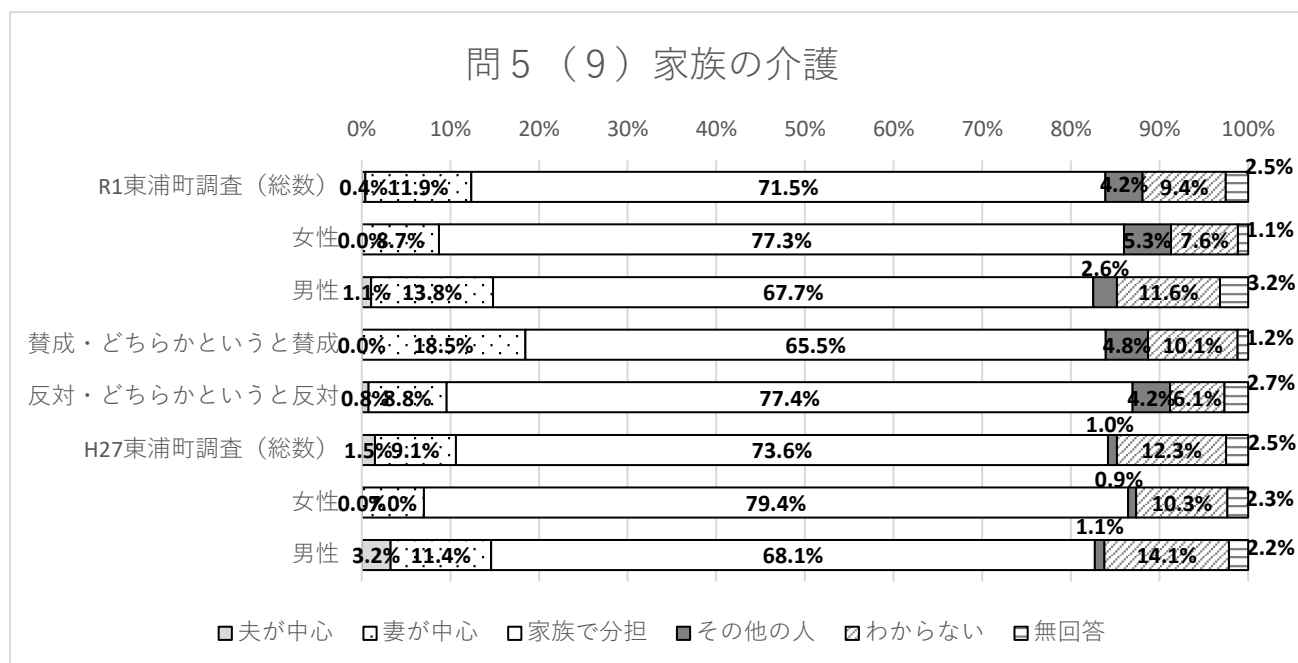
「子どものしつけや家庭教育」は、「家族で分担」と回答した人の割合が「男は仕事、女は家庭という考え方」に「賛成・どちらかといえば賛成」派と「反対・どちらかといえば反対」派の間でもっとも差が大きく、「賛成・どちらかといえば賛成」派で 58.3%、「反対・どちらかといえば反対」派は 78.9%と、39.4%の差があります。また、「妻が中心」と回答した人の割合は「賛成・どちらかといえば賛成」派で 29.2%、「反対・どちらかといえば反対」派で 14.9%と、14.3%の差があります。

男性のうち、「家族で分担」と回答した人の割合が最も高いのがこの項目です。



（ 9 ） 家族の介護

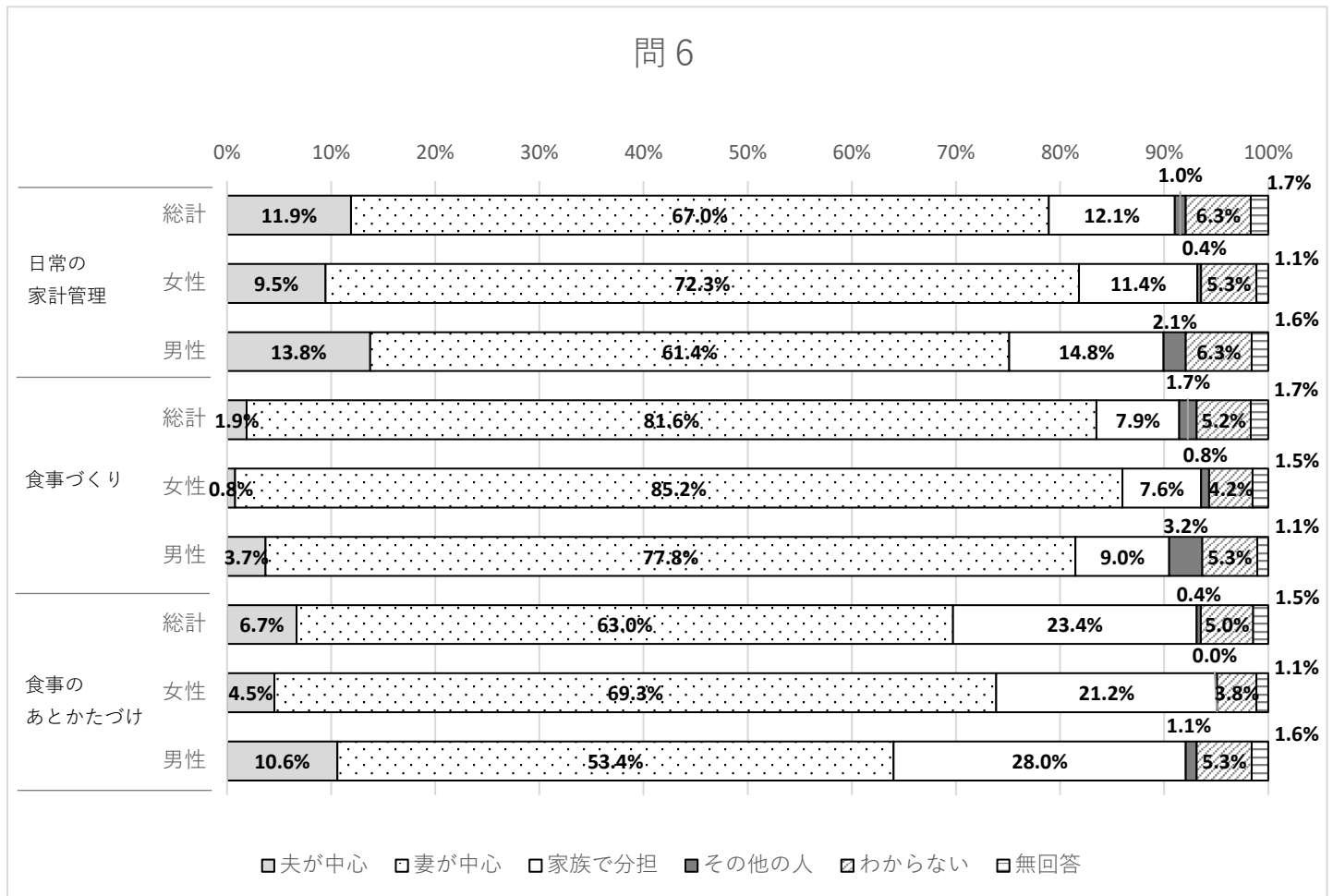
「家族の介護」は、「家族で分担」と回答した人の割合がもっとも高い項目です。また、「その他の人」という回答の割合が最も高いのもこの項目で、介護は家族で分担するか、家族以外の人（ヘルパー等）に任せるのが望ましいと考える人が多いことが読み取れます。



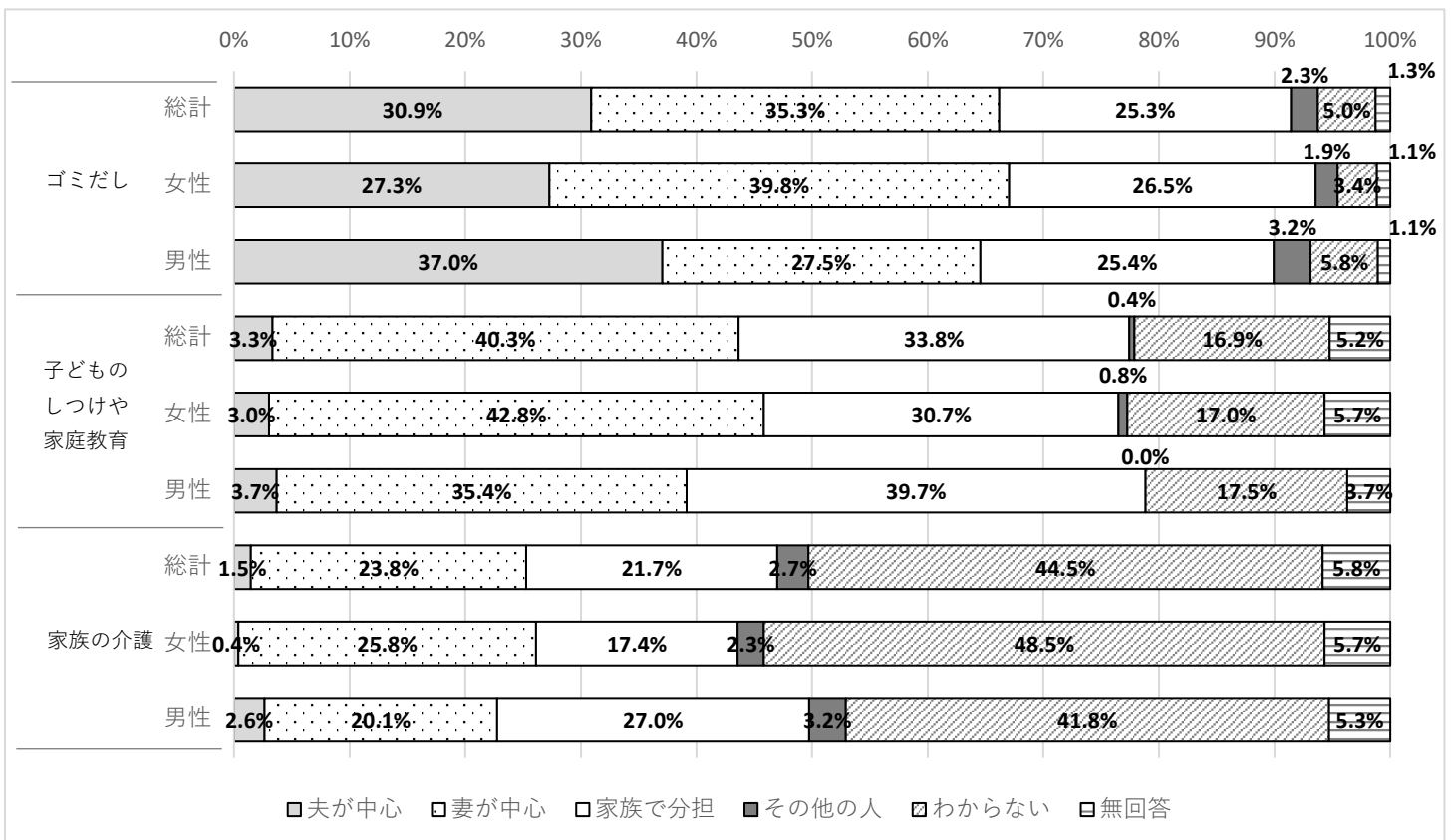
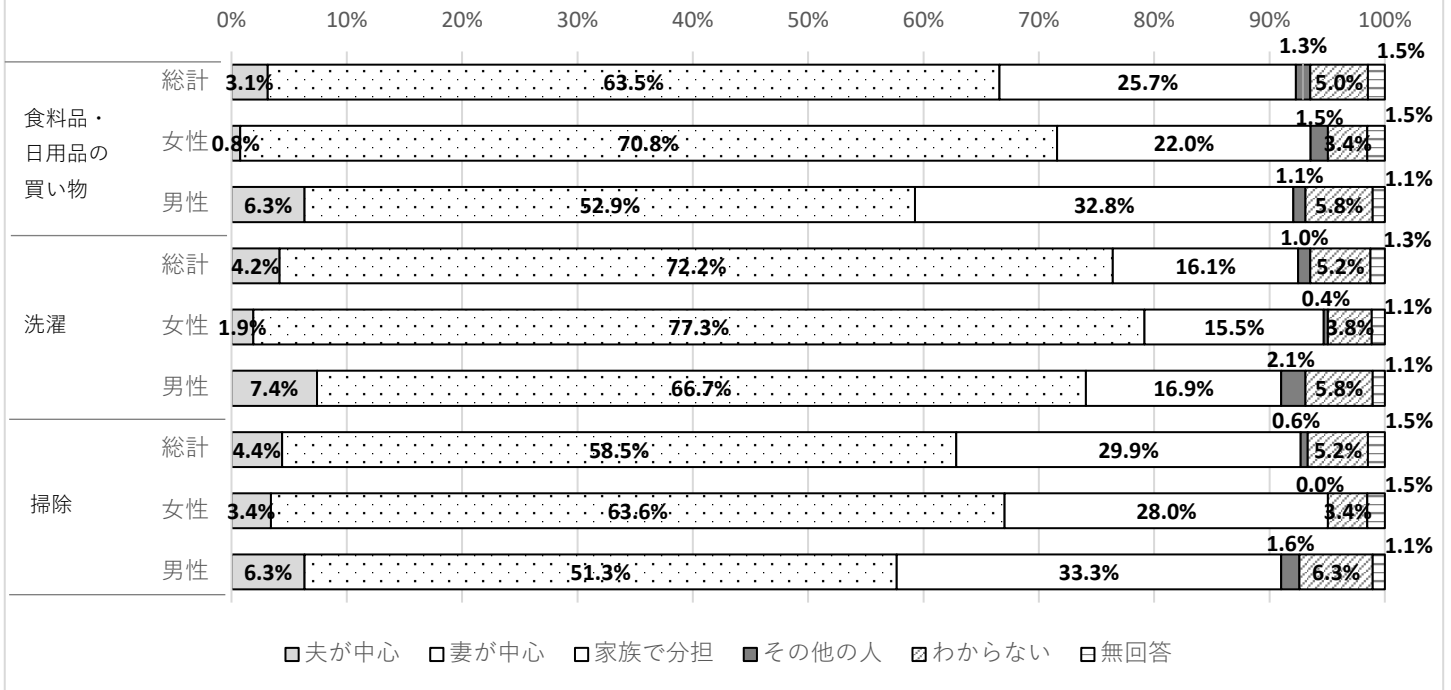
問6 あなたの家庭では、日常の家事の分担を実際にはどのようにされていますか。（単数回答）

すべての項目において、問5と比較して「妻が中心」と回答した人の割合が高くなっており、「家族で分担」と回答した人の割合は低くなっています。特に「食事づくり」の項目では80%以上、「洗濯」の項目では70%以上、「日常の家計管理」「食事のあとかたづけ」「食料品・日用品の買い物」では60%以上、「掃除」では50%以上が「妻が中心」と回答しています。また、おおむねすべての項目について、「夫が中心」と回答した人の割合も、問5と比較して高くなっています。

「家族で分担」と回答した人の割合がもっとも低いのが「食事づくり」、もっとも高いのは「子どものしつけや家庭教育」の項目です。「家族で分担」の回答割合のうち、男女でもっとも差が大きいのは「食料品・日用品の買い物」の項目で、女性は22.0%、男性は32.8%と10.8%の差があります。男性と女性の間で「分担」の意識に差があることが読み取れます。



問 6

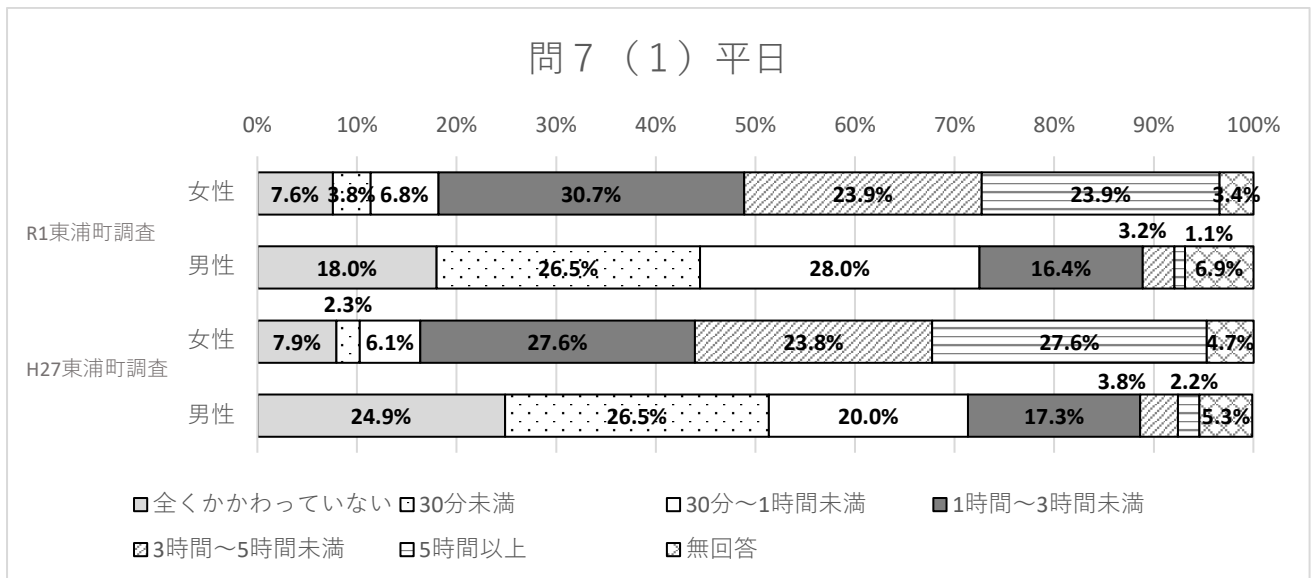


問7 あなたが家事、育児、介護に携わる時間は、1日あたりどれくらいですか。（単数回答）

平日の家事、育児、介護の従事時間を男女別に見ると、女性は「1時間～3時間未満」（30.7%）が最も多く、続いて「3時間～5時間未満」（23.9%）、「5時間以上」（23.9%）となっています。男性は「30分～1時間未満」（28.0%）が最も多く、次いで「30分未満」（26.5%）となっています。

全体に家事、育児、介護の従事時間は女性の方が男性より長い傾向にあります。

前回調査と比較して、女性は「1時間～3時間未満」と回答した人の割合が3.1%増加し、「5時間以上」と回答した人の割合が3.7%減少しています。男性では「全くかかわっていない」と回答した人が6.9%増加し、「30分～1時間未満」と回答した人が8%増加しています。



有職・無職の別に平日の家事、育児、介護従事時間を比較すると、女性の有職者では「1時間～3時間未満」（35.4%）が最も多く、次いで「3時間～5時間未満」（24.6%）となっています。常勤の雇用者に限った場合では、「1時間～3時間」（32.7%）が最も高くなっており、次いで「5時間以上」（21.2%）となっています。

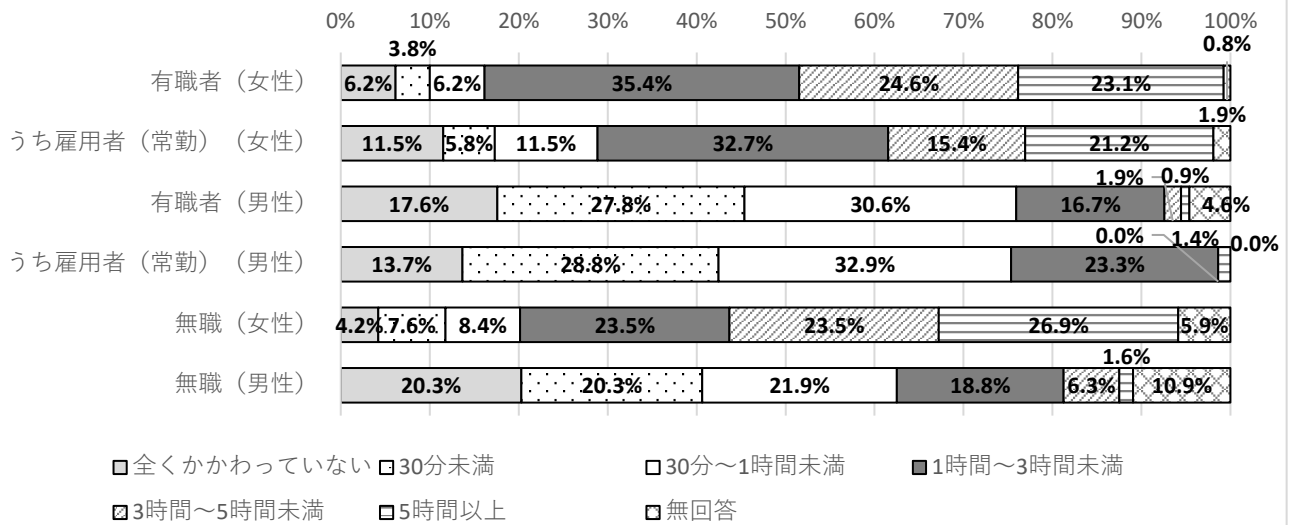
男性の有職者では「30分～1時間未満」（30.6%）が最も高く、次いで「30分未満」（27.8%）となっています。常勤の雇用者に限った場合でも、同様に「30分～1時間未満」（32.9%）が最も高く、次いで30分未満（27.8%）となっています。

フルタイムで働いている場合でも、女性の方が家事、育児、介護従事時間が長い傾向があることが読み取れます。

無職の女性では「5時間以上」（26.9%）が最も高く、次いで「1時間～3時間未満」（23.5%）と「3時間～5時間未満」（23.5%）となっています。無職の男性では、「30分～1時間未満」（21.9%）が最も高く、次いで「全くかかわっていない」（20.3%）、「30分未満」（20.3%）となっています。

有職・無職及び男女の別で見た場合、「全くかかわっていない」と回答した人の割合が最も高いのは無職男性（20.3%）、「5時間以上」と回答した人の割合が最も高いのは無職女性（26.9%）となっています。

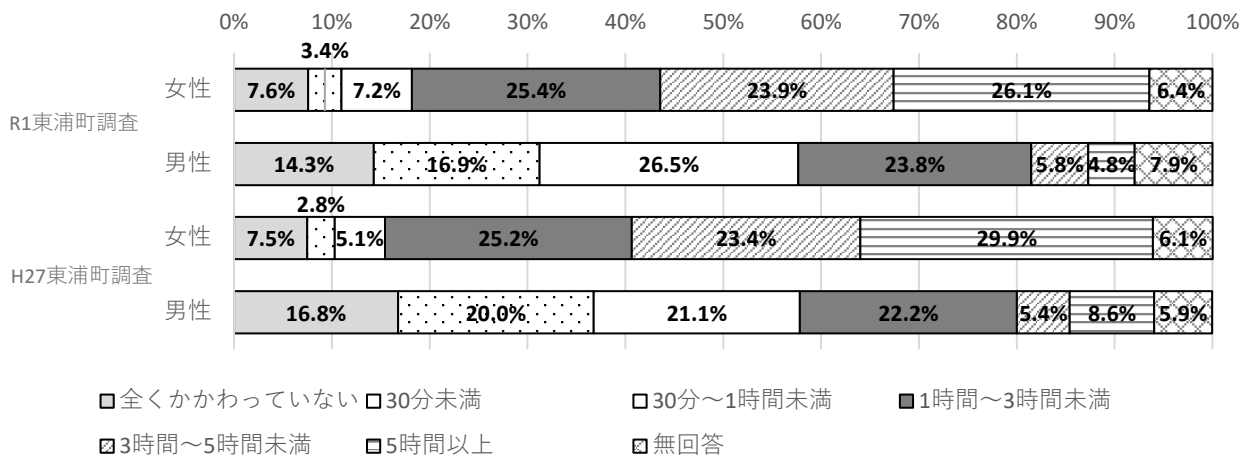
問 7 (1) 平日



休日の家事、育児、介護の従事時間を見ると、女性では「5時間以上」（26.1%）が最も高く、次いで「1時間～3時間未満」（25.4%）となっています。男性は「30分～1時間未満」（26.5%）が最も高く、次いで「1時間～3時間未満」（23.8%）となっています。

前回調査と比較すると、女性では「5時間以上」が3.8%減少しています。男性では「30分未満」が3.1%、「5時間以上」が3.8%減少し、「30分～1時間未満」が5.4%増加しています。

問 7 (2) 休日

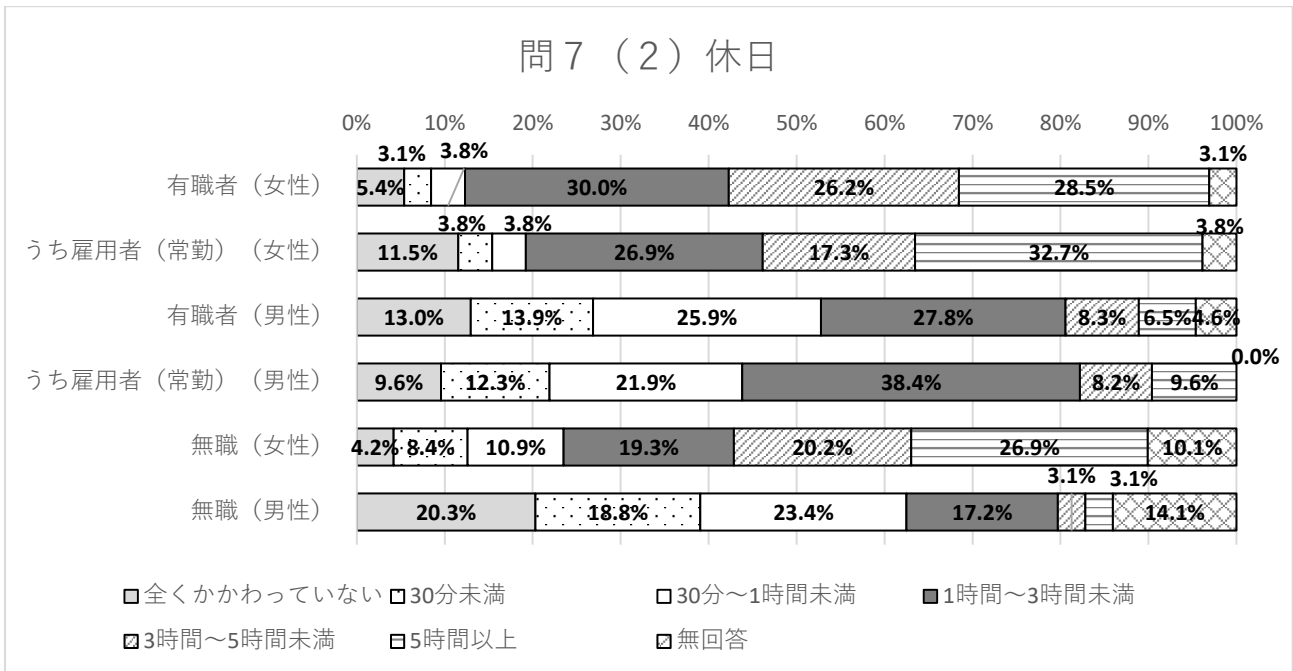


有職・無職の別に平日の家事、育児、介護従事時間を比較すると、女性の有職者では「1時間～3時間未満」（30.0%）が最も高く、次いで「5時間以上」（28.5%）となっています。常勤の雇用者に限った場合には、「5時間以上」（32.7%）が最も高く、次いで「1時間～3時間未満」（26.9%）となっています。男性の有職者では「1時間～3時間未満」（27.8%）が最も高く、次いで「30分～1時間未満」（25.9%）となっています。常勤の雇用者に限った場合でも、同様に「1時間～3時間未満」（38.4%）が最も高く、次いで「30分～1時間未満」（21.9%）となっています。

フルタイムで働いている女性は、休日の家事、育児、介護従事時間が長い傾向があることが読み取れます。

無職女性では「5時間以上」(26.9%)が最も高く、次いで「3時間～5時間未満」(20.2%)となっています。無職男性では「30分～1時間未満」(23.4%)が最も高く、次いで「全くかかわっていない」(20.3%)となっています。

有職・無職及び男女の別で見た場合、「全くかかわっていない」と回答した割合が最も高いのは無職男性(20.3%)、「5時間以上」と回答した人の割合がもっとも高いのは有職者女性(28.5%)です。



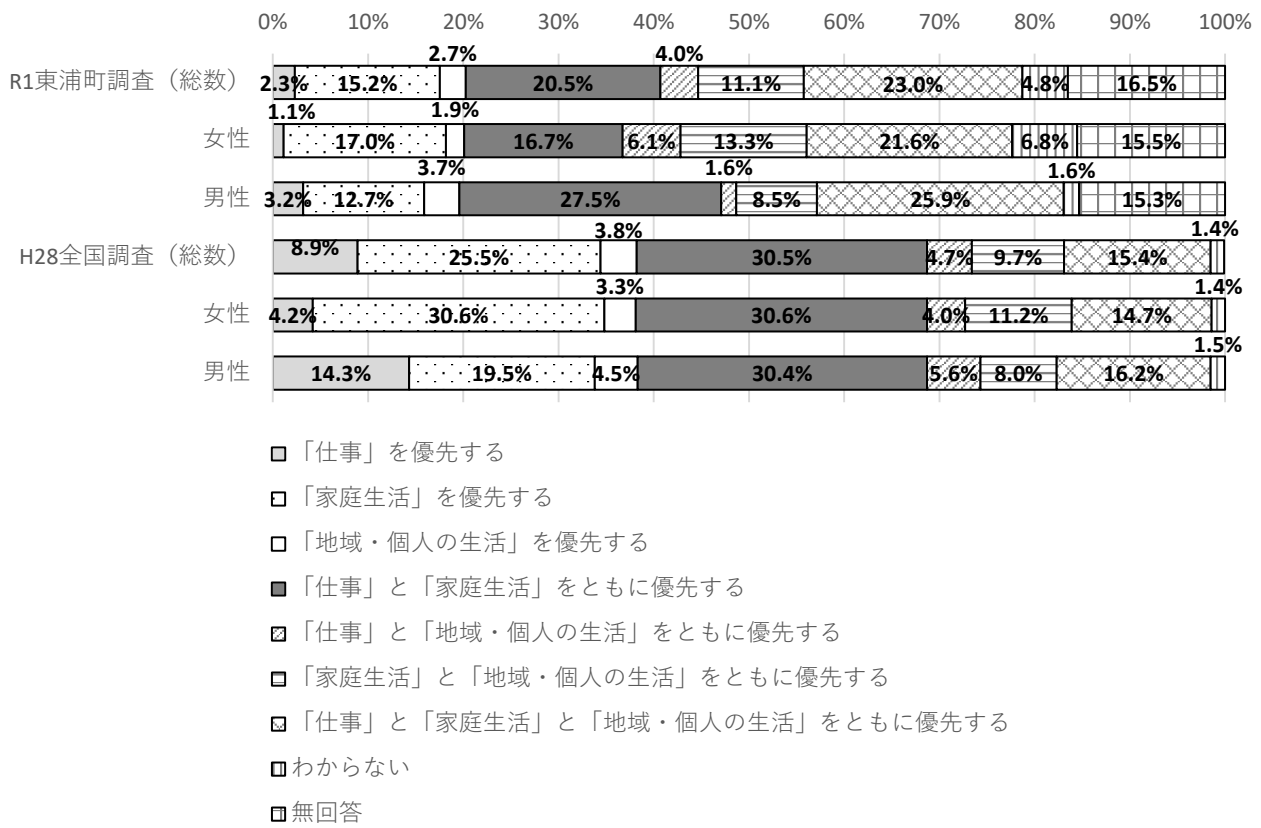
問8 あなたは、生活の中で、「仕事」、「家庭生活(家事・子育て・介護等)」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」のうち何を優先しますか。
(単数回答)

(1) 希望

男女別に見ると、女性では『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先する(21.6%)が最も高く、次いで『家庭生活』を優先する(17.0%)となっています。男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先する(27.5%)が最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』を優先する(25.9%)となっています。

男女の差が最も大きいのが『仕事』と『家庭生活』をともに優先するで、女性が16.7%、男性が27.5%と、10.8%の差があります。

問 8 (1) 希望

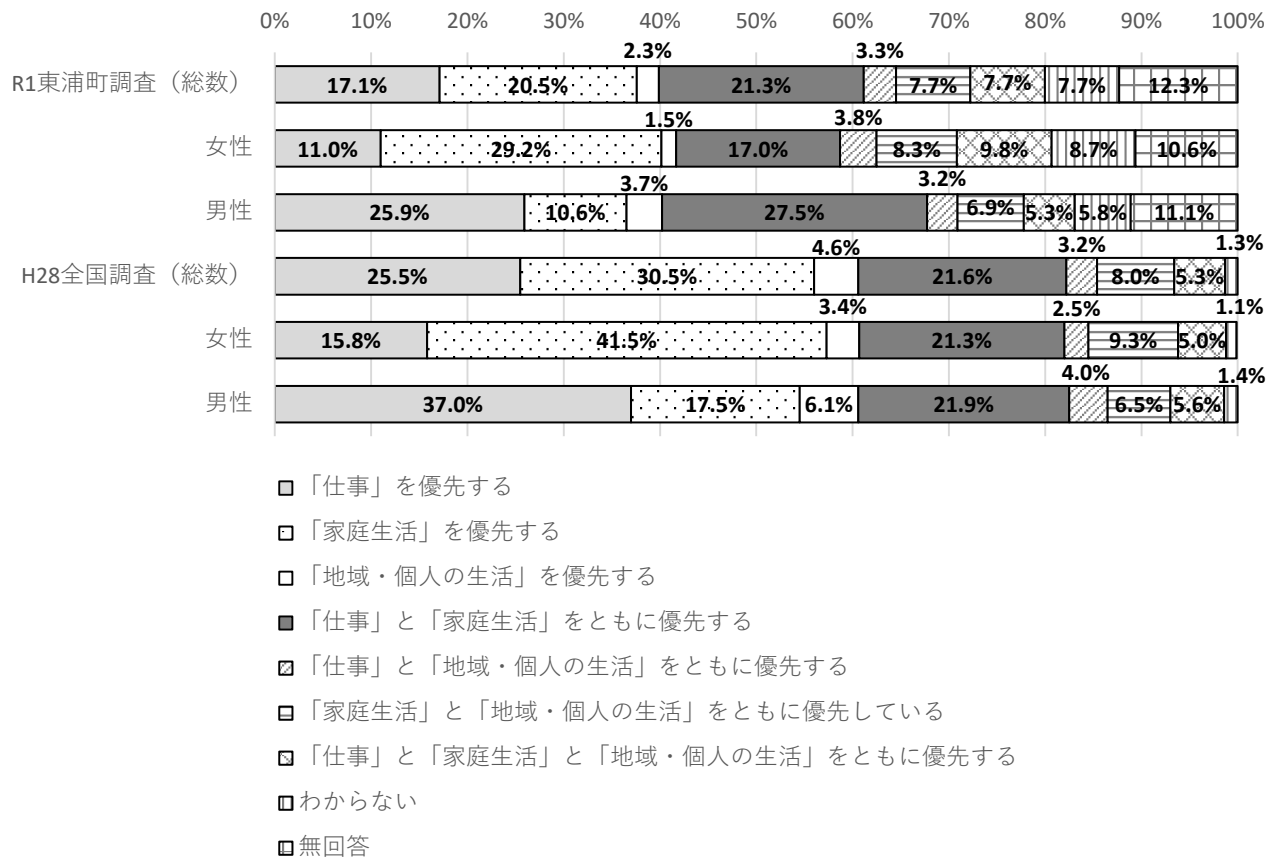


(2) 現実

男女別に見ると、女性では『家庭生活』を優先する（29.2%）が最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先する（17.0%）となっています。男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先する（27.5%）が最も高く、次いで『仕事』を優先する（25.9%）となっています。

男女での差が最も大きいのが『家庭生活』を優先するで、女性は29.2%、男性は10.6%と18.6%の差があります。

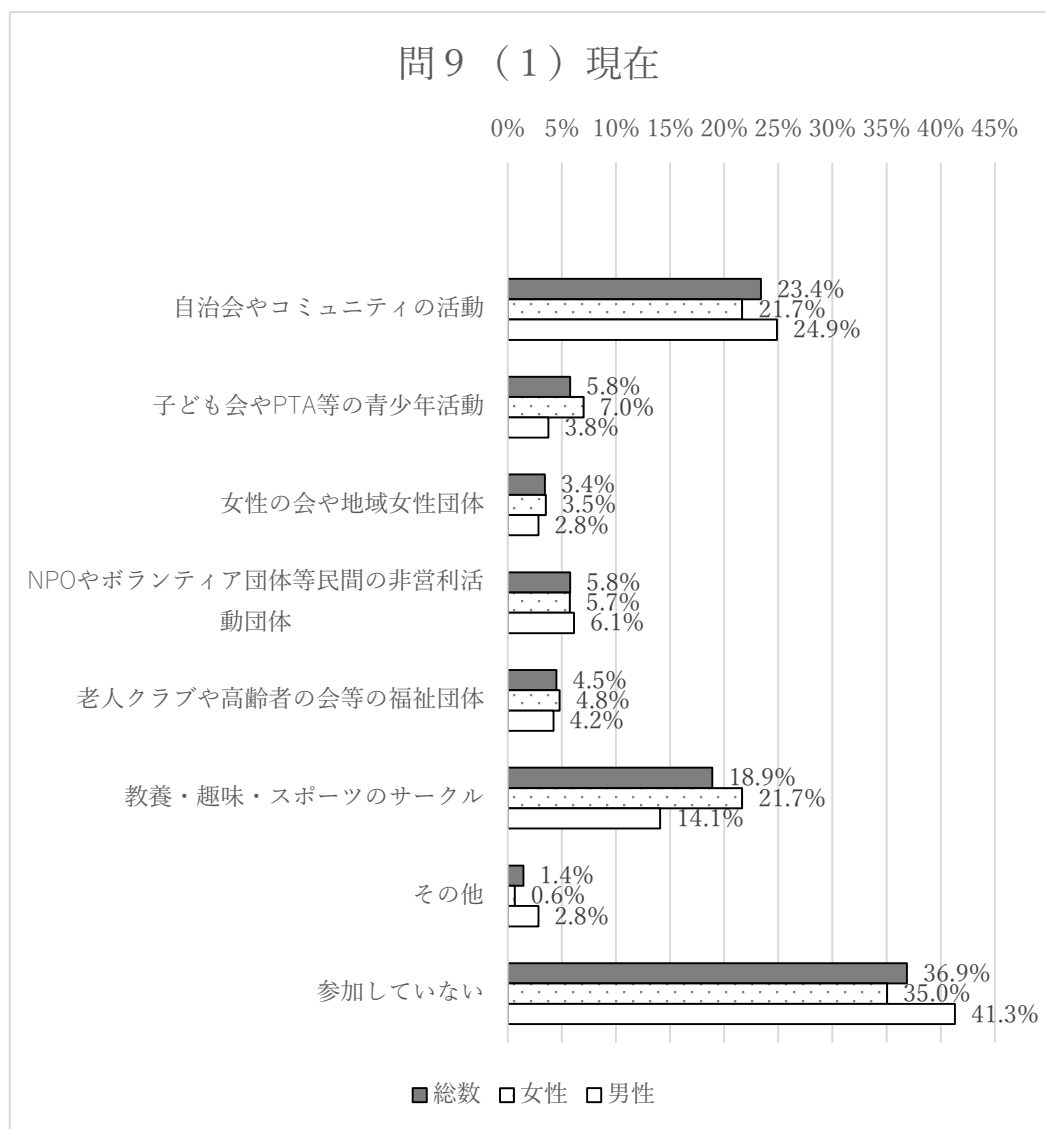
問 8 (2) 現実



問9 あなたは、次のような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動はありますか。(複数回答)

(1) 現在

男女ともに「参加していない」が最も高くなっています。女性では次いで「自治会やコミュニティの活動」(21.7%)、「教養・趣味・スポーツのサークル」(21.7%)、男性では次いで「自治会やコミュニティの活動」(24.9%)となっています。男女の差が最も大きいのが「教養・趣味・スポーツのサークル」で、女性は21.7%、男性は14.1%と7.6%の差があります。

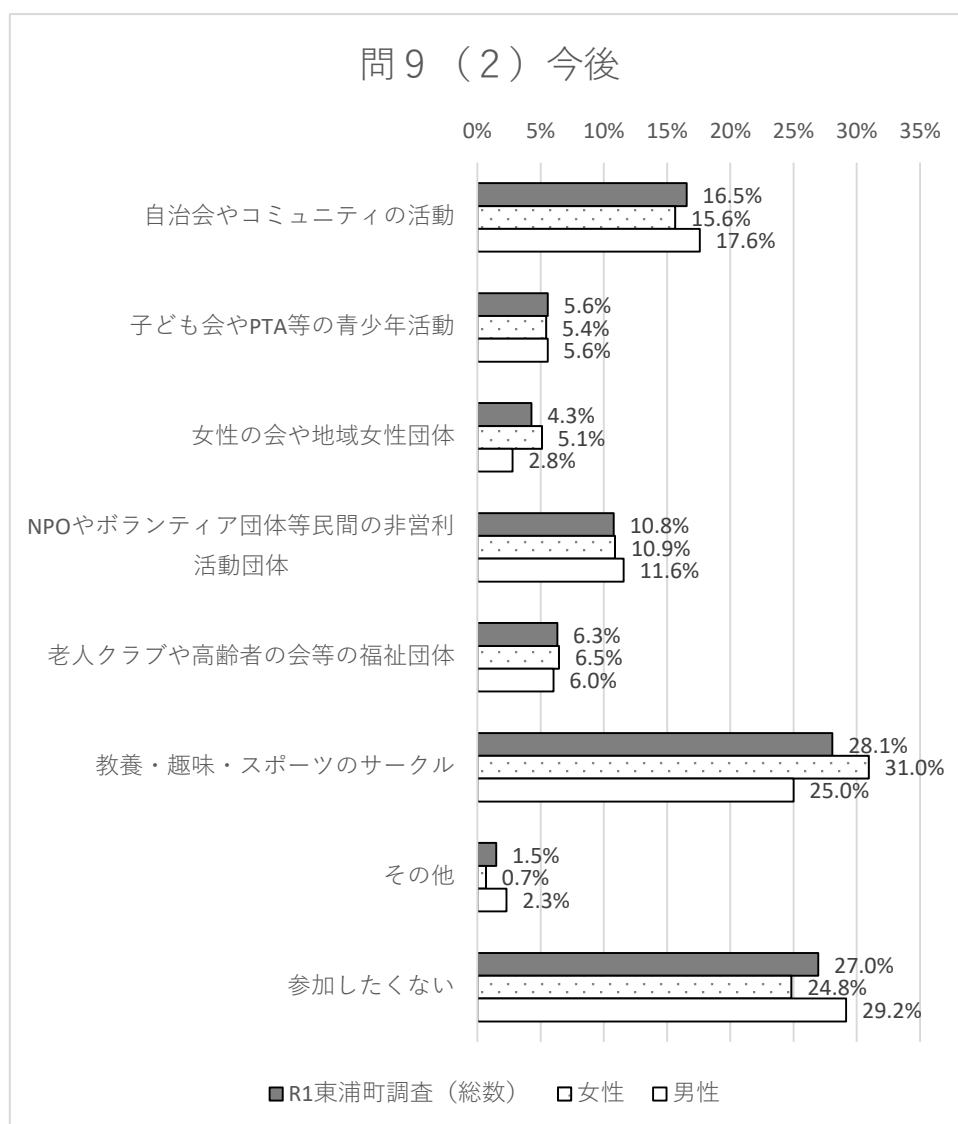


「その他」の記載内容

- ・ 祭礼（男性・40代）
- ・ 前に字議員をやっていた（男性・70代以上）
- ・ 祭礼の世話人（男性・60代）
- ・ 放送大学（男性・70代以上）
- ・ 東浦以外の活動に参加（女性・40代）
- ・ 会社のOBと旅行（男性・70代以上）
- ・ 環境問題・消費者市民運動（女性・70代以上）

（２）今後

女性では「教養・趣味・スポーツのサークル」（31.0%）が最も高く、次いで「参加したくない」（24.8%）となっています。男性では「参加したくない」（29.2%）が最も高く、次いで「教養・趣味・スポーツのサークル」（25.0%）となっています。男女の差が最も大きいのは「教養・趣味・スポーツのサークル」で、女性が31.0%、男性が25.0%と6%の差があります。



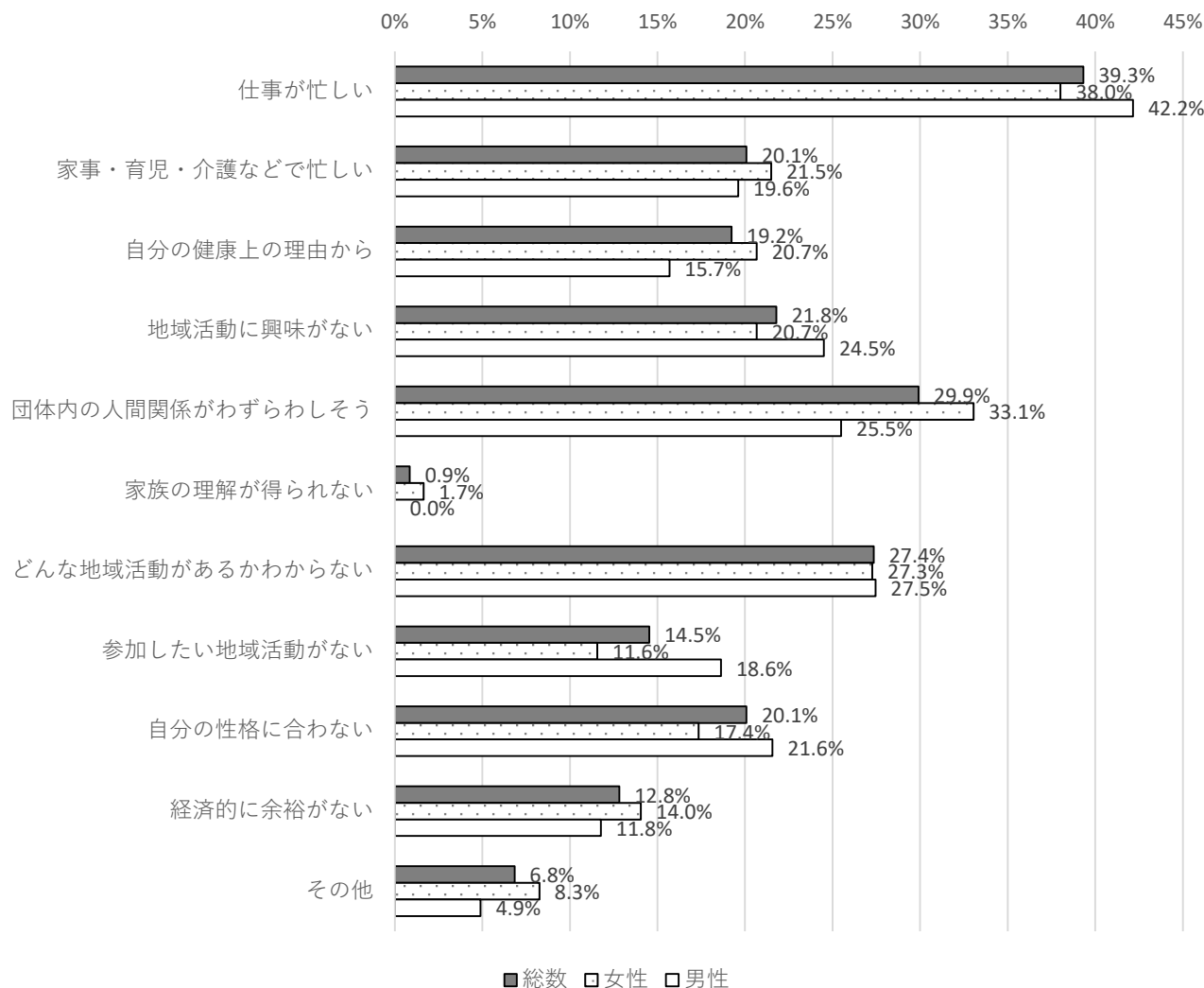
「その他」の記載内容

- ・ メンタル、引きこもりの人の社会復帰支援（男性・50代）

問 10 問9で「参加していない・参加したくない」と回答した方にお聞きします。活動に参加していない、参加したくない理由は何ですか。（複数回答）

男女ともに「仕事が忙しい」の割合が最も高くなっています。（女性 38.0%、男性 42.2%）女性では次いで「団体内の人間関係がわずらわしそう」（33.1%）が、男性では次いで「どんな地域活動があるかわからない」（27.5%）が高くなっています。男女の差がもっとも大きいのが「団体内の人間関係がわずらわしそう」で、女性では 33.1%、男性では 25.5%と 7.6%の差があります。

問10 活動に参加しない、したくない理由



「その他」の記載内容

- ・ 病気が悪化して歩行障害で参加できない（女性・70代以上）
- ・ 独身だから参加する事がない（男性・18～20代）
- ・ 年よりだから（女性・70代以上）
- ・ 相談したり、おしゃべりする友人が多くいる。（女性・70代以上）
- ・ いろいろ忙しい（女性・50代）
- ・ そのサークルが東浦町のコミュニティに参加しているといろいろ用事を押し付けられそうだから（女性・50代）
- ・ 地元出身でなく、仕事をしていて地域の人との関わりがなく活動に参加しにくい（女性・60代）
- ・ 元々、この土地の者でない為、入りづらい。（男性・50代）
- ・ 脳出血があったため体にしびれ味覚障害があって不自由（男性・60代）
- ・ 現在、自分の趣味を楽しんでいます（女性・70代以上）
- ・ 気持ちが向かない（女性・50代）

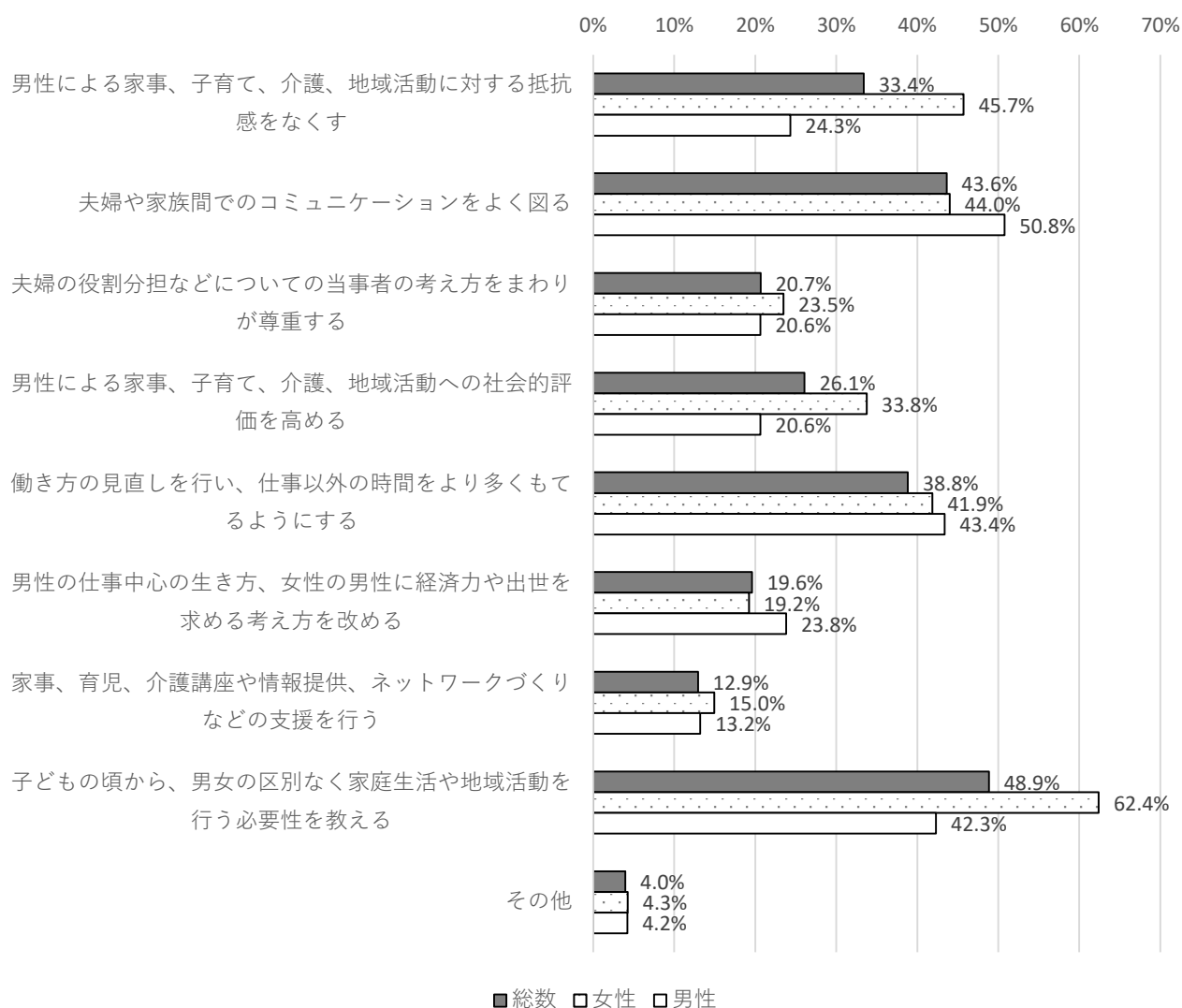
- ・ 自分の友人とスポーツしたり、旅行へ行ったり楽しめているので、特に地域の人との交流は必要ない。(女性・60代)
- ・ 自分に子供ができたら考える。(男性・40代)
- ・ 20年前に7年間程経験済み 若い人に(性別・年齢未回答)
- ・ 心臓病・その他の病のため。したくてもできない(90歳)(男性・70代以上)
- ・ 勉学が忙しい(女性・18～20代)
- ・ あまり得るものがない(女性・40代)

問11 あなたは、男性の家事、育児、介護、地域活動への参加をすすめるためには、どのようにしていけばよいと思いますか。(複数回答)

女性では「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」(62.4%)が最も高く、次いで「男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす」(45.7%)となっています。男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」(50.8%)が最も高く、次いで「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多くもてるようにする」(43.4%)となっています。

男女の差が最も大きいのは「男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす」で、女性では45.7%、男性で24.3%と、21.4%の差があります。また、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」も女性では62.4%、男性では42.3%で20.1%の差があります。

問11 男性の家事、育児、介護、地域活動への参加



「その他」の記載内容

- ・ 親が見本となるような行動をする（女性・30代）
- ・ 家族手当をもっと支給して共働きの必要性を下げ夫婦の負担を軽減すれば自然と他の活動をする事が出来ると思います。（女性・30代）
- ・ 収入の増加・出費（税など）の減少など経済的な余裕（女性・40代）
- ・ 広報、男性モデルをつくる（男性・30代）
- ・ 一人暮らしの為（女性・70代以上）
- ・ 一人暮らしのためわからない（男性・50代）
- ・ 一人者だからわからない（男性・50代）
- ・ 女性の意識改革（男性・40代）
- ・ 仕事をせずとも生活していける社会を作る。（男性・18～20代）
- ・ 労働時間を減らしても暮らしていける世の中になれば（男性・40代）

- ・ 文化や風習が強い部分もあると思う。だから子供の頃からの環境が大切だと思う。(女性・30代)
- ・ 金銭的メリットをもっと増えると活発化すると思う。男性がやると評価ポイントが増え、何かに交換できるとか、税金が安くなるとか、免許のゴールドカード的なメリットとか。(男性・50代)
- ・ 天皇家で日本家庭の理想的なあり方の様な配信がある以上、日本の男尊女卑はかわらないと思う。(女性・40代)
- ・ 女が男に甘えすぎ、女が強すぎる。(女性・60代)
- ・ 社会全体の意識を変える必要があり、長期に渡る継続的な活動が必須(女性・40代)

(2) 仕事について

問12 一般に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)

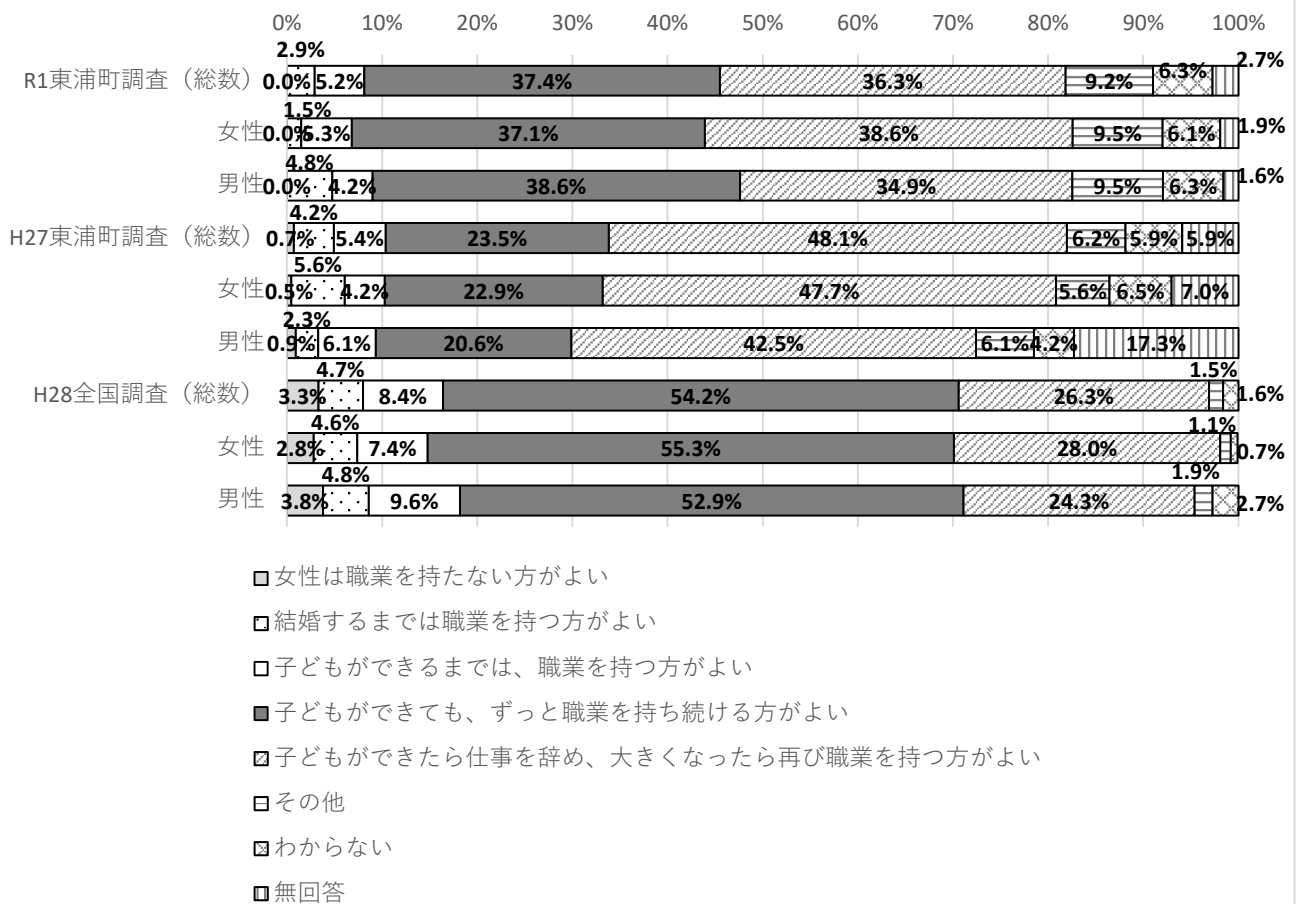
「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」(37.4%)の割合が最も高く、次いで「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(36.3%)となっています。

前回調査と比較すると、「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(48.1%)が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」(23.5%)だったのが逆転しています。「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と考える人が増加したことがわかります。「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」と回答した人の割合はほぼ同程度ですが、「女性は職業を持たない方がよい」「結婚するまでは職業を持つ方がよい」と回答した人の割合は減少し、特に「女性は職業を持たない方がよい」と回答した人は0%になっています。

全国調査と比較すると、「女性は職業を持たない方がよい」「結婚するまでは職業を持つ方がよい」「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」の割合は低く、「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は高い傾向にあります。

「その他」の割合は前回調査及び全国調査より高く、「その他」とした理由では、「個人の自由」「人それぞれ」といった意見が多くありました。

問12 女性が職業を持つことについて



「その他」の記載内容

- ・ 個人の価値観で決めれば良い（女性・40代）
- ・ それぞれの家庭でゆるされる範囲内で仕事を続ければ良い。（女性・60代）
- ・ 人それぞれです。決めつけることは出来ないのでは！（女性・70代以上）
- ・ 本人が仕事を続けたいなら、続けるのがよいし、仕事が嫌なら、結婚や出産を機に辞めたらよいと思う。男女関係なく本人の気持ち。（環境は置いておいて）（男性・30代）
- ・ 状況に応じて対応すればいいと思う（男性・18～20代）
- ・ 人それぞれで良いと思う。（女性・40代）
- ・ 職業を持ったに越したことはないが、子育てしている間に企業が急なお休み等対応してくれなそう、持ちたくても持てないと思う。（女性・30代）
- ・ 持ちたい人は持ち、辞めたい人がやめられる（女性・30代）
- ・ 人による（男性・40代）
- ・ 乳児期は仕事をしない（女性・40代）
- ・ 良いと思う事もあり、悪いと思うこともある。それぞれのその時々バランスが大切である。（男性・50代）
- ・ その人その人のスタイルでよい（女性・40代）

- ・ その女性の自由（女性・18～20代）
- ・ パートナーや社会の協力や理解があればどうにでもなると思う（女性・18～20代）
- ・ 子供の有無に関係なく、自活する為に働く意識を持つなら職業を持つべき。男性に経済的な依存をするなら、家庭を守る役割を担うべき。（男性・50代）
- ・ 個人の自由（女性・30代）
- ・ 人それぞれ（女性・30代）
- ・ 本人の意思次第（男性・60代）
- ・ 女性というくくりでも働きたい人も働かず家庭を守りたい人もいる。様々な考え、体力、精神力もそれぞれなので、個々の選択を尊重できるのが望ましい。（まだ働かないの？働いてて家のことできるの？等、それぞれの立場で言われるような社会でなく、個人の意志を自然と思われる社会。）（女性・30代）
- ・ 繁殖に支障のない範囲なら持ってもよいと考える。（男性・18～20代）
- ・ 理想（自分の考え）に近い働き方をすれば良い（女性・18～20代）
- ・ 何も考えない（男性・40代）
- ・ ずっと仕事をすれば良い（男性・40代）
- ・ 子供が2才～3才まで家事育児のため無職以降働く（答えたくない・どちらでもない・40代）
- ・ 理想は女性が家庭を担うことだが今後の少子化社会では女性も社会を担う必要があろう。（男性・18～20代）
- ・ その人の環境しだい（男性・50代）
- ・ 子供がいまないので、職はあった方がよいと思う。（女性・30代）
- ・ 男性が子育てできる環境であれば4番（子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい）（男性・50代）
- ・ やりたければ遠慮なくやれる環境を提供し支援も受けられると良い。人それぞれなのでケースバイケース。（男性・50代）
- ・ それぞれの家庭によって考えがあると思う（男性・60代）
- ・ 仕事をする、しないは完全に個人の事情による所が大きいと思うので、”一般に”という意見はありません。（女性・40代）
- ・ 人それぞれ（男性・40代）
- ・ それぞれ家庭の状況に合わせて決めればよい。（女性・18～20代）
- ・ 多様な選択肢を選べるようにするのがよい。（男性・60代）
- ・ 4（子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい）だが、子どもができた時に配慮される職場でなければならないと思う（女性・60代）
- ・ 本人の考え方を尊重すべき（男性・30代）
- ・ 子どもできる、できない両方職業を持っても良いと思う（女性・30代）
- ・ 職業や家庭環境により違うので決められない（女性・60代）
- ・ 本人が働きたいという思いがあるなら、ずっと職業を持ち続けられればよい。（女性・30代）
- ・ 個人の自由、社会がとやかく言うことではない（女性・40代）
- ・ 個人の自由（女性・30代）

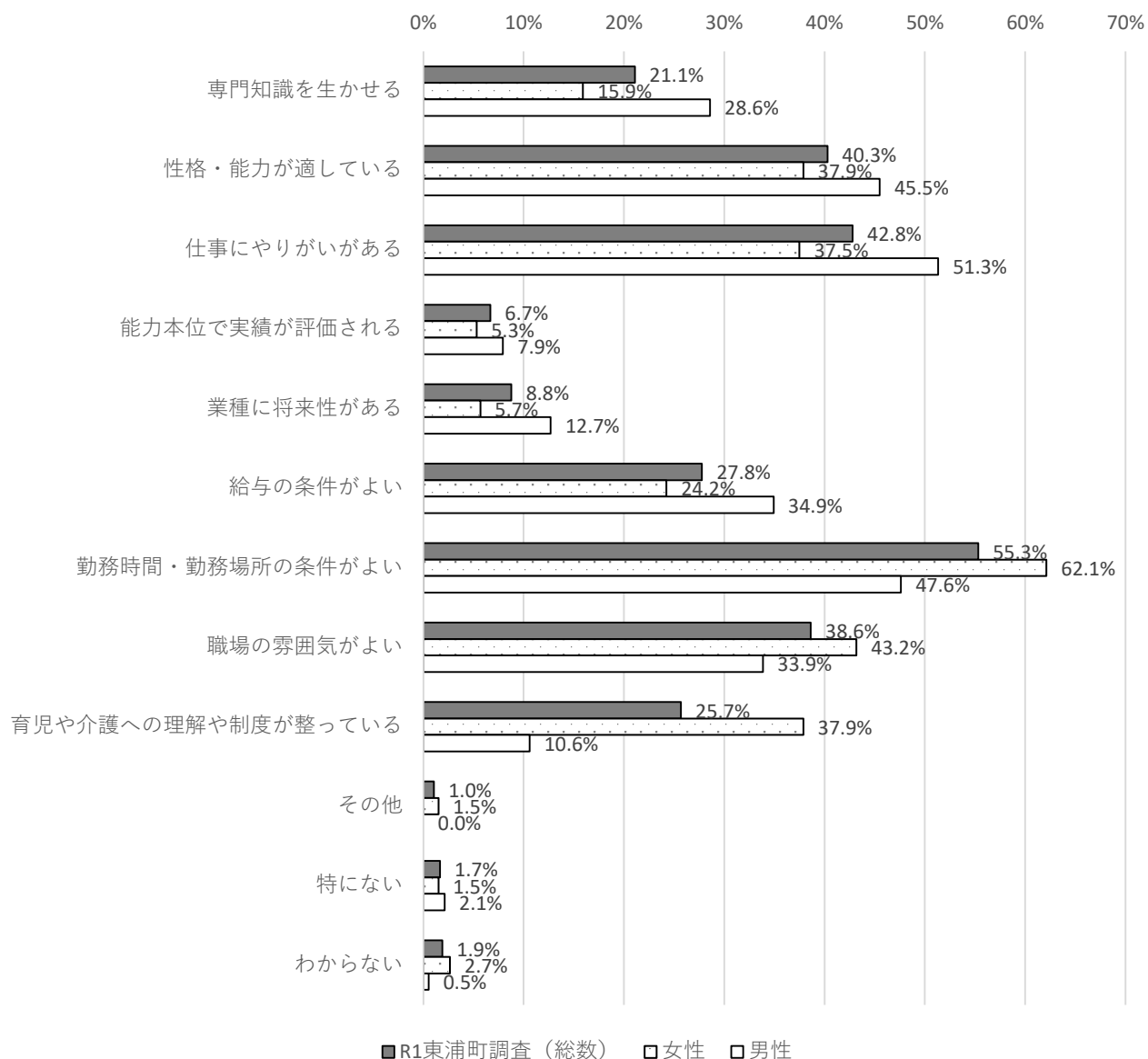
- ・ 子どもが3歳になるまでは親が育児をするべき！！（女性・60代）
- ・ こうあるべきではなく選択の多様性をしっかりと保障すべきである（男性・40代）
- ・ 子どもができたとしても本人が職業を持ちたければ持てば良い（男性・50代）

問13 あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。（複数回答）

女性では、「勤務時間・勤務場所の条件がよい」（62.1%）が最も高く、次いで「職場の雰囲気がよい」（43.2%）となっています。男性では「仕事にやりがいがある」（51.3%）が最も高く、次いで「勤務時間・勤務場所の条件がよい」（47.6%）となっています。

男女の差が最も大きいのが「育児や介護への理解や制度が整っている」で、女性は37.9%、男性は10.6%と、27.3%の差があります。男性と女性で育児や介護に対する意識に差があることが読み取れます。

問13 仕事を選ぶ際に重視すること

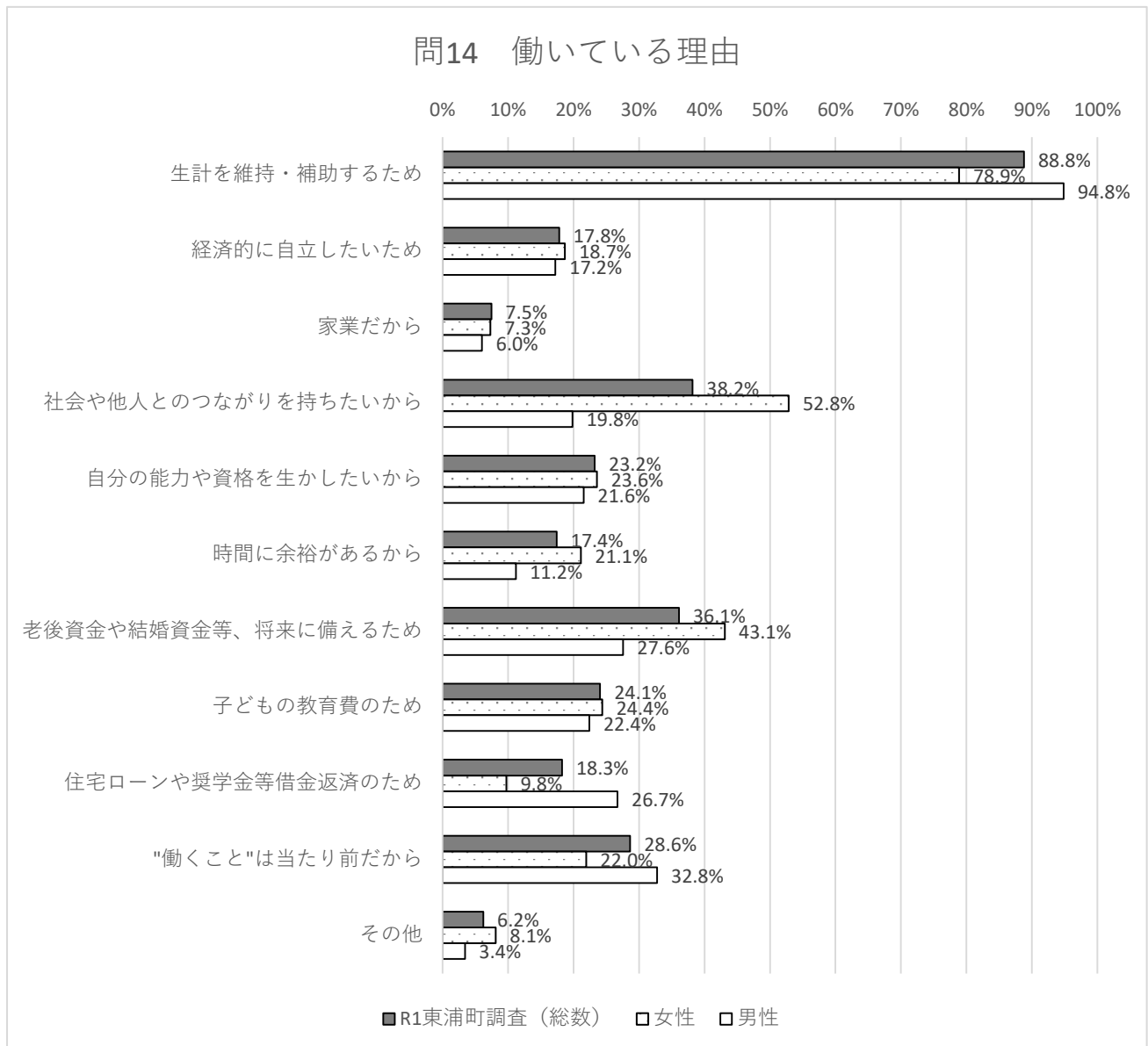


「その他」の記載内容

- ・ 子供の心の安心はやはり母の愛だと思う。小さいころは見てあげる方がよい。（女性・70代以上）
- ・ 休みが取りやすい。（女性・30代）
- ・ 会社社会に頼らず自立すること。（女性・60代）
- ・ 年々い的に答えにならない（性別・年齢未回答）
- ・ 福利厚生がしっかりしているところ（女性・60代）

問 14 就業している方（収入をとまなう仕事をしている方）にお聞きします。あなたが働いている理由は何ですか。（複数回答）

男女ともに、「生計を維持・補助するため」が最も高くなっています。（女性 78.9%、男性 94.8%）女性では次いで「社会や他人とのつながりを持ちたいから」（52.8%）が、男性では次いで「“働く”ことは当たり前だから」（32.8%）が高くなっています。男女の差が最も大きいのが「社会や他人とのつながりを持ちたいから」で、女性 52.8%、男性 19.8%と、33%の差があります。女性の方が仕事による社会や他人とのつながりを重視する傾向にあることが読み取れます。

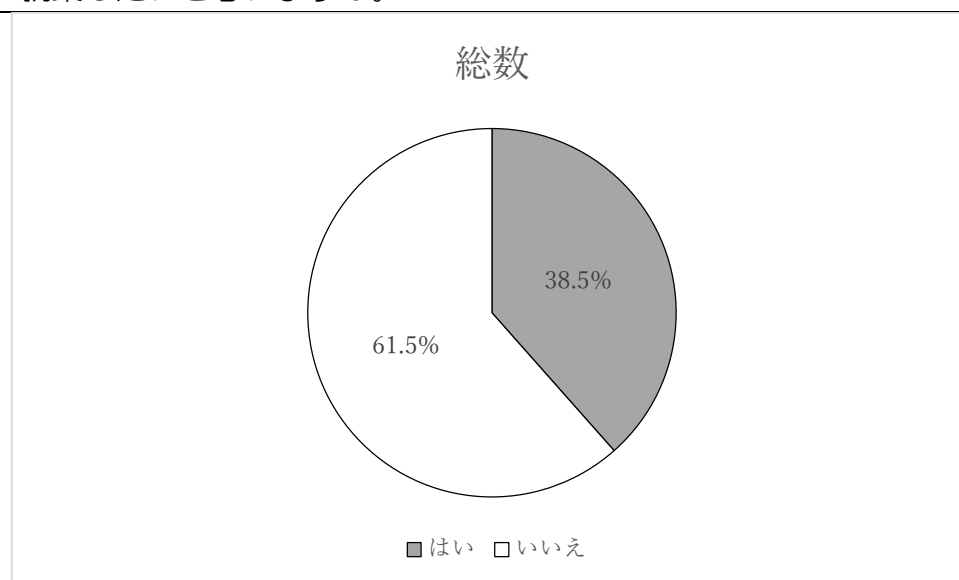


「その他」の記載内容

- ・ ダンナに何かしてあげたいから。（女性・30代）
- ・ 家にいたくないから（女性・40代）
- ・ 家族のため。質問の意味が不明（男性・50代）
- ・ 老後が心配（女性・50代）

- ・ 自分を成長させたいから。(男性・18～20代)
- ・ 年金生活(性別・年齢未回答)
- ・ 人間性をみがくため(男性・50代)
- ・ 楽しいから(女性・40代)
- ・ おこづかい稼ぎ(バイト)(女性・18～20代)
- ・ やりがいがあるから。(女性・30代)
- ・ やりたいことだから(男性・30代)
- ・ 認知症にならないため、自分のこづかいが欲しいため、生活にゆとりを持ちたいため。(女性・60代)
- ・ 周りの人に頼まれたから(女性・70代以上)
- ・ 健康のため(女性・60代)

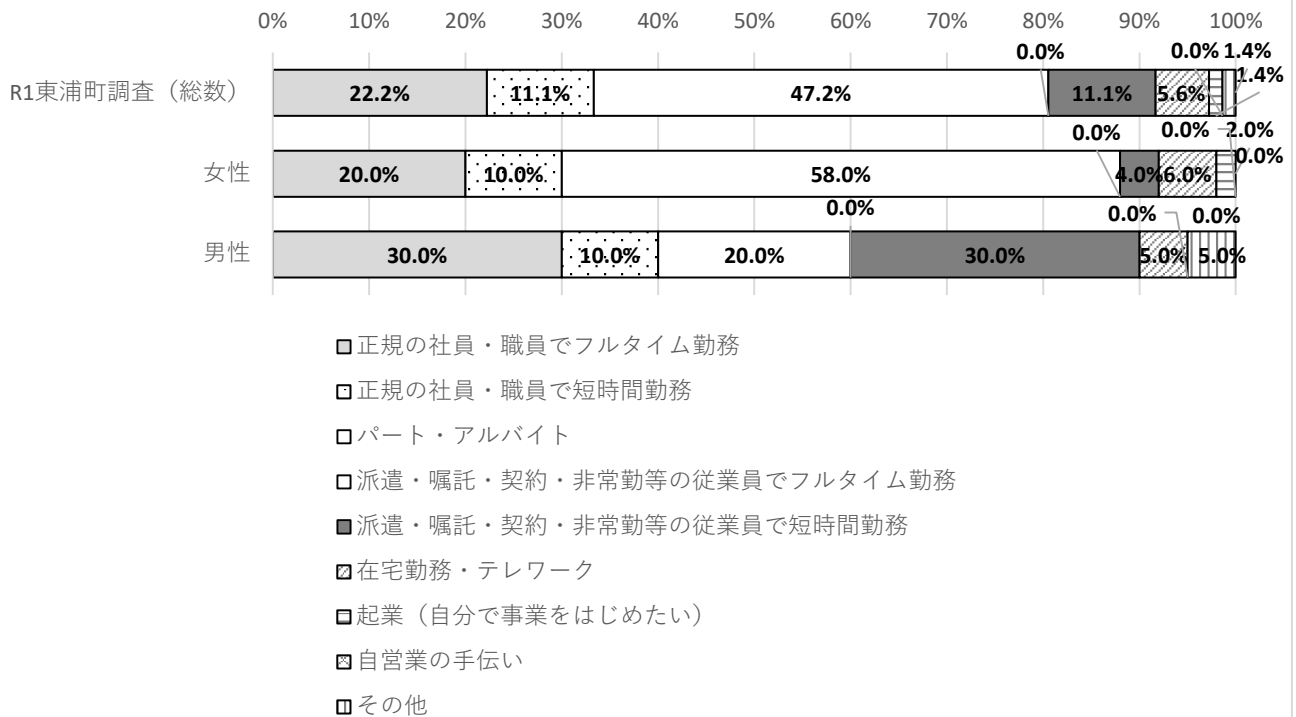
問15 就業していない方(収入をとまなう仕事をしていない方)にお聞きします。今後、就業したいと思いますか。



問16 問15で「はい」と答えた方にお聞きします。どのような働き方を希望しますか。(単数回答)

女性では「パート・アルバイト」と回答した人の割合がもっとも高く、全体の約6割を占めています。次いで高いのは「正規の社員・職員でフルタイム勤務」(20.0%)となっています。男性では「正規の社員・職員でフルタイム勤務」と「派遣・嘱託・契約・非常勤等の従業員で短時間勤務」が同数(30.0%)で最も高くなっており、次いで「パート・アルバイト」(20.0%)の割合が高くなっています。

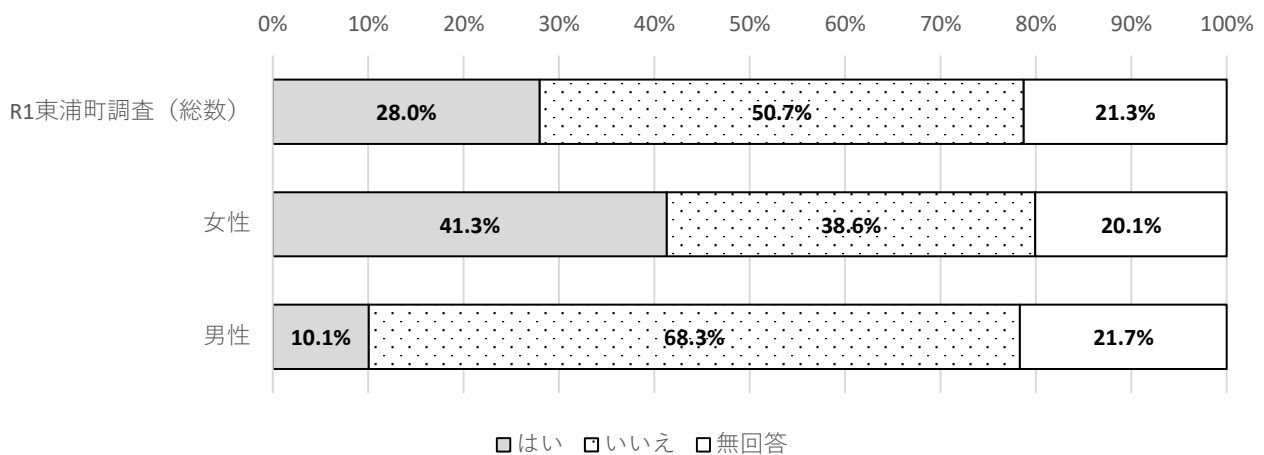
問16 働き方の希望



問17 あなたは、これまで（現在を含む）働き続けたいけれど、働くことができなかったことがありますか。（単数回答）

「はい」と答えた人の割合には大きく男女差が見られ、女性が男性の約4倍となっています。

問17 働くことができなかったこと

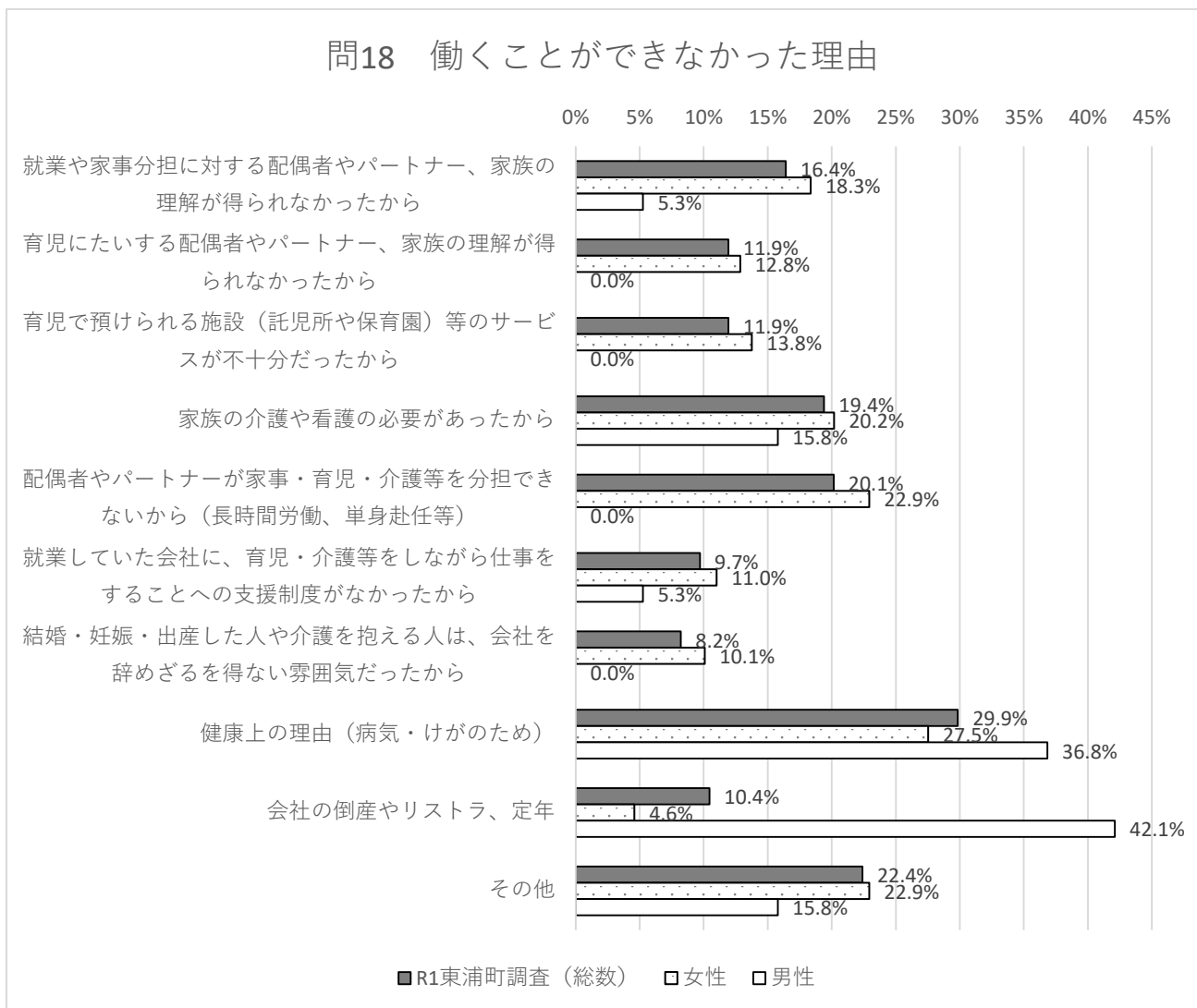


問 18 問 17 で「はい」と回答した方にお聞きします。働き続けたいけれど、働くことができなかった理由は何ですか。（複数回答）

女性では「健康上の理由（病気・けがのため）」（27.5%）が最も多く、次いで「配偶者やパートナーが家事・育児・介護等を分担できないから（長時間労働・単身赴任等）」（22.9%）、「その他」（22.9%）となっています。

男性では「会社の倒産やリストラ、定年」（42.1%）が最も多く、次いで「健康上の理由（病気・けがのため）」（36.8%）となっています。

男女の差が最も大きいのが「会社のリストラ、定年」で、男性が 42.1%に対し女性が 4.6%と、男性が女性の約 9 倍となっています。



「その他」の記載内容

- ・ 通勤に時間がかかる距離へ引っ越したため（女性・40代）
- ・ 子どもが好きで自分の子は自分で育児をしたかった（女性・60代）
- ・ 就職難（男性・40代）
- ・ 上司との折り合いが悪くなった（女性・18～20代）

- ・ 育児をしながら就業が自分にはできないから（女性・30代）
- ・ 派遣社員のため（女性・30代）
- ・ 事業主のパワハラ（女性・50代）
- ・ 希望する会社が見つからなかった（男性・70代以上）
- ・ 人間関係でトラブルがあったため。（女性・30代）
- ・ 会社での納得できない事柄の数々がありすぎたため。（女性・30代）
- ・ 結婚で他県へ引っ越したため（女性・30代）
- ・ 子どもの病気（女性・50代）
- ・ 年齢制限（女性・70代以上）
- ・ 学童保育サービスの不十分さ、条件がきびしい。隣家に健康な祖父母がいても育児を任せられるとは限らないから。（女性・40代）
- ・ 自己都合（女性・60代）
- ・ 妊娠していたため（女性・18～20代）
- ・ 年とともに体力の低下（男性・70代以上）
- ・ 配偶者が転勤族だったから（女性・60代）
- ・ 畑を持っているため、草刈り等の収入のない仕事があったため（女性・50代）
- ・ 会社移転で通勤不可となった為。（女性・40代）
- ・ 子供のために。（女性・60代）
- ・ 高齢（女性・70代以上）
- ・ 妊娠し、切迫早産で絶対安静だったため（女性・30代）
- ・ 年金受給額の関係で扶養控除はずれてしまうため（女性・60代）
- ・ 自身の妊娠・出産・育児休暇（女性・40代）
- ・ 年齢制限があった、勤務先が見つからなかった（女性・60代）
- ・ 夫の転勤（女性・50代）
- ・ 孫の保育園の送り又病気になった時（女性・60代）
- ・ 子どもが小さい時は、体力的に無理だと思ったから（どちらでもない・答えたくない・40代）
- ・ 働いていた会社がきらいだった（女性・60代）

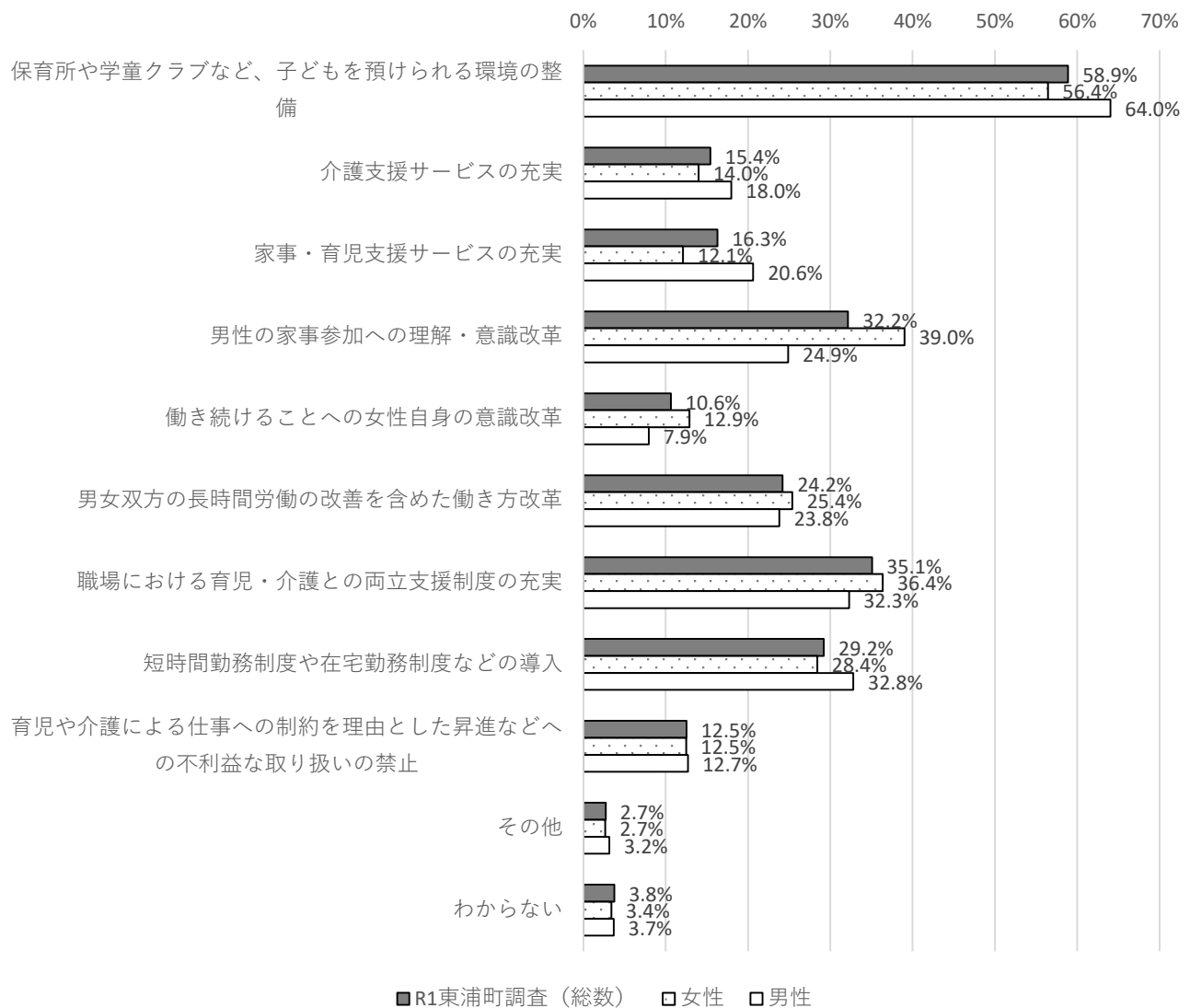
問 19 女性が離職せず同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（複数回答）

男女ともに、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」と回答した人の割合が最も高くなっています。（女性 56.4%、男性 64.0%）

女性では、「男性の家事参加への理解・意識改革」が 39.0%と 2 番目に高くなっています。男性では、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が 32.8%と 2 番目に高くなっています。

男女で最も回答割合の差が大きいのが「男性の家事参加への理解・意識改革」の項目で、女性が 39.0%に対し男性が 24.9%と、14.1%の差があります。

問19 女性が離職せず働き続けるために必要なこと



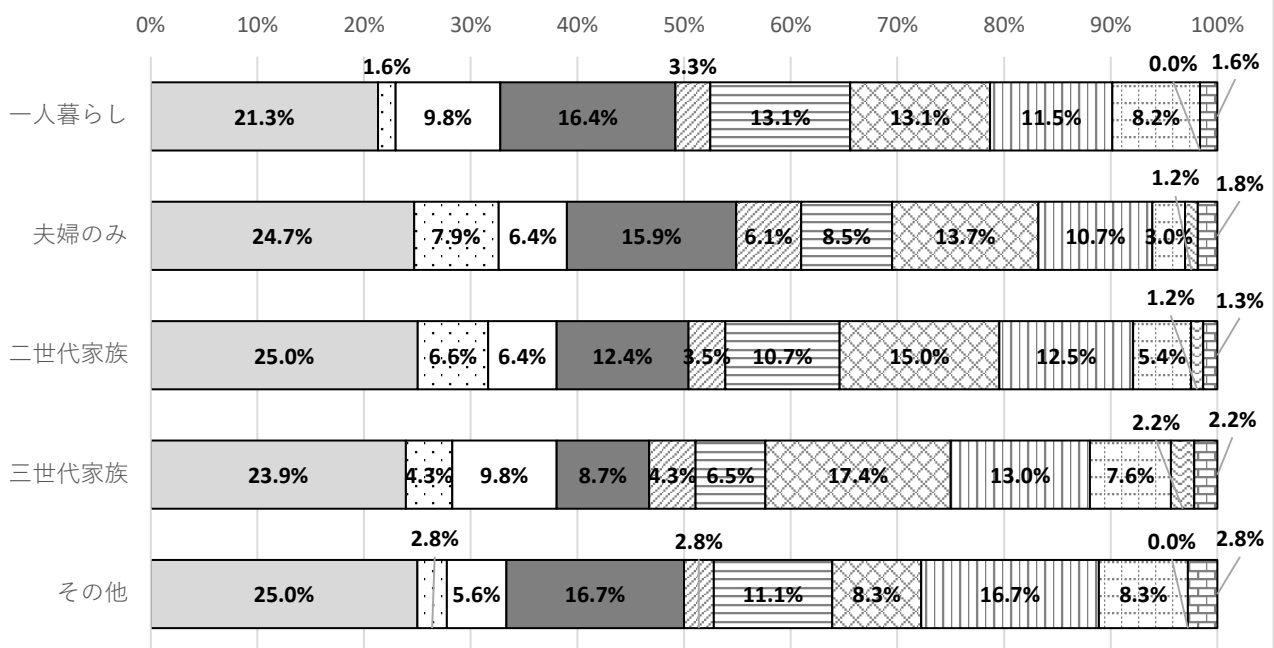
「その他」の記載内容

- ・ 女性は働かないとだめなの？（男性・50代）
- ・ 離職が場合によっては必要だと思う。むしろ再就職のしやすさ等を重要視したい。（男性・30代）
- ・ 職場内の保育所があるとよかった。（女性・40代）
- ・ 職場における（上司も含め）育児に対しての理解、意識改革（女性・18～20代）
- ・ 日本の社会の意識改革（男性・50代）
- ・ 男女平等における「区別」と「差別」の違いが理解できる教育と社会的なコンセンサスの確立（男性・50代）
- ・ 社会経験、スキル、資格があれば仕事の選択が増える。（男性・40代）
- ・ 主婦が職業であると認識させること。（男性・18～20代）
- ・ 育児休業の制度を非正規職員にも認める（女性・30代）

- ・ 短時間勤務制度を利用しやすい職場の雰囲気（女性・18～20代）
- ・ 保育士の給与等を良くして、保育士を多く確保して毎日勤務から曜日勤務などに変更し、土日働く人（利用者）たちに対応した保育園が必要。（女性・40代）

世帯構成別に見ると、いずれの世帯構成でも「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高くなっています。「男性の家事参加への理解・意識改革」の項目は「一人暮らし」で最も低く、「一人暮らし」「夫婦のみ」「二世帯家族」「三世帯家族」の順に割合が高くなっています。

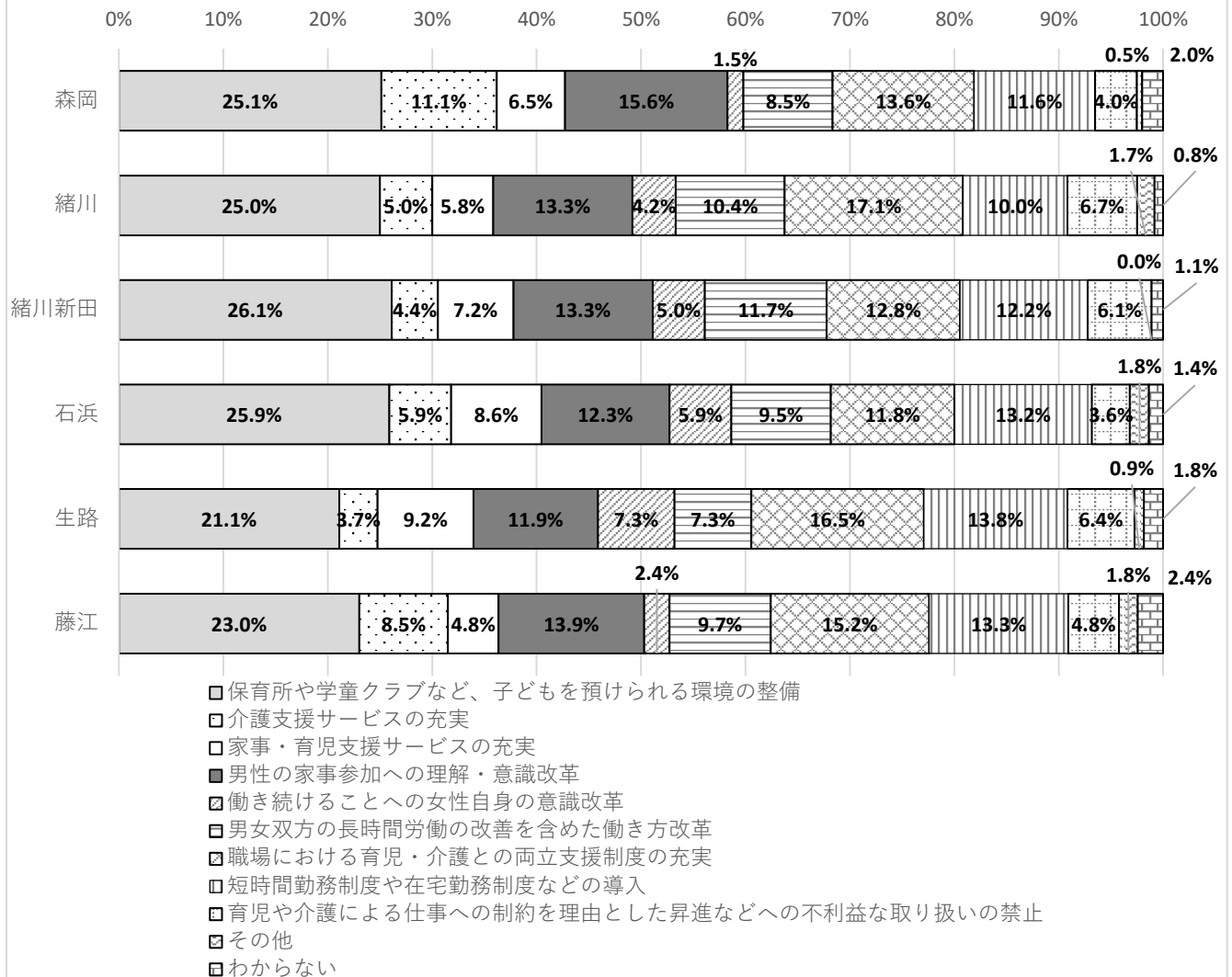
問19 女性が離職せず働き続けるために必要なこと（世帯構成別）



- ☐ 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- ☐ 介護支援サービスの充実
- ☐ 家事・育児支援サービスの充実
- ☒ 男性の家事参加への理解・意識改革
- ☒ 働き続けることへの女性自身の意識改革
- ☐ 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- ☒ 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- ☐ 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- ☐ 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取り扱いの禁止
- ☒ その他
- ☐ わからない

回答者の居住地区別に見ると、どの地区においても「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」がもっとも高くなっています。「介護支援サービスの充実」は森岡地区での割合が最も高く（11.1%）、最も低い生路地区（3.7%）の3倍となっています。「働き続けることへの女性自身の意識改革」は生路地区で最も高く（7.3%）、最も低い森岡地区（1.5%）の約4.8倍となっています。

問19 女性が離職せず働き続けるために必要なこと
(地区別)



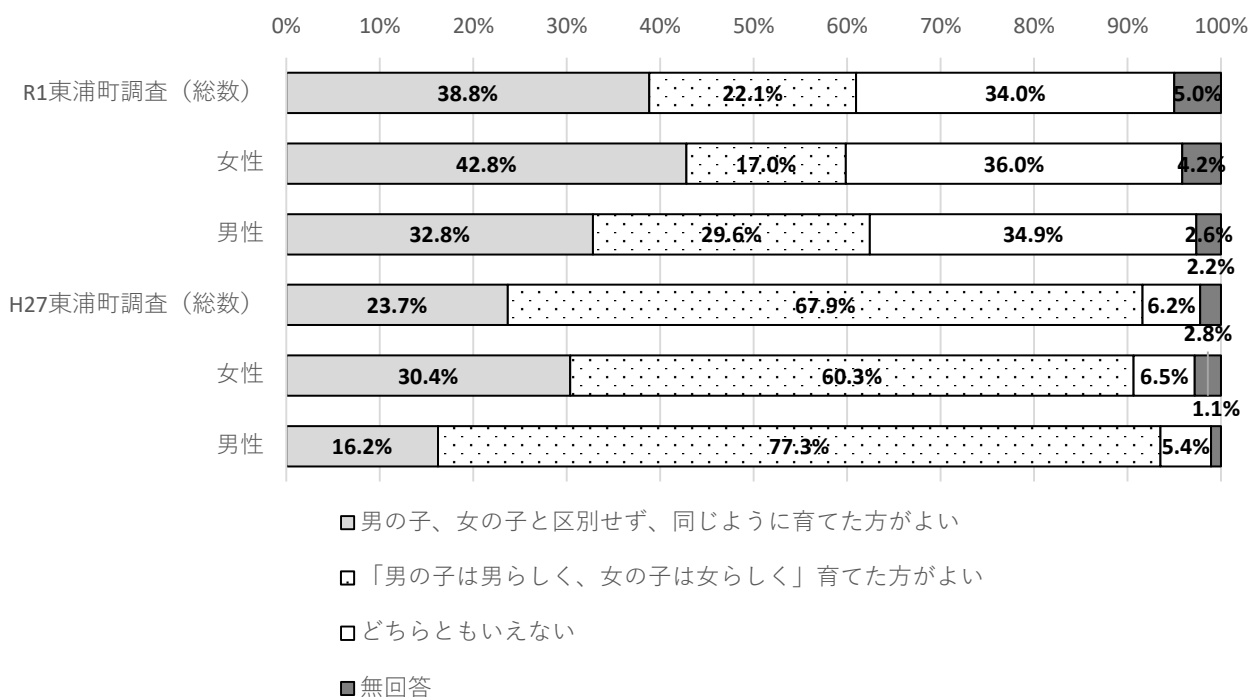
(3) 子どもの教育について

問 20 あなたは「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方についてどう
思いますか。(単数回答)

総数では「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」(38.8%)が最も高くなっていますが、男性では「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」(32.8%)を「どちらともいえない」(34.9%)が上回っています。前回調査は設問及び選択肢の記述が異なっているため一概に比較できませんが、概ね『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」とする人の割合は減少し、「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」とする人の割合が増加しているといえます。

男女別に見ると、女性の方が「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答する割合が高く、男性の方が「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」と回答する割合が高くなっています。

問20「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方



※前回調査での設問は「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』という育て方についてどう思いますか」。

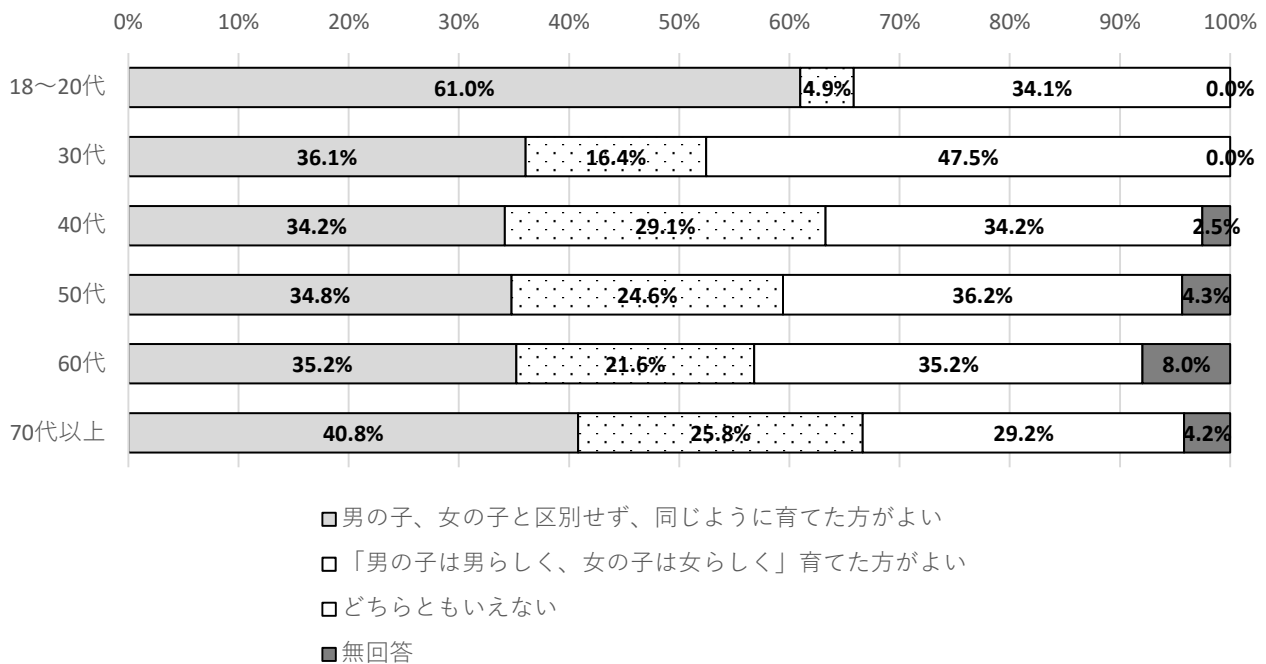
回答のうち、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」に、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」に、「わからない」を「どちらともいえない」に換算しています。

年代別に見ると、「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答した割合は18～20代で最も高く（61.0%）、他の年代と比較して概ね20%以上の差があります。また、「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」の回答割合も最も低く（4.9%）、最も高い40代（29.1%）と比較すると24.2%の差があります。

「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」と回答した割合は40代で最も高く（29.1%）、同時に「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」の割合は各年代で最も低くなっています。（34.2%）

70代以上は「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答した人の割合は18～20代に次いで2番目に高く（40.8%）、「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」と回答した人の割合も、40代に次いで2番目に高くなっています。（25.8%）

問20 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方 (年代別)



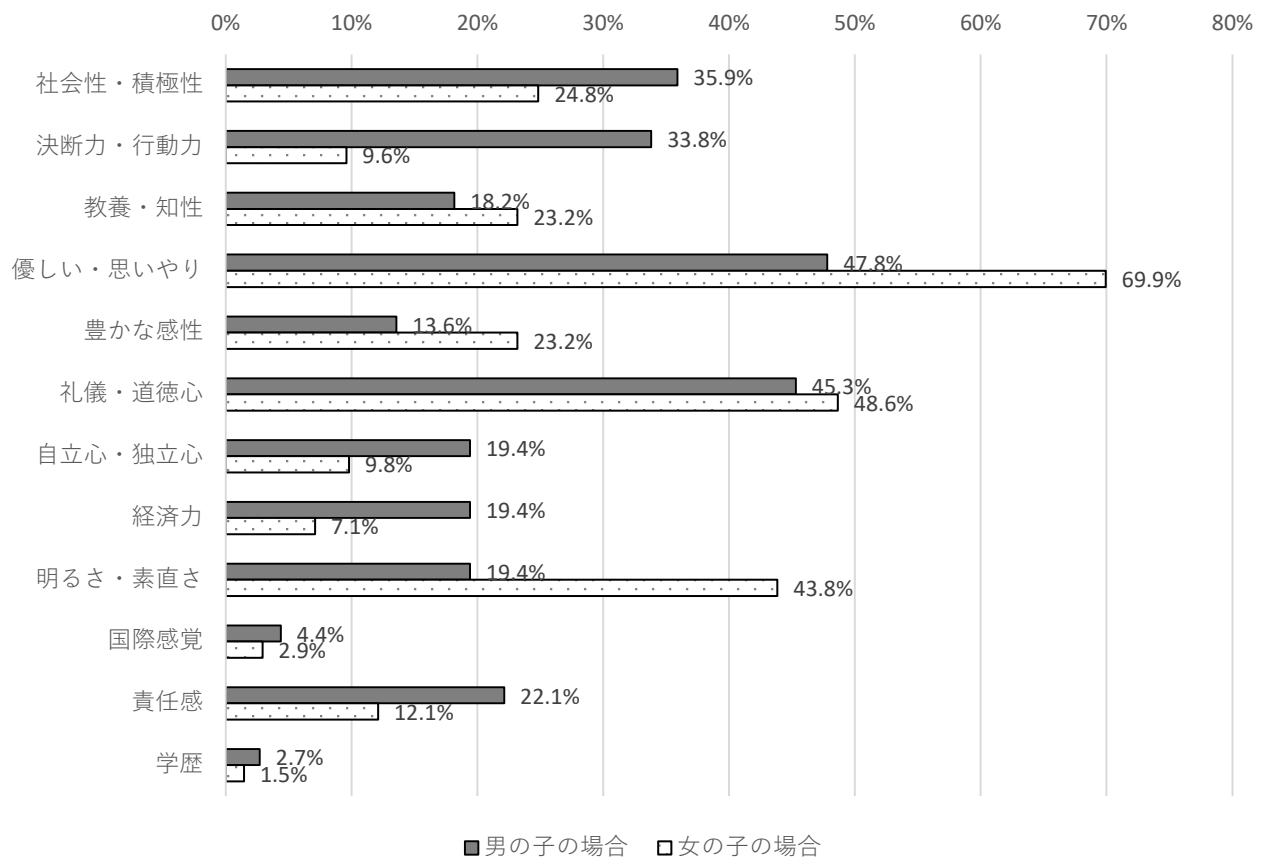
問21 あなたは、子どもに対し、どのようなことを身に付けてほしいと思いますか。

子どもに身に付けてほしいことは、男の子の場合、女の子の場合ともに「優しい・思いやり」と回答した人の割合が最も高くなっていますが、「男の子の場合」(47.8%)と「女の子の場合」(69.9%)では22.1%の差があります。また、男女ともに次いで高いのは「礼儀・道徳心」ですが、こちらは「男の子の場合」(45.3%)、「女の子の場合」(48.6%)の差は3.3%と、それほど大きくありません。三番目に高いのは、男の子の場合は「社会性・積極性」(35.9%)、女の子の場合は「明るさ・素直さ」(48.6%)となっています。

「男の子の場合」と「女の子の場合」の差が大きい(10%以上)項目は、差が大きい順に「明るさ・素直さ」(男の子の場合 19.4%、女の子の場合 43.8%、差 24.4%)、「決断力・行動力」(男の子の場合 33.8%、女の子の場合 9.6%、差 24.2%)、「優しい・思いやり」(男の子の場合 47.8%、女の子の場合 69.9%、差 22.1%)、「経済力」(男の子の場合 19.4%、女の子の場合 7.1%、差 12.3%)、「社会性・積極性」(男の子の場合 35.9%、女の子の場合 24.8%、差 11.1%)、「責任感」(男の子の場合 22.1%、女の子の場合 12.1%、差 10.0%)となっています。

女の子には「明るさ・素直さ」、「優しい・思いやり」、男の子には「決断力・行動力」、「経済力」、「社会性・積極性」、「責任感」を求める傾向が読み取れます。

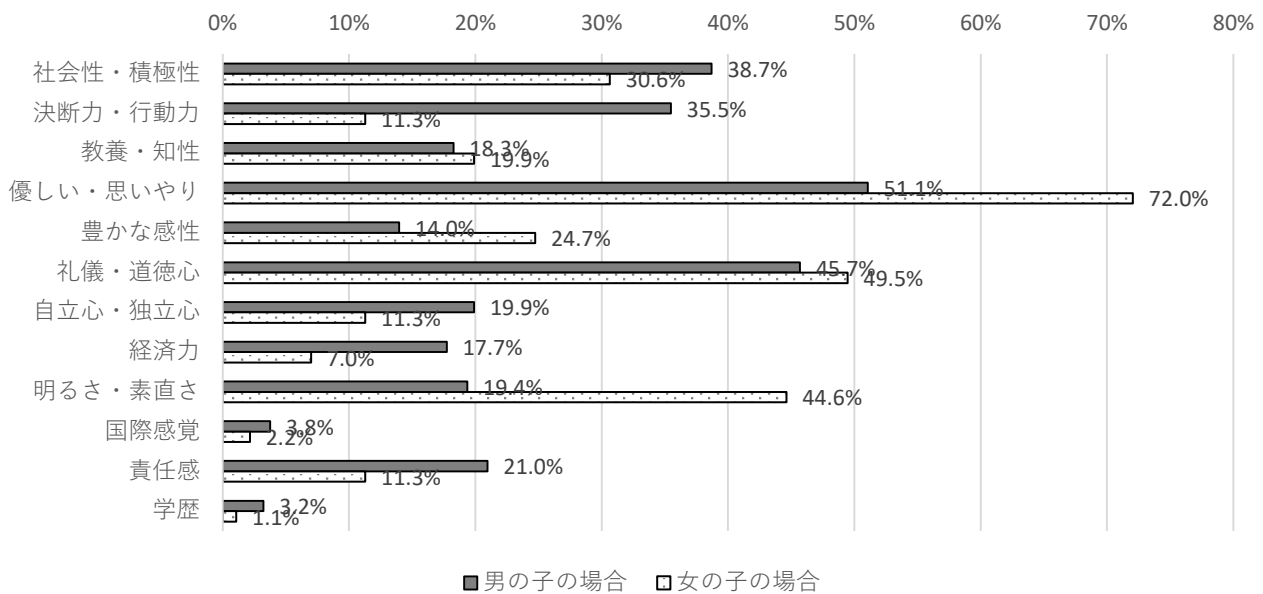
問21 子どもに身につけてほしいこと



問 20 『男の子は男らしく、女の子は女らしく』という育て方についてどう思いますか』にて「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答した人と『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」と回答した人に分けてみると、「同じように育てた方がよい」と回答した人でも、男の子の場合、女の子の場合ともに「優しい・思いやり」が最も高くなっていますが、女の子の場合が 72.0%と、男の子の場合（51.1%）と比較して約 21%の差があります。

女の子には「明るさ・素直さ」、「優しい・思いやり」、男の子には「決断力・行動力」、「経済力」、「社会性・積極性」、「責任感」を求める傾向は全体と同様ですが、「社会性・積極性」の項目では男の子の場合と女の子の場合の差がやや小さくなっています。

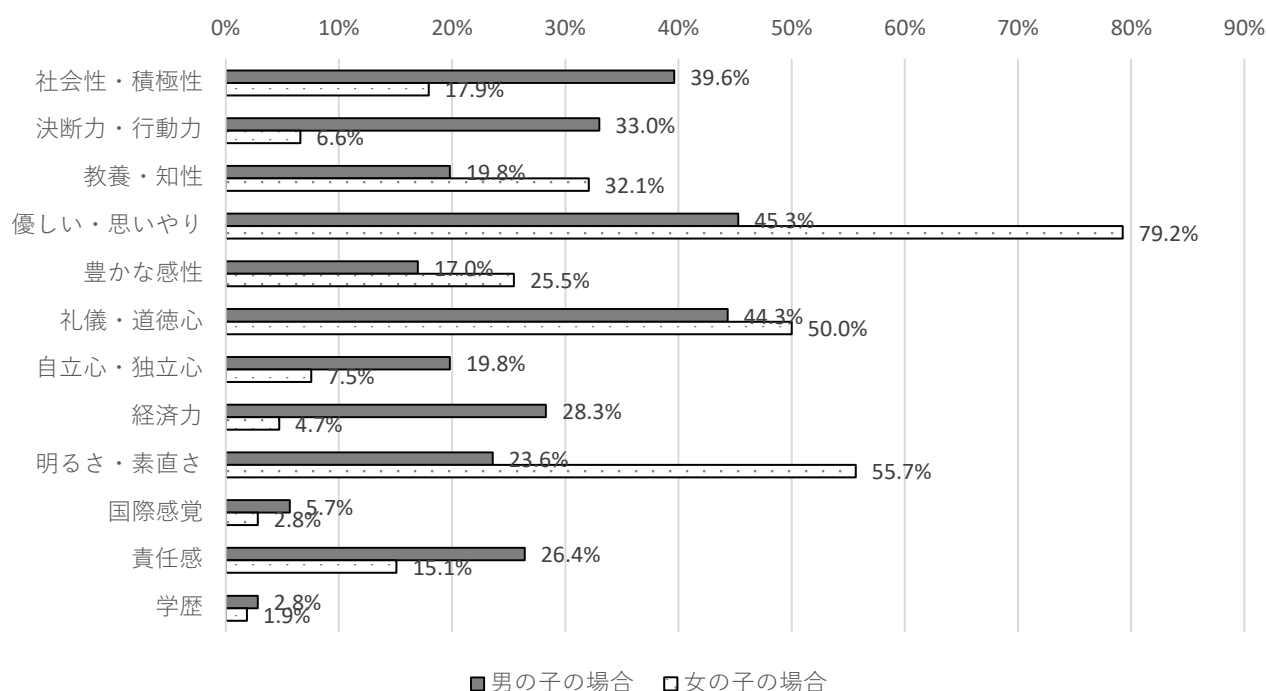
問21 子どもに身につけてほしいこと (同じように育てる)



問20『男の子は男らしく、女の子は女らしく』という育て方についてどう思いますか』にて『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい』と回答した人では、同様に男の子の場合も女の子の場合もともに「優しい・思いやり」の割合がもっとも高くなっていますが、女の子の場合が79.2%と、男の子の場合(45.3%)と比較して約33.9%の差があります。「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答したグループに比べ、男の子の場合、女の子の場合の差が大きくなっています。全体、「同じように育てた方がよい」のグループと同様に、男の子場合、女の子の場合ともに「礼儀・道徳心」が二番目に高くなっています。

女の子には「明るさ・素直さ」、「優しい・思いやり」、男の子には「決断力・行動力」、「経済力」、「社会性・積極性」、「責任感」を求める傾向は全体と同様ですが、「社会性・積極性」、「経済力」の項目では男の子の場合と女の子の場合の差がより大きくなっています。また、このグループでは「教養・知性」について女の子に求める傾向が強く、男の子の場合が19.8%に対し女の子の場合は32.1%と、12.3%の差があります。

問21 子どもに身につけてほしいこと
(男らしく、女らしく育てる)

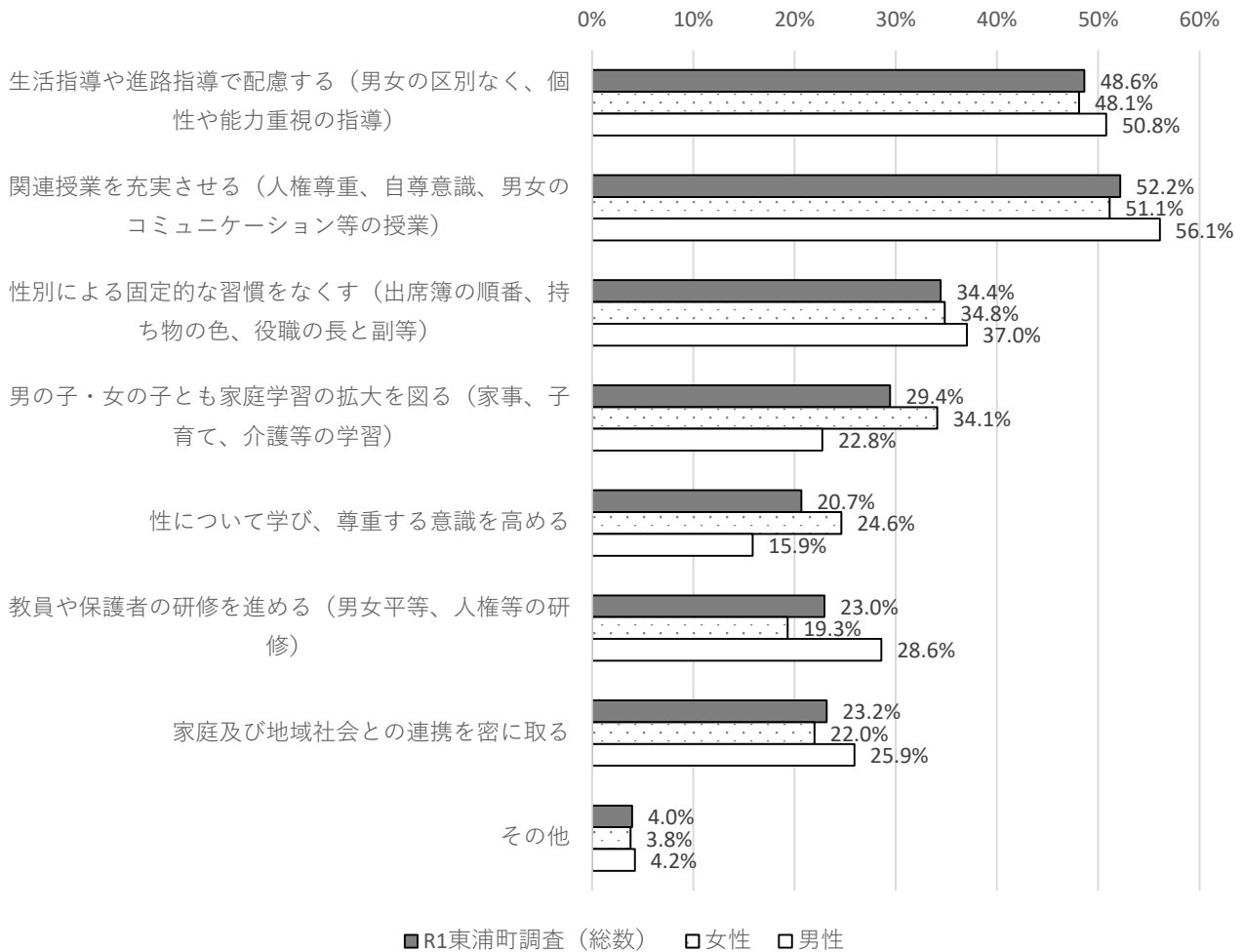


問22 あなたは、男女が互いを尊重しあえる子どもを育てるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思いますか。(複数回答)

男女ともに、「関連授業を充実させる（人権尊重、自尊意識、男女のコミュニケーション等の授業）」が最も高くなっています。次いで高くなっているのは「生活指導や進路指導で配慮する（男女の区別なく、個性や能力重視の指導）」です。この2項目については、男女どちらも1番目、2番目に高くなっています。

男女別でもっとも差が大きい項目は「男の子・女の子とも家庭学習の拡大を図る（家事、子育て、介護等の学習）」で、女性では34.1%、男性では22.8%と、11.3%の差があります。

問22 学校教育で力を入れること



「その他」の記載内容

- ・ 中堅年代（40代以降）の先生方の頭、考え方が堅い、片寄っている（受けてきた教育のせいかも）（女性・30代）
- ・ 不透明で良く理解できない（女性・60代）
- ・ 子供が居ないのでわかりません（女性・40代）
- ・ 全部（男性・50代）
- ・ 社会情勢をテーマとした教習時間を設定する（男性・70代以上）
- ・ 人、個人を尊重することを教え、いじめのない学校（男性・50代）
- ・ 道德教育の充実（男性・70代以上）
- ・ 男女双方が協力しなければ打倒できないような敵を作る。（男性・18～20代）
- ・ 先生の道德心（男性・40代）
- ・ ボランティア活動、社会活動への参加などで集団チームでの活動機会を増やす（男性・30代）
- ・ いじめについてあってはならない（女性・70代以上）
- ・ 家庭で、両親が尊重し合う姿を子供達に見せる。（女性・60代）
- ・ 宗教教育（仏教）（女性・60代）

- ・ 教師だけが話す授業ではなく、グループ学習や生徒たちが意見交換するような、主張できるような授業のスタイルも取り入れる（女性・30代）
- ・ 制服をなくす（女性・40代）

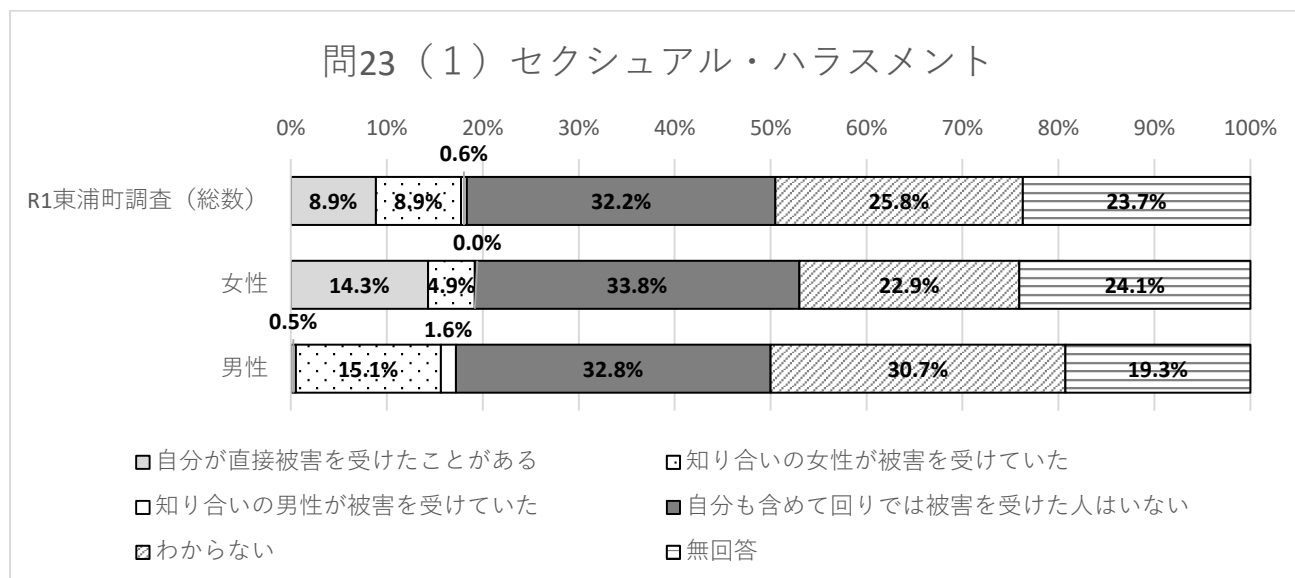
（４）人権意識について

問23 あなたは、セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントについて、次のような経験はありますか。（単数回答）

（１）セクシュアル・ハラスメント

「自分が直接被害を受けたことがある」「知り合いの女性が被害を受けていた」「知り合いの男性が被害を受けていた」と回答した人を合わせると、18.4%の人がセクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことがあることになります。

「自分が直接被害を受けたことがある」は男性と女性で大きく差があり、女性は14.3%、男性は0.5%と、差が13.8%となっています。「知り合いの女性が被害を受けていた」は女性で4.9%、男性で15.1%となっており、差が10.2%となっています。

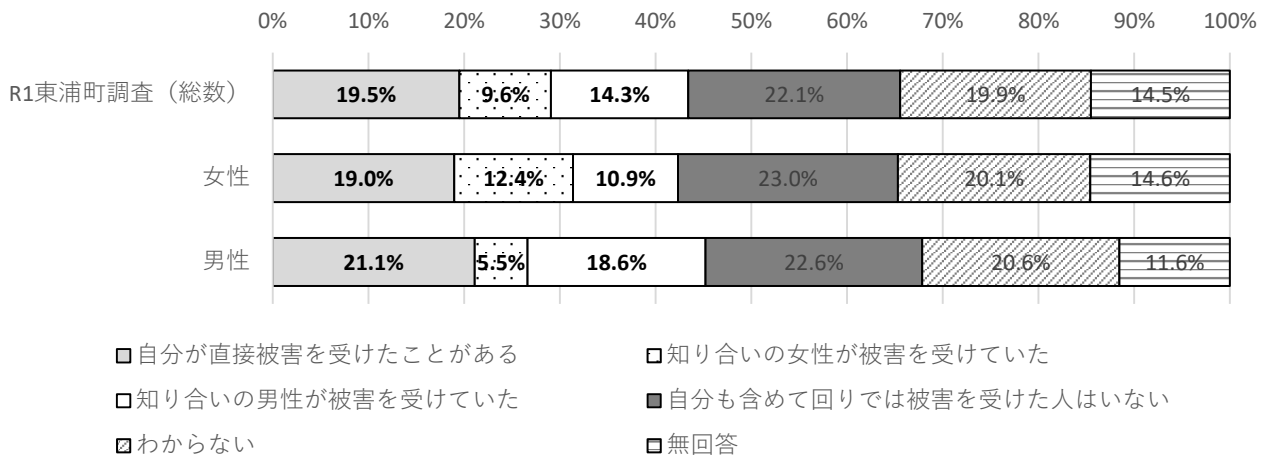


（２）パワー・ハラスメント

「自分が直接被害を受けたことがある」「知り合いの女性が被害を受けていた」「知り合いの男性が被害を受けていた」と回答した人を合わせると、43.4%の人がパワー・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことがあることになります。

「自分が直接被害を受けたことがある」は男性と女性でほぼ同程度となっていますが、「知り合いの女性が被害を受けていた」「知り合いの男性が被害を受けていた」については、それぞれ同性の被害を見聞きした割合の方が高くなっています。

問23 (2) パワー・ハラスメント

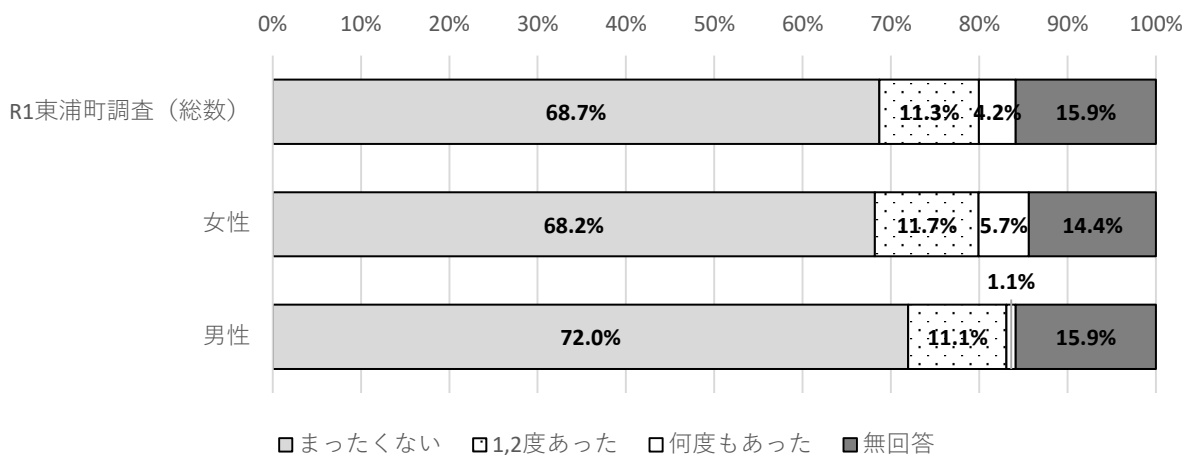


問 24 これまで結婚したことのある方（婚姻届けを出していない事実婚や別居中の夫婦も含む。）や交際相手がいる（いた）方にお聞きします。
あなたは、これまで配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
（単数回答）

（１）身体的暴力（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

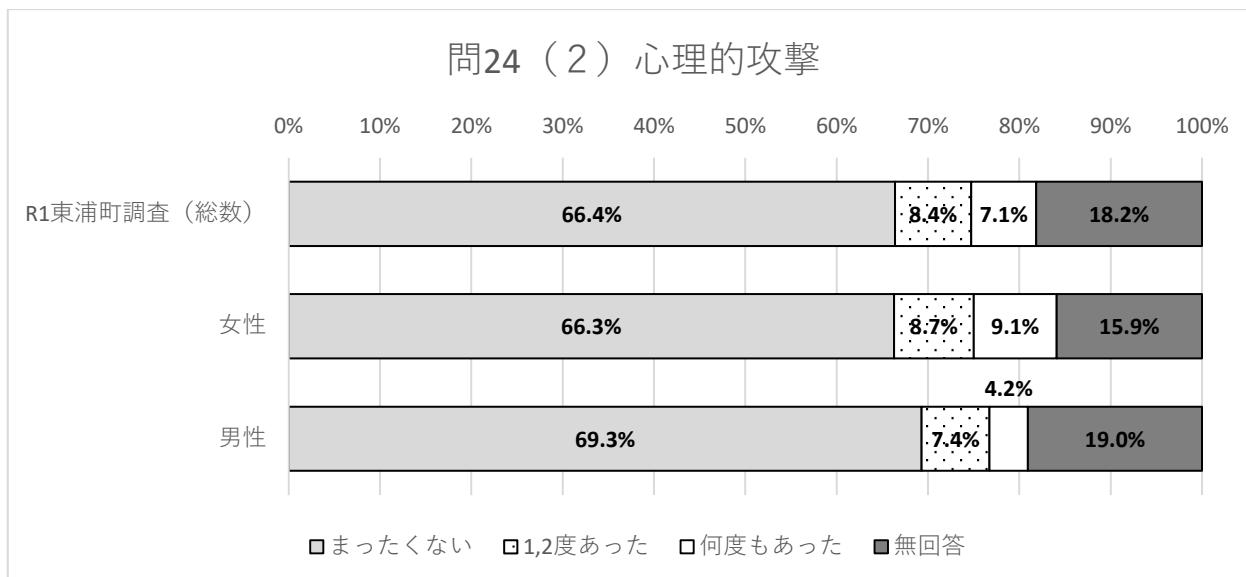
「身体的暴力」は「１、２度あった」「何度もあった」を合わせた割合（15.5%）が「心理的攻撃」と並んで高くなっています。男女別にみると、「１、２度あった」と回答した人はほぼ同程度ですが、「何度もあった」と回答した人は女性の方が男性より 4.6%高くなっています。

問24 (1) 身体的暴力



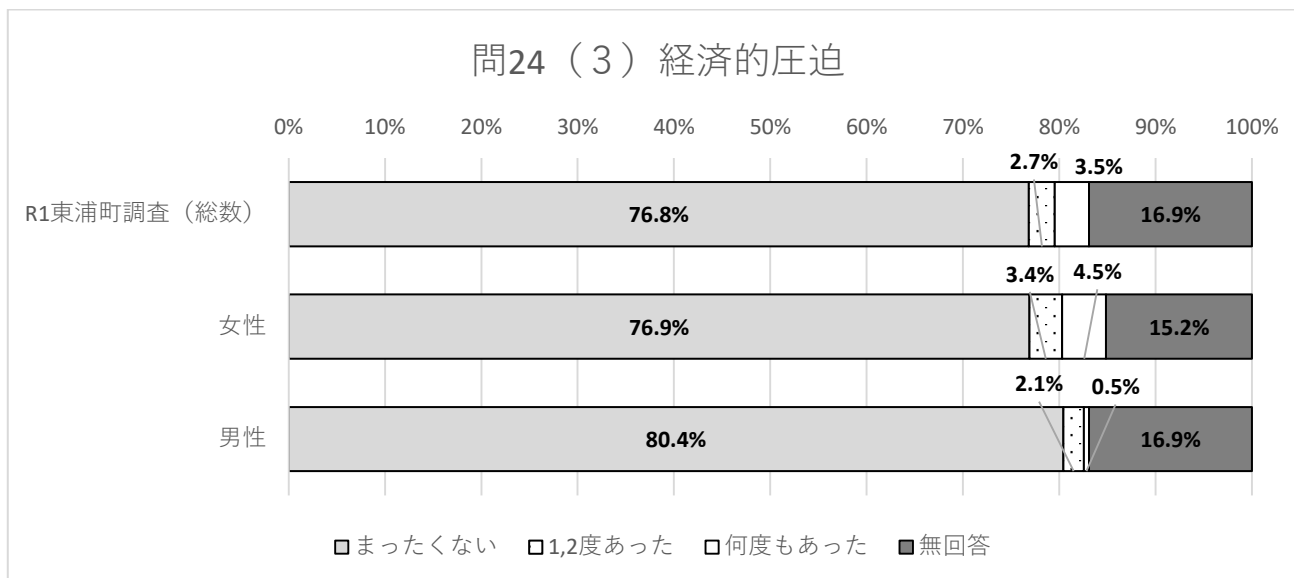
（２）心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの心理的嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

「心理的攻撃」は「1、2度あった」「何度もあった」を合わせた割合（15.5%）が「身体的暴力」と並んで高くなっており、特に「何度もあった」と回答した人の割合は問24の4項目の中でもっとも高くなっています。男女別に見ると、「1、2度あった」及び「何度もあった」において女性の方が割合が高い傾向にあります。



（3）経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害させられるなど）

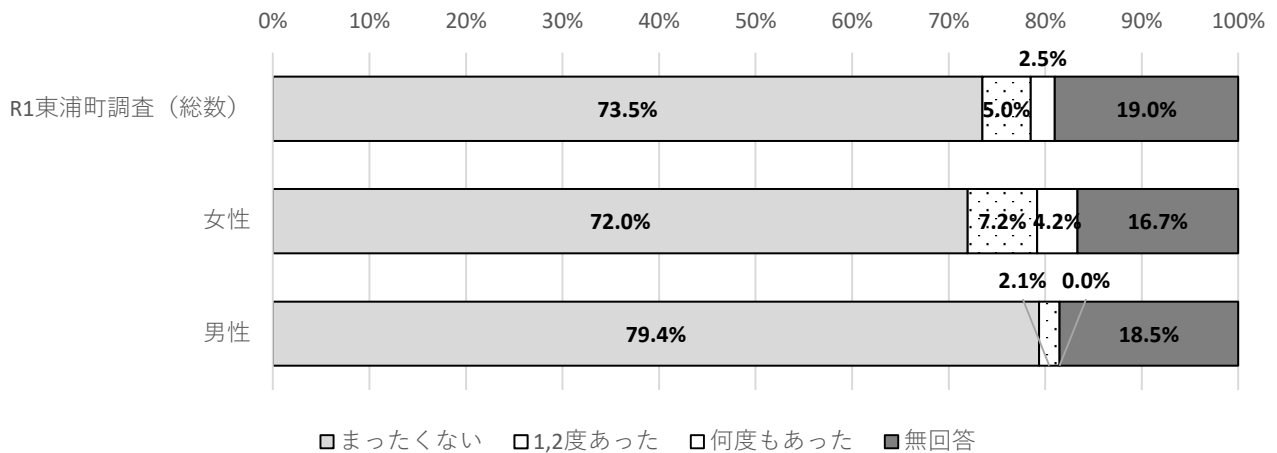
「経済的圧迫」は問24の4項目の中では「1、2度あった」「何度もあった」と回答した人の割合が低くなっています。男女別にみると、「1、2度あった」「何度もあった」のどちらの回答も女性の方が割合が高くなっています。



（4）性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

「性的強要」は、「1、2度あった」「何度もあった」と回答した人の割合の男女間での差がもっとも大きく、二つの項目を合わせた割合は女性で11.4%、男性で2.1%と、9.3%の差があります。

問24（４）性的強要

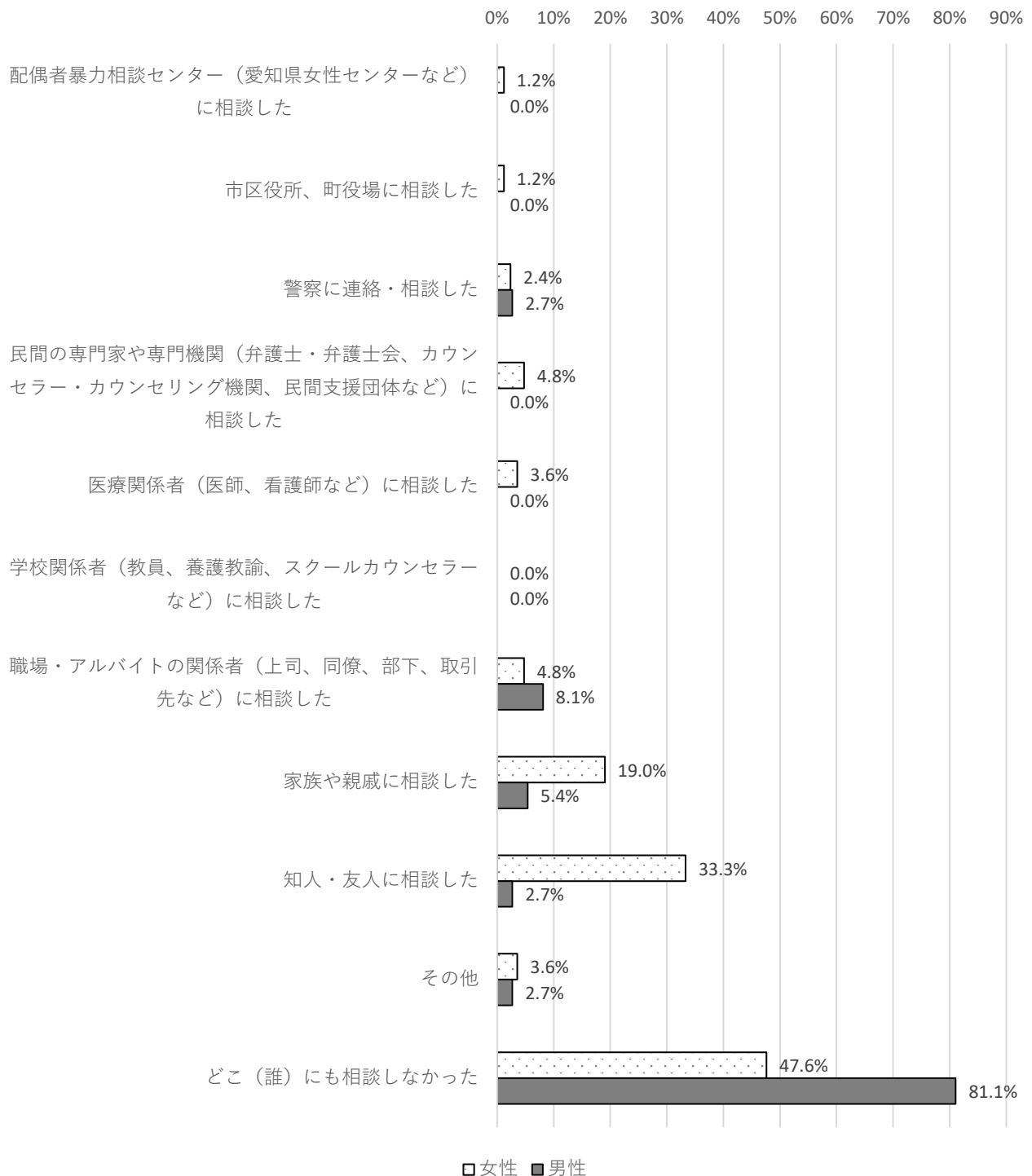


問 25 問 24 で「1，2度あった」「何度もあった」と回答した方にお聞きします。あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（複数回答）

男女ともに、「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した人が最も多くなっていますが、男性の割合が 81.1%、女性の割合が 47.6%と、33.5%の差があります。

相談した先でもっとも多いのは女性の場合は「知人・友人」（33.3%）、次いで「家族や親戚」（19.0%）となっており、男性の場合は「職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）」（8.1%）がもっとも多くなっており、次いで「家族や親戚」（5.4%）となっています。

問25 相談した先

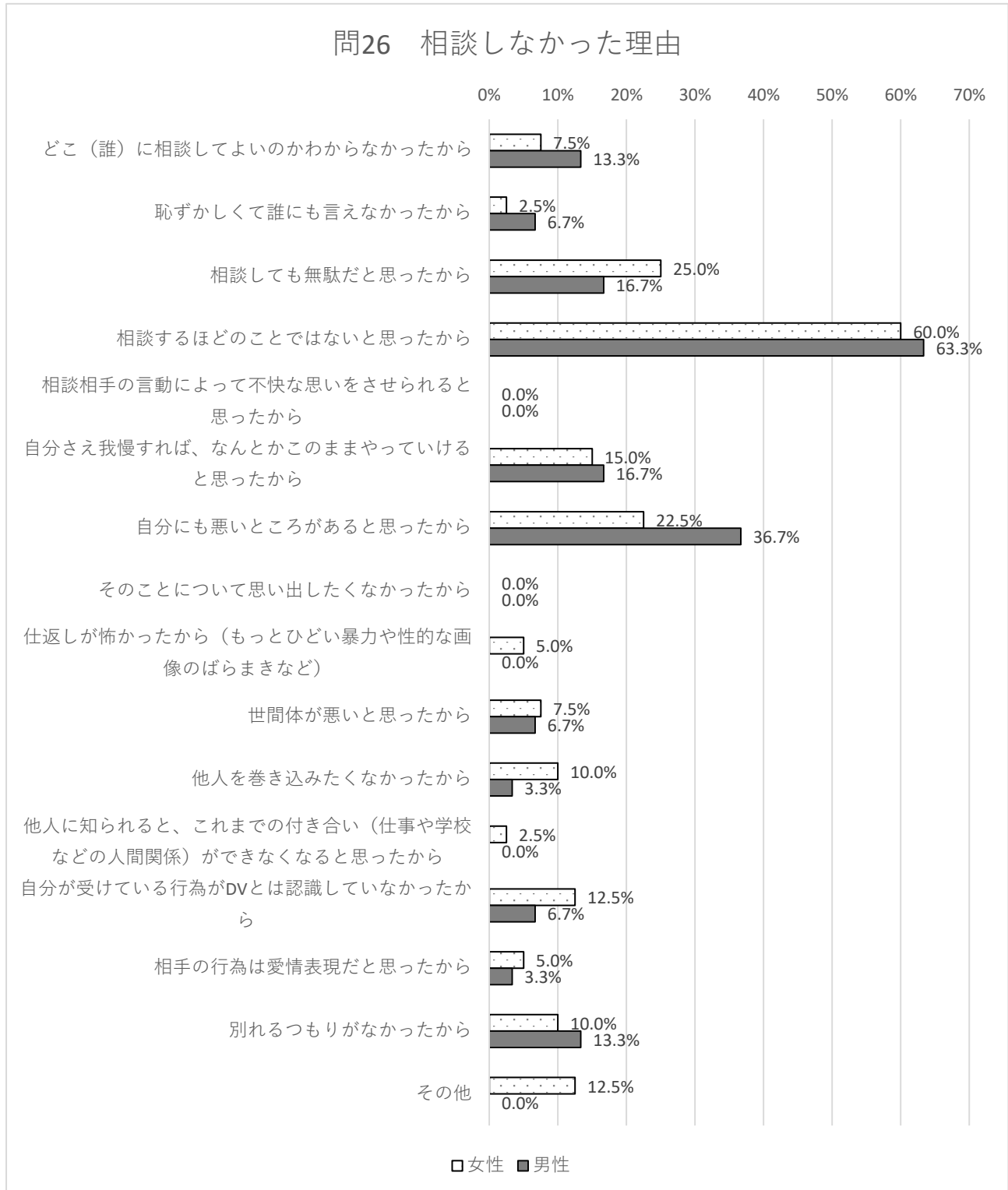


「その他」の記載内容

- ・ SNS で知り合った人に相談した（女性・40代）
- ・ 性格的な行動として理解して対応した。（女性・70代以上）
- ・ 本人と話し合った（女性・40代）
- ・ 相談ではなく話して聞いてもらっただけ（女性・60代）

問26 問25で「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。相談しなかったのはなぜですか。（複数回答）

相談しなかった理由としては、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」（女性60.0%、男性63.3%）がもっとも多くなっています。女性では次いで「相談しても無駄だと思ったから」（25.0%）が、男性では次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（36.7%）が多くなっています。



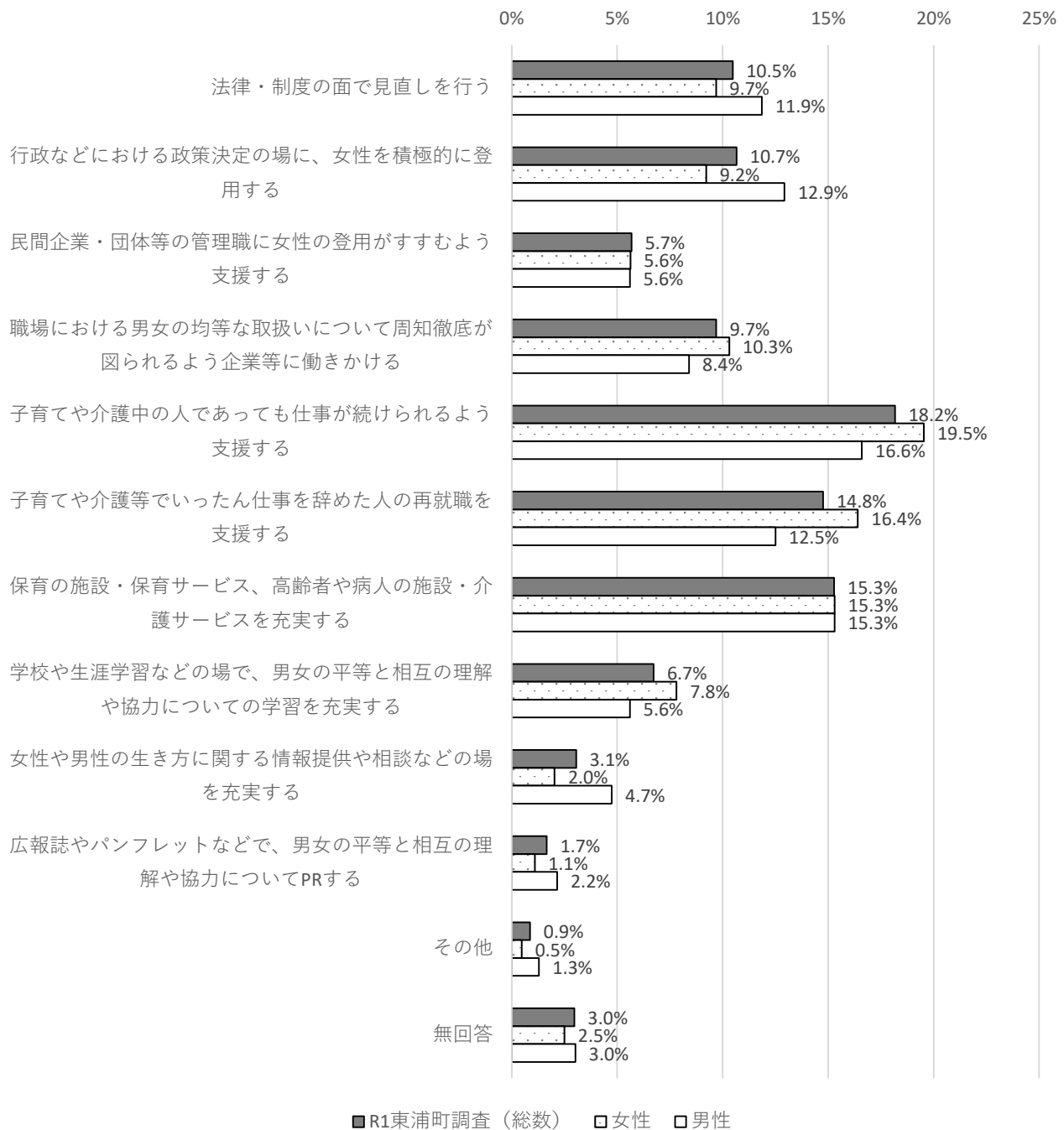
「その他」の記載内容

- ・ 育ち方など家庭内での考え方、性格的なことと理解して対応してきた（女性・70代以上）
- ・ 自分なりの報復をした（女性・40代）
- ・ 話し合えば解決すると思ったから（女性・40代）
- ・ ケンカの最中だったから（女性・40代）
- ・ 自分の方が正しいと思うから（女性・60代）

問27 男女共同参画社会を実現するために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

行政が今後力を入れていくべきこととして、最も割合が高いのは男女ともに「子育てや介護中の人であっても仕事が続けられるよう支援する」（女性 19.5%、男性 16.6%）となっています。2番目に高い回答は、女性では「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（16.4%）で、男性では「保育の施設・保育サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」（15.3%）となっています。

問27 行政が今後力を入れていくこと



「その他」の記載内容

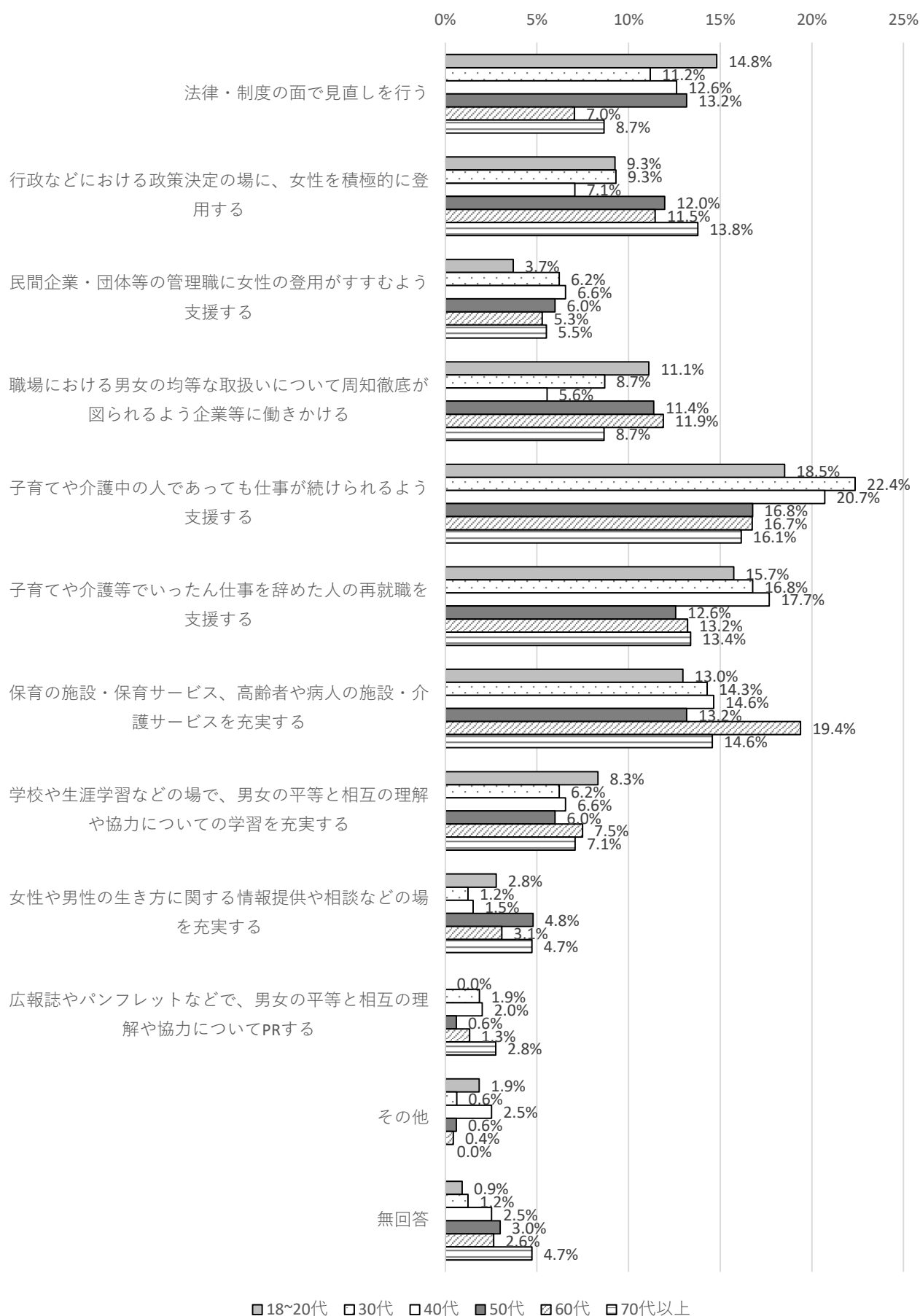
- ・ 女性だけではなく男性またはどちらでもない人に目を向けてほしい（女性・60代）
- ・ 保育現場の環境を良くする。子を預ける保育現場を良くしなければ保育士の職場離れが進み、社会的に女性の活躍はあり得ない（女性・18～20代）
- ・ 意識を変えていくようにする（男性・40代）
- ・ 差別と区別は別物と周知する。差があってもないような逆優遇をしない。（男性・60代）
- ・ 男女の身体能力の差を無くすための遺伝改造技術の確立。（男性・18～20代）

- ・ 無だに金を使わず税金で運営している事を考えて行動する。(男性・40代)
- ・ 男女平等になるわけがない(男性・40代)
- ・ 終身雇用を廃止して、アメリカのような就職システムにする(男性・30代)
- ・ 2. (行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する) 3. (民間企業・団体等の管理職に女性の登用がすすむよう支援する) 4. (職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底が図られるよう企業等に働きかける) の逆(男性・50代)
- ・ まず意識を変える必要があるのでは制度をつくっても利用されないと思う。意識改革が必要。(女性・40代)
- ・ 新しい考え方を学ぶことが一番早いと思います。ミロスアカデミーに行ったら学ぶことができます。(性別未回答・40代)

年代別に見ると、18～20代、30代、40代、50代、70代以上では「子育てや介護中の人であっても仕事が続けられるよう支援する」がもっとも高くなっており(18～20代で18.5%、30代で22.4%、40代で20.7%、50代で16.8%、70代以上で16.1%)、60代では「保育の施設・保育サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」(19.4%)がもっとも高くなっています。2番目に高い項目は18～20代では「法律・制度の面で見直しを行う」(14.8%)、30代、40代で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(30代で16.8%、40代で17.7%)、50代、70代以上で「保育の施設・保育サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」(50代で13.2%、70代以上で14.6%)、60代で「子育てや介護中の人であっても仕事が続けられるよう支援する」(16.7%)となっています。

世代間の差が最も大きいのは「法律・制度の面で見直しを行う」で、最も高い18～20代は14.8%であるのに対し、最も低い60代は7.0%と、7.8%の差があります。

問27 行政が今後力を入れていくこと（年代別）



問 28 あなたは、次の言葉を知っていますか。(単数回答)

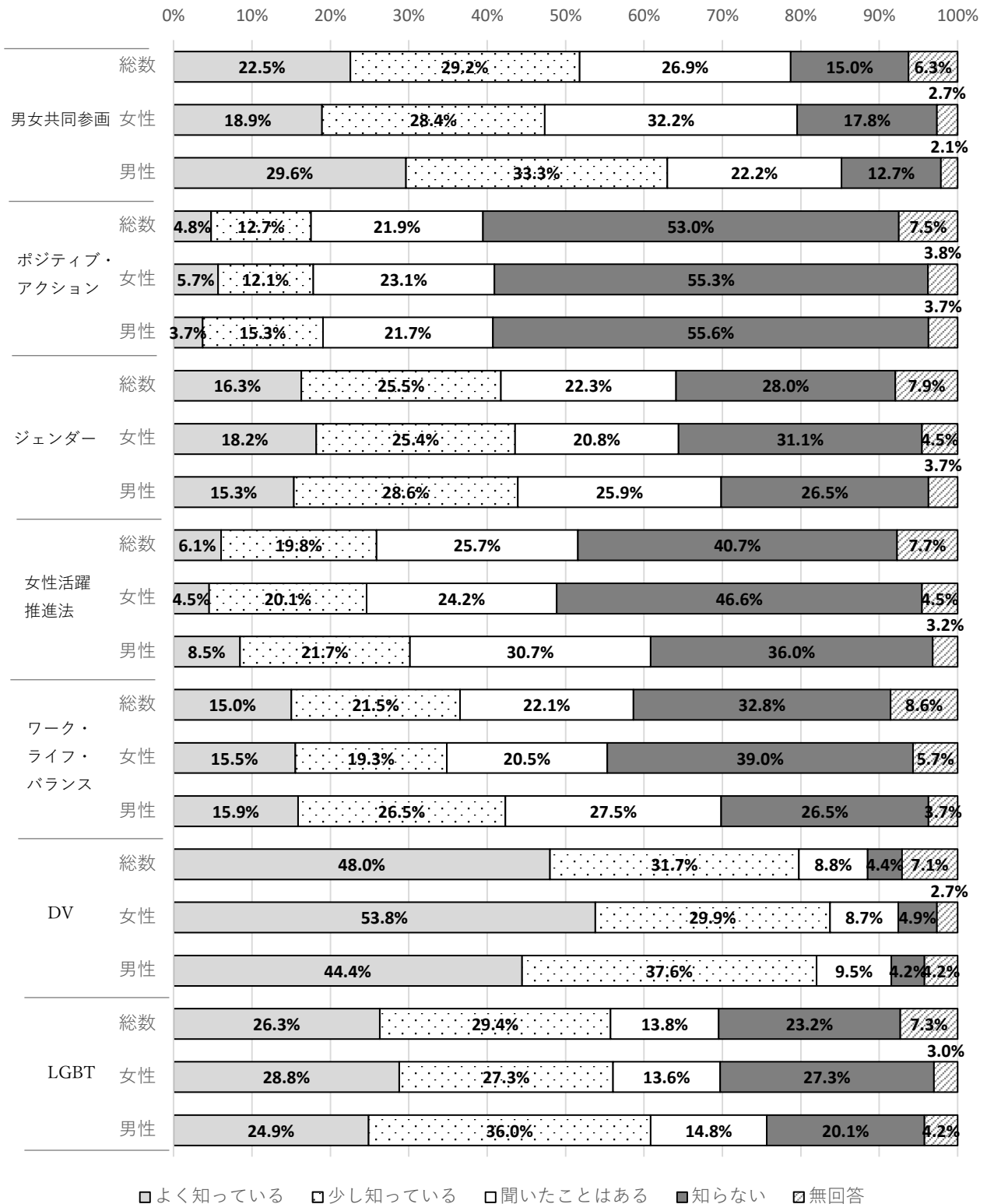
男女共同参画に関する用語のうち、もっとも認知度が高いのは「DV」で、「よく知っている」が48.0%、「少し知っている」が31.7%と、約80%の人が「知っている」と回答しました。

最も認知度が低いのは「ポジティブ・アクション」で、「よく知っている」(4.8%)、「少し知っている」(12.7%)を合わせた「知っている」と回答した人は17.5%でした。

今回の調査から新たに追加した「LGBT」については、「よく知っている」(26.3%)、「少し知っている」(29.4%)を合わせた「知っている」と回答した人の割合が55.7%となっており、「DV」に次いで「知っている」とした人の割合が2番目に高くなっています。

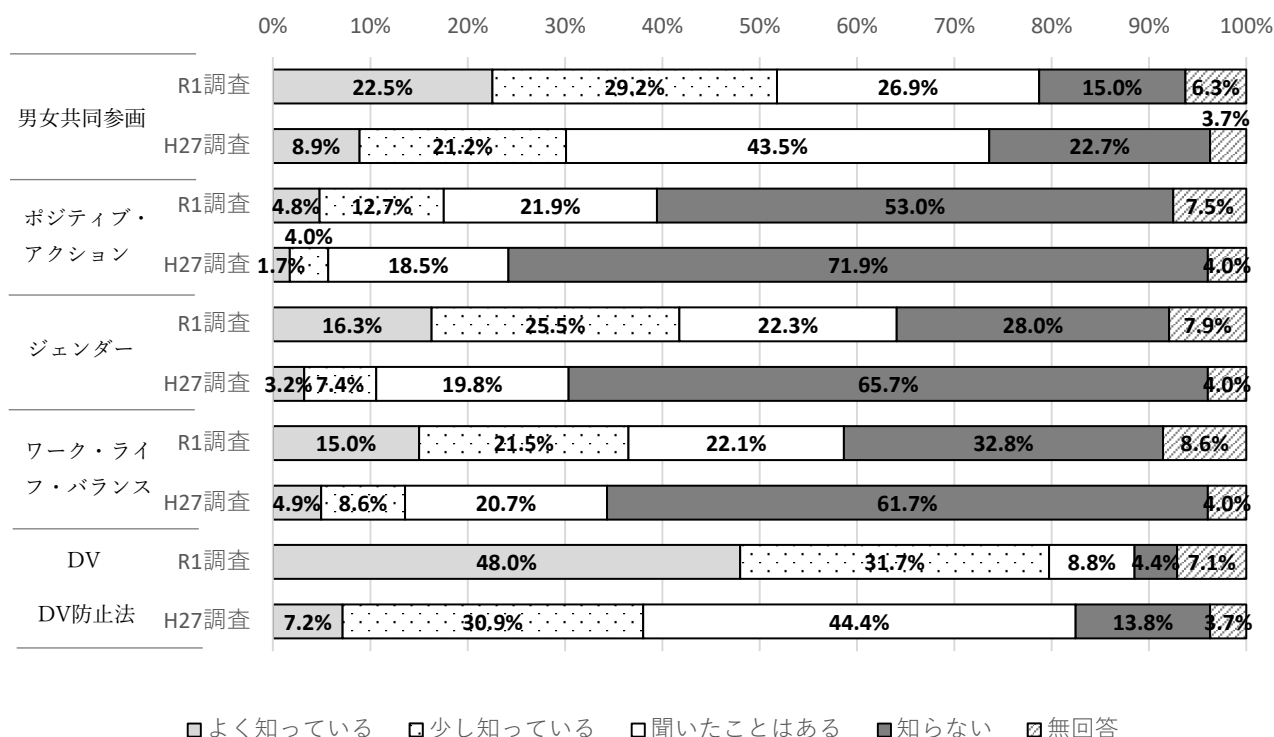
男女別にみると、用語の認知度にもっとも差があるのが「男女共同参画」で、女性では「よく知っている」「少し知っている」を合わせた割合が47.3%、男性では62.9%と15.6%の差があります。

問28 男女共同参画の用語の認知度



前回の調査と比較すると、男女共同参画に関する用語の認知度は全体に向上しています。「DV」の項目については前回調査では「DV 防止法」だったため単純に比較できませんが、「よく知っている」「少し知っている」と回答した人の合計は、「男女共同参画」の項目では21.6%、「ポジティブ・アクション」の項目では11.8%、「ジェンダー」の項目では31.2%、「ワーク・ライフ・バランス」の項目では23.0%増加しています。

問28 男女共同参画の用語の認知度（前回との比較）



自由記載欄回答

番号	性別	年齢	回答
1	女性	70代 以上	看護師として働いていた時、夫は家事は全くしてくれなかった、夜勤で疲れていてもすべて家事・育児は自分だけで、収入は主人より多いのに女性は損だと思っていました。今は主人が死去したからは、けんかしながら働いていた時は人生で一番楽しかったと思います。ご主人様ごめんなさい。
2	女性	40代	小学生の男児2人の子育てをしています、我が子には男だからやらない、やれないといった事が無い様に家事にも積極的に参加させています。
3	女性	60代	その人 その人でいいではないですか。みんないっしょというのは考えかたがちがうのでむずかしいと思う。
4	女性	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・家事や育児、介護など、男女関係なく行うべきである。 ・男性、女性の身体的特徴を理解したうえで平等に働く。 ・若い世代より、中年・高齢に男女平等を話すべきだと思う。 ・子供が熱を出した時、男性も休めるようにした方が良いと思う。 ・人は得意・不得意がある事をきちんと理解し、みとめる。
5	女性	30代	女性の中には、フルタイムで働いていても、家事や育児を自分がメインでやるべきと思っている人が多い。男性や周りに分担して行う事であるという認識を持てるとよいと思う。家庭も仕事も人と協力してまわしていけるようにしたい。
6	女性	20代	まったく関係ないかもですが、ゴミ袋、高すぎじゃないですか？大でも400円ってぼったくり。町民に金をまき上げるの良くないですよ。だいたい可燃ゴミは減らすのが大変です。不燃とかでなら…としてもやっぱり高すぎます。可燃ゴミの袋が高すぎて家計を圧迫してます。男女参画社会より、このゴミ袋問題が深刻です！
7	女性	60代	現実に男女平等は無理だと思う！職場、社会の意識改革が必要！
8	女性	70代 以上	男女平等にと云われている昨今やはり男性の方が良い仕事や女性でなければ少々無理がある仕事もあると思います。しかし、社会的に見て不平等だと感じる事のない平等は必要かと思います。
9	男性	40代	無理に女性を昇進させる必要や目標値を設定する必要はないし、本人が苦しむ

10	女性	70 代 以上	平等を何事も男女同じと思っている人が多い。男女各々の特性を活かした上での平等であるべきだと思う。
11	男性	60 代	次世代が担う、責務に対し、国、地方の支援を充実して欲しい。
12	女性	30 代	男女平等とあるが体力面や感覚的なものなどやはり得意不得意あると思います。無理にすべて平等にする必要はないんじゃないのかなと思います。生理など女性ホルモンで体調悪くても男性は理解出来ないだろうし、そんな中平等に働けと言われても出来ないうです。なので平等というのは…すこし反対です。
13	男性	70 代 以上	高齢者は除くべきではないか。
14	女性	60 代	女性が楽しく仕事ができることを望みます！！
15	女性	60 代	重要な仕事は男性がする事が多い。女性でもすぐれている人は多いと思う。男女関係なく力のある人が活躍できるとよい、と思います。
16	女性	40 代	男女平等はいいですが、あまりにも女性を優遇するような世間の流れはどうかと思います。
17	女性	60 代	高齢の方には男は○女は○があたりまえと思っている。実家は母が障害があったので力仕事、洗たくは父が行っていたので理解は高いと思う。夫の意識の問題と思う。男の子をもつ母親は男女かんけいなく育てることが大切と思う。
18	男性	50 代	特になし。国で決めて下さい。
19	女性	30 代	今私は1才2才児を育てていますが、他のお母さんから旦那さんが家事を手伝ってくれる人、全く手伝わない人両方の話を良く聞きます。2人で産んだ子供の育児を全く手伝えないのはいかななものかと思いますが会社としても男性が子供の為に休みを取りやすい制度があっても良いのかなと思います。子育てに関して夫婦で話を聞けるような講演があっても良いのかなと思います。
20	女性	70 代 以上	この頃きかせてもらった話しですがお茶 100 円コーヒで歌ったりして男女楽しく時間を過ごしているそうです。1人でも多く参加して下さいとのことです。私も機会があったらと今は思っています。なかなか……

21	女性	30 代	育児・介護は女性がたずさわっている事が多く、男性のかかわるが少なく感じる。家庭で分担ができるのなら、分担は当たり前だし、共働きなら尚そう思う。また、平等であるなら女性ももっと社会へ出ていき、男性と変わらない活動ができれば不平等も生じず、男性も不満を持つことなく、家庭への協力も出来るようになるのではないかと感じている
22	女性	70 代 以上	一口に男女共同参画といってもとても難しいですね。
23	男性	30 代	男性と女性は異なるものであると理解しているにもかかわらず、「平等」を目指すのはなぜですか？
24	女性	30 代	女性が多い職場で働いていますが、特に女性の進出や優遇はあまり感じません。PR している感はあるが、実際はまだまだ平等ではないのかなという感じはします。
25	男性	30 代	平等という言葉をしくと、1つのパンを2人で半分ずつにすると平等という感じがするけど、2人のうち1人が大人で1人が子供だとすると半分ずつ分けると平等ではない感じがする。じゃ大人はどれくらいの量で子供はどのくらいの量だと平等なのか？と考えても答えはでないので、男女平等も、どうしたらみんなが平等感をもてるかなんて答ええないのに「男女平等であるべき」と言ってる気がしてめんどろでならない。
26	男性	70 代 以上	男女平等と謳われて久しいが、現実は伴っていない。行政関係がかなり向上しつつあるも、民間は、かなり遅れている。推進が必要である。
27	女性	70 代 以上	小学生をみて今は女の子の方が成長（内面的）早く男の子の方が純粋を感じる。
28	男性	40 代	無理な女性の社会進出を進めるだけでなく、自然な型で能力がある者を代表として地域行政等社会進出させることが望ましいと感じる。無理の“ヒズミ”は、シワ寄せとなり、自身へ振りかかることとし、責任を持って進めてもらいたい。民間の会社より、役所関係の仕事の方が男性優ぐうされていると見えてしまうのは偏見であるのか事実か。発行元の町へ問いたい。
29	女性	40 代	PTA や婦人会など男女平等と言っている中、町内の活動はまだまだ古いままで、働いている女性の負担が増えている。ギャップがありすぎて今の世の中の動きにあっていない。

30	女性	70 代 以上	77 歳の高齢の女です。このアンケートに記する資格がないような。参考にならないやも、一応送りました。
31	男性	40 代	男女平等には大賛成だが、男性らしさ、女性らしさも大事にしたいと思います。あまり平等に対して過剰になり過ぎないのも大切ではないでしょうか。
32	女性	70 代 以上	幸いにもあまり男女差別を感じずに生きてこられました。（能力差、個人差はあると思っています）今後も、子供たちには、性別関係なく能力をどんどん伸ばしていった社会に役立つ活躍を期待しています。
33	女性	20 代	男女平等にしようと意識しすぎて、どちらかを優遇するとどちらからは批判の声が上がると何をやっても男女関係なく文句をいう人がいるなと思う。
34	女性	60 代	家庭・仕事（職場）どちらについても、まだまだ男性中心、優位と感じます
35	女性	30 代	子供の書類物への保護者名は必ず父親、どっちでもいいじゃん
36	女性	70 代 以上	平等とは何か、自分の行動に評価されるか、だと思っています。男女平等等是有り得ない、それぞれが違いがありそれをどのようにお互いが評価されて生活できるかだと思っています。
37	女性	50 代	男女平等とはいえ、やはりできることできないことが男女間にあり、それをきちんと認識できる・判別できるようにするのが大切だと思います。仕事は今の時代するのが当たり前であり、男女差を問題にするよりかは仕事の内容や制度を生活に合わせる様行政も考えてほしいです。
38	女性	30 代	男女平等と謳われつつも、しみついたジェンダー観を完全に排除することはほとんど不可能と思われる。性差があるので完全なる平等はむしろ不平等になるのではないかと矛盾を孕んでいる難しい問題。（追及する姿勢は持つべきだが折り合いのつけどころの見極めがカギと思われる。）
39	女性	50 代	日本の伝統的な考えにより結婚しても女性に負担が多くなります。女性が働くことが当たり前になっているので意識が変わって行ったら良いと思います。

40	男性	50 代	男女平等と言っても、体力や技能センスなど人それぞれなのでなかなか難しい所もある。お役所仕事はピンとこないが、生産現場は物を造って売ってナンボなので、キレイ事は言ってもらえない事もある。女性は都合が良い特別扱いは何も言わないので、何かおかしい（一部）セクハラもガイドラインがむずかしく、同じ事をカッコいい人が言っても OK、ブサイクな人や気に入らない人が言うとかダメみたいな事がよくある
41	女性	40 代	日本全体では男女平等とは言いがたいが、私の家庭内においては女性優位な状況にあると思う。私の場合はレアケースと思う。
42	女性	40 代	男女平等であってほしいと思っているが、男と女は別なものであり、性別が違うことを利用している自分が有ることを感じている。言っていることと、やっていることの矛盾があり、むずかしい。
43			人生 70 年弱ですが男女平等は理想でなかなか現実では、難しいと思います。女性は、子供を生み、育てる大切な仕事があり、三才までは母の愛情をたっぷり。男性と女性は役割分担でお互いに助け合いの精神だと思います。私は、結婚して 40 年間、主人の両親と、何円間は介護をし、94 才と 95 才で見送りましたが、仕事だと思って、介護をする事でストレスは少な目でした。
44	女性	40 代	お互いに認めあって、いいよの中になればよい
45	男性	70 代 以上	一般社会に於て、仕事の内容により、男女を区別している。男女共に働ける業務ありかた、道具、方法を考える。
46	女性	20 代	保育所や学童のおかげで働ける女性が増え、さらに男性の育休制度など男女平等への取組みが進んでいる。しかし、共働きでもなぜか家事育児は女性中心。社会の制度が変わっても、1 人ひとりの常識がなかなか変わっていかないなと感じます。もちろん、そうでない家庭もすでにたくさんあります。（夫婦で育休をとったり、送迎を分担したり。）そういう方々のことを、もっと多くの人が知る、気軽に学ぶ機会があると良いのかな？と思います。
47	女性	18～19 歳	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 号被保険者をなくす。 ・女性デーなど女性優遇があるなら男性もあるべき
48	女性	40 代	家事は女性の仕事と決めつけられている感じが（家庭内で）とても不平等だと思っている。

49	男性	50 代	男女平等において「差別」は良くないが、「区別」は必要。男と女は違う「いきもの」だから。その部分の違いが教育できていないし、社会的にも理解が進んでいない。一方で「差別」については、男が女を下にみるとか、男が取り上げられるが、逆に見ると女性も男性に依存して活きている点も多いと思う。その方が生きる上で楽だから。男も女も“自立”する考えが小さい頃から教育できていない。
50	女性	50 代	家事は女性、仕事は男性と考える風潮が根強く残っている気がします。夫婦共働き世帯が多い今日、手の空いた方が家事、育児をすべき！こうした固定観念をなくすため、子供の頃から学校等で教育すべきだと思います。育休についても男性も取得できるよう企業に働きかける。取得率が低すぎる。取得した事によって、昇進などに影響してはならないと言うような法律を作る。（すでにある？）出産復帰後の短時間勤務の充実。法律を作る。一旦退職し、短時間で仕事を持とうとすると非正規雇用となり、正社員との賃金格差が大きい。改善すべき。
51	男性	60 代	男と女は同じものではない。得意分野、各能力に違いがある。違うものを同じだとして扱ってはいけない。能力を伸ばす意欲があるなら、多少の援助は必要だが過剰な援助をすることは逆の不公平を生む。このバランスを取り違えている節が見受けられる。
52	男性	40 代	男性でも女性でも強い人、弱い人はいるので各々にあった仕事、生活をすれば良い。
53	女性	30 代	働き方改革等メディアで見るが、女性全員が働きたい訳でも正社員を希望している訳ではない。健康上、家庭、育児等様々な事情を抱えている。私は派遣で働いているが、3年経つと正規雇用されるのか、職を変えるのかせねばならず、派遣という立場が良くて選んだのだから、仕事に慣れた時に、この様な選択肢がないことに不満を感じます。派遣社員のままでいられる、仕事も変わらなくても良いという選択も加えてこそだと思います。子どもが小さいと負担が大きく、会社と家庭のバランスが難しくなることもあります。それと、アンケートとはそれますが、東浦駅の近くにも公園を作って欲しいです。子どもが外で元気に遊べる場所があまりに無いです。
54	男性	70 代 以上	東浦町では年寄りには住みにくい街ですヨ 税金が高すぎるヨ

55	男性	60 代	妻の長年の介護の為に、このアンケートに当てはまるか、分かりませんが、これからの時代、少しずつ会社、学校、家庭でも、女性の役割が増しているように思います。でもまだ職場（部署）によっては、男性優位な部分も多いので、これからもっと、いろいろな現場で、役割を増して行く方が、すごく良い方向になる様な気がします。女性の発言は、すごく説得力があり貴重ですね！
56	女性	70 代 以上	きにしていない。
57	男性	20 代	小学生のとき、生徒同士の喧嘩のようなものをしたとき、私は相手が女子でも男子の時と同様に殴っていたのですが、男子相手なら双方怒られたのですが、相手が女子の時は大抵私だけが起こられるのが、子ども心にも理不尽であると感じていました。
58	女性	40 代	根本的に身体づくりが男女で違うのだから、完全な男女平等は無理だと思います。女性が男性と同じだけ仕事をすれば、身体をこわします。お互いに尊重し合って、お互いにできることをして、できないことをおぎない合って、協力して生活できるような社会になるといいと思います。
59	女性	50 代	一人暮らしの女性にとっては生きにくい社会・地域だと思います。嫌なことをされても泣き寝入りすることばかりです。
60	男性	40 代	女性の政治家は女性が社会的に下とアピールしているが、けっきょくは自分が大切に女性の事を思ってる感じがしない。社会的に地位の高い女性は男性とかわらない。男女平等といっている人ほど異性を見下している。
61	女性	70 代 以上	私共は、老夫婦で夫は障害者であり、残された時間の方が短い生活でありますので、外でのコミュニティとか老人の集まり等に参加するより、1日でも1分でも、お互いの立場を思いやりそばで会話や、お互いの行動に思いやりを常に持ち、背中息づかいを見つめ合っの毎日の生活に満足しております。こういう男女平等もあるのです。

62	女性	30 代	<p>子育て中のお母さんが仕事を見つけることが難しいと思います。それでも仕事を見つけたりすると、条件が厳しく、祝日に休まないこと、休まないことを約束しないと採用されません。</p> <p>朝、子供の送りが大変だと思います。保育園の始まる時間は午前7時30分からと、ほとんどの会社の勤務時間の始まりは8時00分から、通勤時間も含めると急がないと間に合いません。</p> <p>夫の勤務条件では二交代と残業（一定ではありませんでした）、その為に子供の送り迎えに協力を頼ることが出来ませんでした。</p> <p>私は妊娠した時、当時働いた会社は2年6ヶ月が経ちましたけれども、社会保険の加入が無く、加入希望者は時給額から100円を引くことが条件でしたが、私は加入しませんでした。妊娠8ヶ月目まで働き、休まないように妊娠中の検診は土曜日に通い、出産休暇、育児休暇も有りませんでした。</p> <p>子供が1歳になった時、家庭の予算を助けるために、親族が居なく、預ける保育園も無く、夜勤の仕事を決めました(食品工場)。私は振り返って見ると、こどもと自分達も沢山苦勞をしましたので、こどもを生まない方が良かったと思うようになりました。</p>
63	女性	40 代	<p>私の思うことは、日本の会社の中では、まだ男女平等ではありません。事実は女性が男性と同じ仕事を行っても、男性の給料が多いです。平等になって欲しいです。</p>
64	女性	40 代	<p>夫の職場が忙しく、長時間労働・休日出勤が多く、家庭内での役割はほとんど持てない状況。家事に育児（大きくなっても習い事の送迎など）、地域役割（母の会、子供会、PTA 婦人会など）、仕事、どれだけの役割を一人でやらなくてはいけないのか。もっと働きたかったです。今時代の祖父母は若く忙しい方も多いです。近隣を含め、家庭内でどうにかする事も難しい。サービスを使うにはお金もいる。ジレンマです。</p>
65	男性	70 代以上	<p>子育ては基本的には女性メインで行うべき。男性・社会は子育ては最重要事項と位置づけ行動を取るべき。平等というよりお互い協力し合っていくのがよい。</p>
66	女性	20 代	<p>育児に関していえば、保育をさらに充実できれば女性も家庭に留まらず働き続けることができると思う。保育士の給料といった待遇が問題になっているが、もとをたどればそういった点に行きつくと思う。もっと子育てに優しい国になってほしいと切に思う。</p>

67	男性	60 代	基本的には男女平等は、個々人の能力、体力、性差等にてそれぞれの役割分担の基での平等を求めるものであると思います。社会地域においても能力等があれば、男女を問わずそれぞれの立場で平等性が保たれるものと思います。ただ、できない場合でも個々人で男女別なく何でも平等とは不思議に思います。
68	答えたくない・どちらでもない	40 代	色々あってわからない。質問と違うかもしれませんが、政治が変わなければ何も変わらないと思う。
69	女性	50 代	セクハラ・パワハラなどの批判を怖れての過剰な配慮が気になっています。自治会など以前は年配の男性が「おんな衆は・・・」と言っていたのを「女性の方は・・・」と言い換えたりしていて気の毒になってしまいました。女は男になれないし、男は女になれません。それぞれの特性を尊重し自身の肩肘張らずに受け入れて、すてきな男性、すてきな女性が増えるとうれしいです。
70	女性		まわりに協力してくれる人がいなくて子育てを1人でしなくてははいけない。子育てのため自分の好きな仕事につけない。男性は少なからず「稼いでるのは自分、文句があるなら同じくらい稼いで来い」と思っていて女性を下に見ている。
71	男性	40 代	男女平等になるわけない。どちらかといえば女性が優遇されている。
72	男性	20 代	男が働き女性が家庭を持つという固定概念は薄れてきていると思います。性別による役割にとらわれず協力し合う考え方は今後の人口維持と生産力維持のためには必要不可欠です。これからの日本経済を支えるには女性の手を借りなければいけないと考えますが、やはり子供にとっては両親そろってそばにいたことが) 大切だと感じますので、少子化を助長しない為にも家庭に時間を割きやすい社会づくりは今後も進めて頂きたいと存じます。
73	女性	70 代以上	年寄になり、運転免許証も返納し、足がなくなり「うらら」に知北霊園行きを作ってほしい。午前中2, 3本とか着いたら帰るほうが乗れるよう役場あたりで乗換とか。よろしくお願いします。
74	男性	70 代以上	口では男女平等と言いながら女性がもっと特質、本質を生かせる様、又意識をはっきりさせたい。

75	答えたくない・どちらでもない	70代以上	年輩の人ですので若い方に
76	女性	60代	男女平等なんて思った事ない。思えない。
77	女性	30代	男女平等とよく聞くが、平等の意味が分からない。特性が違うのだから、平等よりも理解が先だと思っている。理解ができなければその先の平等はむずかしいと思う。私は、男と女は生き物としてそもそも違うと思っている。
78	男性	50代	世界的に見ても日本のジェンダーギャップは世界ランキングで110位と低く、「意見の言語化」を図り格差を埋めていかなくてはいけないと思う。
79	男性	50代	性差があるのに、あたかもないかのように全てに同じにというのは個性の否定にもつながりかねない。性差によって自分が実現したいことができなかったり著しい困難を伴ったりすることが問題なのだと思います。
80	男性	50代	無理に男女平等を進めても逆効果。まわりの環境（社会）を整え、会社の仕組みを整えて全てを押し上げないとうまく行かない。
81	男性	50代	子育て、介護中の女性・男性への支援とその様な人を雇用している企業への間接的支援の両方が満たされないと、現実的にならないと思います。
82	女性	70代以上	今時の若い人達が羨ましく感じます。私達の時代、男らしく女らしくで育てられた時代です。私達の子供二人も家庭を持っていますが、食事の支度はとにかく後片付け掃除、子供の世話と協力合っています。最近少しずつ我が家もそれを見て手伝ってくれています。
83	男性	30代	仕事と育児、家事が忙しく特に考えることはない。
84	女性	60代	男女平等といわれてはいるが、まだまだ、男が上に立っている。女も働かないと生活が苦しい現状である。

85	女性	60 代	女が主張しすぎ、力仕事など男に頼るのに男にやらせすぎ。男は家に帰れば子供の世話、家事するのが当たり前にする女は、怠け者が多いように思う。男も消極的すぎる。情けない男が増えたように思われる。それぞれもっと自立自覚を持ってほしい、私は女だからと言い訳はしないでほしい。
86	女性	50 代	平等と感じられない。
87	男性	30 代	働きやすい環境、給与面の安泰。
88	男性	30 代	制度上の過剰な優遇はなくすべきだが（性別に関わらず）今の行政の動きを見ていると平等への是正というより女性優遇にしたいように見える。対立をあおるおようなやり方は一考していただきたい。
89	男性	50 代	男性、女性の事でこのようなアンケートをする事が男女差別だと思う。
90	女性	40 代	男女の性別よりも個人の個性を大切にしたい。
91	女性	70 代 以上	このアンケートは何の役に立つのでしょうか？男女平等と社会は言ってますが、現実はありません。住民としてはアンケートで税金を使うよりゴミ袋等、時に無料配布でもしていただければ？
92	男性	60 代	働く場面で活躍したいよ考えている女性は、もっと活躍できるようにしていくべきだが、単に或いは何となく職場にいて帰る女性もまだまだいる。女性が職場で活躍できるようにするのはもちろん大切だが、子を育てる（責任感を持った社会性のある子に育てる）ことを真剣に考えて、子を育もうと自然と思える社会を実現できないかを感じている。生物として性差があるのも事実なのだなあ。
93	女性	50 代	これから変わって行くと思いますが、現状は変わりなし。自分の子供に男の子であっても、家事を教えていこうと思っています。
94	女性	60 代	現在の世の中、男女平等に～とかよく聞きますが、やはり、男と女の役割は違うと思います。女性も子供を預けて（働け働け）といわれているような～。子供にとってそれは良いことでしょうか？ 大人のそんな世の中は、これからの未来を背おっていく子供達にどうでしょうか。母親にゆとりがなければ、すべて子供にしわよせがきます。どうかそんな世の中にしないようお願いします。

95	男性	70 代 以上	子供にとって母親の存在は大きい。父親は背中を見せて育てるのが良い。
96	男性	60 代	男女それぞれが従来の固定観念を変える為の意識改革が必要。中国社会に於ける男女共同参画の実態は日本よりかなり進んでいる様に感じる。(参考になるかもしれない)
97	女性	60 代	男女は平等であるべきだが、根本的に動物として男女は違うので、色々な事を決めるに当たってその事を細かく考慮して決めたり考えたりしなくてはいけないと思う。どこで働くにも男女を全く同じ条件にする事には無理があると思う。
98			早急には無理。長い時間、年月をかけて振り向いたらいい方向に気づかず成っていた位の気持ちが大切では？
99	女性	30 代	2019 年 4 月頃の東浦の議員選挙の時期など、応援署名をしてほしいという理由で男性の方(支援者)から無理やり名前を書かされそうになった事がある。男性だからといって、そういうことはしてはダメだと思うし、むしろ、応援すらしたくないと思った。この方は、70 代の男性でした。(近所の人) 又、近所だからといって自分目線であたりまえのように言ってきた。(名前を書けと)
100	男性	30 代	無理に平等にすることは無いと思うが、性別を元に不平等と感ずることがあってはならない
101	女性	50 代	テレビなどで女性〇〇とか初の女性〇〇というかんじで女性と最初につくのはどうなのかなあ…と思うことがある。
102	女性	50 代	これから自分の両親介護が控えているので時々外出しながらも、健康に気をつけて生活しています。
103	男性	70 代 以上	男女不平等と思われる点については、コミュニケーション不足が原因ではないか。一般に女どうしのコミュニケーションはいつ、どこでも大へんにぎやかである。一方男対男、男対女のコミュニケーションが不足しているように思われる。コミュニケーションが気軽にできるチャンスや場の設定を考えるべきではなかろうか。
104	女性	60 代	男女平等をはき違えているのか、ヒステリックな女性が上司の職場は気の毒!! 女性が強くなることは良いですが、感情むきだしはいかなものか? 役職者や議員さん等の教育が先なのでは…。
105	男性	50 代	国、県、市町村すべてに於いて、首長及び議員の女性の数が少なすぎると思います。民間企業の役員も女性が少なく、女性の天下りもあり聞かないように思います。